

独立行政法人日本芸術文化振興会の
平成28年度における業務の実績に関する評価

平成29年8月
文部科学大臣

様式1-1-1 中期目標管理法 年度評価 評価の概要

1. 評価対象に関する事項		
法人名	独立行政法人日本芸術文化振興会	
評価対象事業年度	年度評価	平成28年度(第3期)
	中期目標期間	平成25～29年度

2. 評価の実施者に関する事項			
主務大臣	文部科学大臣		
法人所管部局	文化庁文化部	担当課、責任者	芸術文化課、江崎 典宏
評価点検部局	大臣官房	担当課、責任者	政策課、岡村 直子

3. 評価の実施に関する事項	
平成29年7月7日	評価等に関する有識者会議委員に財務諸表を説明し意見を聴取した。
平成29年7月19日	独立行政法人日本芸術文化振興会において評価等に関する有識者会議を開催した。
平成29年7月25日	監事に対して、監査の実施状況等についてのヒアリングを実施した。
平成29年7月26日	理事長等の役員に対して、業務の実施状況等についてのヒアリングを実施した。
平成29年7月21日～31日	有識者会議委員に評価案を諮り意見を聴取した。

4. その他評価に関する重要事項
特になし

5. 独立行政法人日本芸術文化振興会の評価等に関する有識者会議 委員名簿
伊東 信宏 (大阪大学大学院文学研究科文化表現論専攻教授)
小玉 祥子 (毎日新聞社東京本社学芸部編集委員)
田辺 国昭 (東京大学大学院法学政治学研究科教授)
長野 由紀 (舞踊批評家)
宮島 博和 (公認会計士)
森西 真弓 (大阪樟蔭女子大学学芸学部国文学科教授)

1. 全体の評定							
評定 ^{※1} (S、A、B、C、D)	B	(参考) 本中期目標期間における過年度の総合評定の状況 ^{※2}					
			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
		業務の質の向上	A	B	B	B	
		業務運営の効率化	A				
財務内容の改善等	A						
評価に至った理由	法人全体の評価に示す通り、全体として中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。						

2. 法人全体に対する評価	
法人全体の評価	特に重大な業務運営上の課題は検出されておらず、全体として順調な組織運営が行われていると評価する。 ・文化芸術活動に対する援助については、中期計画及び年度計画に従い着実に実施されており、助成金の交付に係る定量的指標については全て目標値を上回っている。 ・伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演については、中期計画及び年度計画に従い着実に実施されており、特に伝統芸能分野における外国人向けの公演については意欲的に取り組んでいる。 ・伝統芸能の伝承者の養成、現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修については、中期計画及び年度計画に従い着実に実施されている。 ・伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用については、中期計画及び年度計画に従い着実に実施されており、特に伝統芸能分野における資料の収集・活用については、意欲的に取り組んでいる。 ・業務運営の効率化、財務内容の改善、施設・設備に関する計画及び人事に関する計画については、中期計画及び年度計画に従い着実に実施されている。
全体の評定を行う上で特に考慮すべき事項	特になし

3. 項目別評価における主要な課題、改善事項など	
項目別評定で指摘した課題、改善事項	・快適な観劇環境の提供、外国人来場者への対応等は2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け継続的に改善していくことが求められる。(P28、P44) ・インバウンド拡大への貢献という観点からも、外国人のための鑑賞教室については、成果の分析等を行い、体験型プログラムの実施等、事業の更なる拡充について検討する必要がある。(P48)
その他改善事項	特になし。
主務大臣による改善命令を検討すべき事項	特になし。

4. その他事項	
監事等からの意見	特になし。
その他特記事項	特になし。

※1 S：中期目標管理法の活動により、全体として中期計画における所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られていると認められる。A：中期目標管理法の活動により、全体として中期計画における所期の目標を上回る成果が得られていると認められる。
 B：全体としておおむね中期計画における所期の目標を達成していると認められる。C：全体として中期計画における所期の目標を下回っており、改善を要する。D：全体として中期計画における所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める。

※2 平成25年度評価までは、文部科学省独立行政法人評価委員会において総合評定を付しておらず、項目別評価の大項目について段階別評定を行っていたため、この評定を過年度の評定として参考に記載することとする。

様式1-1-3 中期目標管理法 年度評価 項目別評価総括表

中期目標(中期計画)	年度評価					項目別 調書No.	備考
	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度		
I. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置							
文化芸術活動に対する援助	A	/	/	/	/	1-1	
助成金の交付	A	B	A	A		1-1-1	
助成に関する情報等の収集・提供	A	B	B	B		1-1-2	
基金の管理運用	A	B	B	B		1-1-3	
伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演	A	/	/	/	/	1-2	
伝統芸能の公開	A	/	/	/	/	1-2-1	
伝統芸能の公開	A	/	/	/	/	1-2-1-1	
歌舞伎	A	A	B	B		1-2-1-1-1	
文楽	A	A	B	B		1-2-1-1-2	
舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能ほか	B	B	B	B		1-2-1-1-3	
大衆芸能	A	B	B	B		1-2-1-1-4	
能楽	A	B	A	A		1-2-1-1-5	
組踊等沖縄伝統芸能	A	B	B	B		1-2-1-1-6	
演目の拡充	A	B	B	A		1-2-1-1-7	
連携協力・地方における上演等	B	B	B	B		1-2-1-2	
快適な観劇環境の形成	A	B	B	B		1-2-1-3	
広報・営業活動の充実	A	B	B	B		1-2-1-4	
現代舞台芸術の公演	A	/	/	/	/	1-2-2	
現代舞台芸術の公演	A	/	/	/	/	1-2-2-1	
オペラ	A	B	B	B		1-2-2-1-1	
バレエ	A	B	B	A		1-2-2-1-2	
現代舞踊	A	A	A	A		1-2-2-1-3	
演劇	A	B	A	A		1-2-2-1-4	
連携協力・地方における上演等	B	B	B	B		1-2-2-2	
快適な観劇環境の形成	A	B	B	B		1-2-2-3	
広報・営業活動の充実	A	B	B	B		1-2-2-4	
青少年等を対象とした公演	A	/	/	/	/	1-2-3	
伝統芸能分野	A	B	B	A		1-2-3-1	
現代舞台芸術分野	B	B	A	B		1-2-3-2	
劇場施設の使用効率の向上等	A	/	/	/	/	1-2-4	
伝統芸能分野	A	B	B	B		1-2-4-1	
現代舞台芸術分野	A	B	B	B		1-2-4-2	

※重要度を「高」と設定している項目については、各評語の横に「○」を付す。

難易度を「高」と設定している項目については、各評語に下線を引く。

中期目標(中期計画)	年度評価					項目別 調書No.	備考
	25 年度	26 年度	27 年度	28年 度	29 年度		
伝統芸能伝承者養成・現代舞台芸術実演家等の研修	A	/	/	/	/	1-3	
伝統芸能の伝承者の養成	A	B	B	B		1-3-1	
現代舞台芸術の実演家等の研修	A	B	B	B		1-3-2	
調査研究の実施・資料の収集活用	A	/	/	/	/	1-4	
伝統芸能関係	A	/	/	/	/	1-4-1	
伝統芸能の調査研究	A	B	B	B		1-4-1-1	
伝統芸能の資料の収集・活用	A	B	B	A		1-4-1-2	
公演記録の作成・活用、普及活動の実施	A	B	B	B		1-4-1-3	
現代舞台芸術関係	B	/	/	/	/	1-4-2	
現代舞台芸術の調査研究	B	B	B	B		1-4-2-1	
現代舞台芸術の資料の収集・活用	B	B	B	B		1-4-2-2	
公演記録の作成・活用、普及活動の実施	A	B	B	B		1-4-2-3	
II. 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置							
業務運営の効率化	A	/	/	/	/	2-1	
効率化に関する取組	A	B	B	B		2-1-1	
給与水準の適正化等	A	B	B	B		2-1-2	
契約の適正化	A	B	B	B		2-1-3	
III. 財務内容の改善に関する事項							
予算、収支計画及び資金計画	A	B	B	B		3-1	
IV. その他主務省令で定める業務運営に関する事項							
人事に関する計画	A	B	B	B		4-1	
施設及び設備に関する計画	A	B	B	B		4-2	
積立金の使途	A	-	B	B		4-3	
その他振興会の業務運営に関し必要な事項	A	B	B	B		4-4	

※平成25年度評価までの評定は、「文部科学省所管独立行政法人の業務実績評価に係る基本方針」（平成14年3月22日文部科学省独立行政法人評価委員会）に基づく。

また、平成26年度以降の評定は、「文部科学省所管の独立行政法人の評価に関する基準」（平成27年6月文部科学大臣決定）に基づく。詳細は下記の通り。

平成25年度評価までの評定	平成26年度評価以降の評定
<p>S：特に優れた実績を上げている。（法人横断的基準は事前に設けず、法人の業務の特性に応じて評定を付す。）</p> <p>A：中期計画通り、または中期計画を上回って履行し、中期目標に向かって順調に、または中期目標を上回るペースで実績を上げている。（当該年度に実施すべき中期計画の達成度が100%以上）</p> <p>B：中期計画通りに履行しているとは言えない面もあるが、工夫や努力によって、中期目標を達成し得ると判断される。（当該年度に実施すべき中期計画の達成度が70%以上100%未満）</p> <p>C：中期計画の履行が遅れており、中期目標達成のためには業務の改善が必要である。（当該年度に実施すべき中期計画の達成度が70%未満）</p> <p>F：評価委員会として業務運営の改善その他の勧告を行う必要がある。（客観的基準は事前に設けず、業務改善の勧告が必要と判断された場合に限りFの評定を付す。）</p>	<p>S：中期目標管理法人の活動により、中期計画における所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られていると認められる（定量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の120%以上で、かつ質的に顕著な成果が得られていると認められる場合）。</p> <p>A：中期目標管理法人の活動により、中期計画における所期の目標を上回る成果が得られていると認められる（定量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の120%以上とする。）。</p> <p>B：中期計画における所期の目標を達成していると認められる（定量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の100%以上120%未満）。</p> <p>C：中期計画における所期の目標を下回っており、改善を要する（定量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の80%以上100%未満）。</p> <p>D：中期計画における所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める（定量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の80%未満、又は主務大臣が業務運営の改善その他の必要な措置を講ずることを命ずる必要があると認めた場合）。</p>

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1-1-1	助成金の交付				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人日本芸術文化振興会法 第14条第1項第1号	業務に関連する政策・施策	政策目標1.2 施策目標1.2-1 芸術文化の振興	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット(アウトカム)情報								②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)						
指標等		達成目標	前中期目標 期間最終年度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
公演等調査の実施状況※1	計画値	—	350件 ※2	400件 (調査回数)	400件 (対象活動数)	400件	400件			決算額(百万円)	4,816	4,679	4,604	4,794
	実績値	—	725件	965件 (調査回数)	528件 (対象活動数)	542件	534件			従事人員数(人)	20	20	22	23
	達成度	—	—	241.3%	132.0%	135.5%	133.5%							
会計調査の実施状況	計画値	—	350件 ※2	90件	90件	90件	90件							
	実績値	—	96件	93件	100件	102件	95件							
	達成度	—	—	103.3%	111.1%	113.3%	105.6%							
交付申請書受理から交付決定までの期間	計画値	前中期目標期間の実績(平均27.8日)以下	40.0日	35.0日	35.0日	35.0日	35.0日							
	実績値	—	20.9日	21.2日	27.1日	21.3日	24.2日							
	達成度	—	191.4%	165.1%	129.2%	164.3%	144.6%							

※1 公演等調査件数の計画値及び実績値は、25年度まで延べ調査回数、26年度より助成対象活動数。

※2 前中期目標期間における公演等調査及び会計調査実施件数の計画値は、両調査の合計件数。

1) 決算額は、印刷製本費、通信運搬費、賃借料、リース料、委員手当、諸謝金、旅費交通費、芸術文化振興基金助成費、特定寄付金助成費、文化芸術振興費を計上している。

2) 従事人員数は、基金部の常勤職員の人数を計上している。その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評価	A
1 文化芸術活動に対する援助 振興会は、我が国の文化芸術活動に対する援助に関する中核的拠点として、芸術の創造又は普及を図るための活動、地域の文化の振興を目的として行う活動などに対して、多様な資金を活用した文化芸術活動に対する助成金の交付及びこれらに関する情報提供などに積極的に取り組むこと。 (1) 助成金の交付 振興会は、水準の高い活動	1 文化芸術活動に対する援助 (1) 助成金の交付 ア 芸術家及び芸術団体等が実施する活動に対する助成金の交付 イ 助成金交付事務の効率化等 ① 審査方法等選考に関する基準の策定及び事前公表 ② 助成の成果等に対する評価等を踏まえた客観性・透明性の高い審査 ③ 助成対象活動の実施状況の調査	1 文化芸術活動に対する援助 (1) 助成金の交付 ア 基金の運用収入等を財源とし、次に掲げる活動に対して助成金を交付 ① 芸術家及び芸術団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動 (a) 現代舞台芸術の公演、伝統芸能の公開その他の活動 (b) 美術の展示、映像芸術の普及その他の活動 (c) 異なる芸術の分野の芸術家又は芸術に関する団体が共同して行う活	<主な定量的指標> ・ 公演等調査の実施件数 ・ 会計調査の実施件数 ・ 交付申請書受理から交付決定までの期間 <その他の指標> 特になし <評価の視点>	<実績報告書等参照箇所> 平成28年度業務実績報告書P3~8 <主要な業務実績> 1. 助成金の交付 ・ 基金による助成金: 交付件数718件、助成金交付額1,043,899千円 補助金による助成金: 交付件数320件、助成金交付額3,657,106千円 2. 助成金交付事務の効率化等 ・ 基金及び補助金による助成の全分野についての審	<評価と根拠> 評価: A ・ 公演等調査の件数、会計調査の件数及び交付決定に係る期間については計画を上回り、数値目標を達成できた。 ・ 基金及び補助金による助成の全分野についての審査基準の事前公表、「トップレベルの舞台芸術創造事業」の27年度の全助成対象活動に対する公演調査及び事後	<評価に至った理由> 評価すべき実績の欄に示す通り、中期計画及び年度計画に定められた以上の業務の実績が認められるため。 <評価すべき実績> ・ 助成金の交付に係る定量的指標については全て目標値を上回っている。 ・ 公演等調査の実施状況及び交付申請書受理から交付決定までの期間に係る指標については、いずれも120%以上の成果を達成している。	

<p>への助成、その普及や地域性等にも配慮した幅広く多様な助成とのバランスを図り、より効果的で戦略的な支援を行うことを目標として、次に掲げる活動に対し助成金を交付すること。</p> <p>また、助成事業の実施に当たり、交付申請書受理から交付決定までの期間については、前中期中目標期間の実績以下とするとともに、より効果的かつ効率的な助成を行うために、助成対象活動の実施状況及び当該分野の現状等の調査を実施し、事業に反映させること。</p> <p>① 芸術家及び芸術に関する団体が行う芸術の創造又は普及を図るための公演、展示等の活動</p> <p>② 文化施設において行う公演、展示等の活動又は文化財を保存し、若しくは活用する活動で地域の文化の振興を目的とするもの</p> <p>③ その他、文化に関する団体が行う公演及び展示、文化財である工芸技術の伝承者の養成、文化財の保存のための伝統的な技術又は技能の伝承者の養成その他の文化の振興又は普及を図るための活動</p> <p>なお、文化芸術への支援策をより効果的に機能させるため、平成28年度から本格導入する新たな審査・評価等の仕組みについては、検証を行い、その結果を踏まえて、より一層の審査・評価の効率的かつ効果的な実施を図る観点から、文化庁と連携して、国際芸術交流支援事業の一元化を含む芸術文化振興のための助成事業の在り方を現行中期中目標期間中に検討すること。</p>	<p>④ 助成対象分野の現状等の調査</p> <p>⑤ 地方公共団体との連携協力の推進</p> <p>⑥ 情報通信技術等を活用した申請手続き等の合理化</p> <p>オ プログラムディレクター及びプログラムオフィサー等を活用した新たな審査・評価の仕組みについての検証、国際芸術交流支援事業の一元化を含む芸術文化振興のための助成事業の在り方の検討</p>	<p>動、特定の芸術分野に分類困難な活動等</p> <p>② 地域の文化の振興を目的として行う活動</p> <p>(a)文化会館、美術館その他の地域の文化施設において行う公演、展示その他の活動 (b)伝統的建造物群、遺跡、民俗芸能その他の文化財を保存し、又は活用する活動</p> <p>③ 文化に関する団体が行う文化の振興又は普及を図るための活動</p> <p>(a)アマチュア、青少年等の文化団体が行う公演、展示その他の活動 (b)文化財である工芸技術又は文化財の保存技術の復元、伝承その他文化財を保存する活動</p> <p>イ 文化芸術振興費補助金を財源とし、次に掲げる活動に対して助成金を交付</p> <p>① 我が国の芸術団体の水準向上及び鑑賞機会の提供拡大を図る優れた舞台芸術の創造活動</p> <p>② 優れた日本映画の製作活動</p> <p>ウ 助成金交付事務の効率化等</p> <p>① 前年度に引き続き、基金による助成と補助金による助成の全分野に係る審査基準を策定し、ホームページ等で事前公表</p> <p>② 専門委員及び専門調査員並びにPD・PO等による公演等調査を実施、補助金による助成対象活動のうち音楽、舞踊、演劇及び伝統芸能・大衆芸能の4分野について調査結果を踏まえて事後評価を実施、結果を次年度の助成対象活動採択のための審査等に活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公演等調査：400件以上(助成対象活動数) ③ 職員による会計調査を実施、PD・POが中心となって助成対象団体との意見交換を実施 ・ 会計調査：90件以上(団体数) <p>④ 助成対象分野の現状等の調査分析</p> <p>⑤ 助成対象活動の収支の状況、団体の意識・取組等に係る情報を収集・整理、経年の変化や分野別の特徴・傾向などを調査分析、随時ホームページを</p>	<p>(27年度評価で指摘された取り組みべき課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 芸術文化活動に対する助成に必要な調査研究については、国の施策の動向、芸術団体の意向等も踏まえ、継続的に実施していくことが望まれる。 <p>また、調査研究の結果については、引き続き広く公開を図るとともに一層の活用を図ることが望まれる。</p>	<p>査基準を事前公表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年度により審査基準の解釈に大きなずれを生じないようにするため、審査基準ごとの審査の際の留意点等について分野別に整理した「審査基準申し合わせ」を策定 ・ 「舞台芸術創造活動活性化事業(27年度まで「トップレベルの舞台芸術創造事業」)」のうち音楽分野(オーケストラ及びオペラ)・年間活動支援の助成対象団体に適用される「入場料収入連動型」助成について、助成金算定の際に入場料収入に乗じる「係数」の具体的な数値及び考え方について検討・策定 ・ 助成対象活動の採択に際し専門委員が行う書面審査について、審査基準に基づくより客観的な審査を行うため、従来の活動単位で評価する方式から審査基準ごとに評価する方式へ転換 ・ 公演等調査 534件(助成対象活動数、延べ調査回数は1,289回、不採択その他の活動の調査を含めると569件、延べ1,325回)、会計調査 95件(団体数)を実施 ・ 「舞台芸術創造活動活性化事業」については、全ての助成対象活動について公演調査を実施 ・ 「トップレベルの舞台芸術創造事業」の27年度の全ての助成対象活動について事後評価を実施し、助成対象団体に対する評価結果の伝達及び団体の運営に関する助言等を行うとともに、専門委員会に対して事後評価結果に関する情報提供を行い、29年度の助成対象活動の採択に係る審査に活用 ・ PD・POが助成対象団体との間で助成対象活動や団体の運営に対する助言や意見交換を行うとともに、助成対象分野の状況を把握 ・ 芸術文化活動に対する助成に必要な調査研究を実施、報告書をホームページに公開 	<p>評価の実施、新たなテーマの調査研究の実施等、積極的な取組を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 芸術文化振興のための助成事業の在り方については、文化庁と協議を行い、振興会で実施している助成事業との一体的な運用の観点から「劇場・音楽堂等活性化事業」の移管準備を円滑に進めた。 <p><課題と対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き、透明性の高い審査や公正な事後評価等の在り方について検討を行い、より有効かつ適切な助成制度の構築に努める。特に、事後評価については、助成対象団体に評価結果を正確かつ確実に伝達し、団体における評価結果を踏まえた活動の企画立案や運営の改善等を促進するため、評価結果を書面で通知する。また、助成金の効果について国民全体に対し説明責任を果たすため、評価結果の公表について必要な検討を行う。 ・ 「審査基準申し合わせ」については、分野ごとの実態を踏まえ、必要に応じて内容の見直しを行う。 ・ 調査分析については、助成事業に有効に活用できるよう、適宜内容を見直すとともに、必要なものは継続的に実施する。また、現在継続している調査研究との連携や相乗効果についても十分配慮しつつ、助成事業の充実に必要となる新たな調査テーマにも取り組む必要がある。 ・ 「助成金の電子申請に関する実態調査」の結果を受け、導入の費用対効果を十分に検討し、平成31年度の助成システム更新に合わせて助成金交付事務の改善を図っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 助成の全分野について審査基準を事前公表するとともに、新たに分野別の「審査基準申し合わせ」を策定したことは審査の透明性を向上させる取組として評価できる。 ・ 「トップレベルの舞台芸術創造事業」に係る27年度助成活動の全てに対する事後評価の実施等、助成金交付施策の検証により、助成事業の更なる適正化が図れている。 ・ 書面審査について、従来の活動単位で評価する方式から審査基準毎に評価する方式に転換したことにより審査の適正性が更に向上したのものとして評価できる。 <p><今後の課題・指摘事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな審査・評価の仕組みについては、調査研究の実施、ネットワークの構築等を図り、連携・強化を図ることが求められる。 ・ 基金運用収入の将来予測等を踏まえ、助成事業の在り方について検討を進めることが求められる。 <p><有識者からの意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公演調査や交付期間の目標は120%を超えるかたちで達成している。審査基準を事前に公表し、また分野別の審査基準申し合わせを作成することによって、審査の透明性と公平性の増大に寄与した。また、助成活動の事後評価を実施し、さらに、これを助成団体へとフィードバックすることによって審査から事後評価までの一連のPDCAサイクルが構築されたことの意義は大きいと評価できる。
---	--	---	--	---	---	---

		<p>通じて成果を発信</p> <p>⑥ 地方公共団体と連携・協力し、地域文化振興活動等の応募書類受付業務等を効率化</p> <p>⑦ 応募書類の電子データによる受付等の実施について検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 助成事業の交付申請書受理から交付決定までの期間：35 日以下 <p>キ PD・PO 等を活用した審査・評価の仕組みについて、文化庁と連携し、試行的取組の成果を踏まえ助成に係る業務の精度を向上</p>				
--	--	---	--	--	--	--

4. その他参考情報						
特になし						

様式1-1-4-1 中期目標管理法人 年度評価 項目別評価調書(国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項)

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1-1-2	助成に関する情報等の収集・提供				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人日本芸術文化振興会法 第14条第1項第1号	業務に関連する政策・施策	政策目標12 文化による心豊かな社会の実現 施策目標12-1 芸術文化の振興	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット(アウトカム)情報								②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)						
指標等		達成目標	前中期目標 期間最終年 度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
ホームページ アクセス 件数	計画値	前中期目標期間の実績(平均128,422件)以上	126,000件	129,000件	129,500件	129,500件	130,000件			決算額(百万円)	9	8	11	11
	実績値	-	124,887件	141,800件	148,541件	159,690件	188,253件			従事人員数(人)	20	20	22	23
	達成度	-	99.1%	109.9%	114.7%	123.3%	144.8%							

1) 決算額は、新聞図書費、印刷製本費、通信運搬費を計上している。
2) 従事人員数は、基金部の常勤職員の人数を計上している。その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評価	B
1 文化芸術活動に対する援助 (2) 助成に関する情報等の収集・提供 振興会は、文化芸術活動に対する援助に関する事業の中核的拠点として、集積した情報のデータベース化や、文化芸術活動への助成に関する情報等の収集・提供を推進すること。また、ホームページの中期目標期間のアクセス件数について前中期目標期間の実績以上とすること。	1 文化芸術活動に対する援助 (2) 助成に関する情報等の収集及び提供 文化芸術活動に関する情報を収集 データベース化やホームページを通じた提供等を推進、内容の充実化 ホームページの中期目標期間のアクセス件数について前中期目標期間の実績以上	1 文化芸術活動に対する援助 (2) 助成に関する情報等の収集及び提供 ア 官民の文化芸術活動への支援に関する情報を収集、ホームページ等を通じて提供 ・ 芸術文化振興基金ホームページ目標アクセス件数：130,000件 イ 振興会が実施する助成事業について、ホームページでの情報提供を充実、助成対象活動の事例集を作成・配布するとともにホームページに掲載 ウ 助成対象活動の募集に当たり、ホームページへの情報掲載を行うとともに	<主な定量的指標> ・ ホームページアクセス件数 <その他の指標> 特になし <評価の視点> (27年度評価で指摘された取り組むべき課題) 特になし	<実績報告書等参照箇所> 平成28年度業務実績報告書P9~10 <主要な業務実績> 1. ホームページの利便性の向上 ・ 28年度アクセス件数：188,253件(目標130,000件) 2. 助成事業の周知 ・ 文化芸術活動に対する助成システムの機能(専門的な助言、審査、事後評価及び調査研究等)強化についてホームページで紹介するとともに、広報用のリーフレットを配布 ・ パンフレット、ポスター、チラシ等により事業を周知 ・ 助成対象活動の事例集を作成 3. 助成対象活動の募集 ・ 助成事業の内容や応募手続について説明する動画をホームページ上で公開 ・ 舞台公演情報サイトやチケット販売サイト、検索エンジン等のホームページにおいて、助成対象活動募集のバナー広告を掲載(9月上旬~10月下旬) ・ 関係団体の会報やメールマガジンにおいて募集に関	<評価と根拠> 評価：B ・ 事業の周知に広く取り組んだほか、ホームページのアクセス件数については数値目標を大きく上回る実績を達成できた。 ・ 文化芸術活動に対する助成システムの機能強化に関し、ホームページ及びリーフレットにより、積極的に周知を図った。 ・ 助成事業や応募手続について説明する動画を公開し、基本的な情報を容易に得られる環境を提供した。さらに、応募相談会等を実施することにより、団体の個別の関心事項にきめ細かく対応することができた。 <課題と対応> ・ 29年度には「劇場・音楽堂等活性化事業」が文化庁から移管され、当振興会がその募集・審査を実施することとなるため、文化庁とも連携の上、劇場、音楽堂等その他関係者に混乱を来すことがないように、当該事業に	<評価に至った理由> 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 <評価すべき実績> ・ ホームページ等の改善、応募相談会の地方開催、助成事業や応募手続の動画による公開などの取り組みは、応募者の視点に立った継続的な改善として評価できる。 <今後の課題・指摘事項> ・ 文化庁からの移管事業の実施に当たっては、文化庁等と十分な連携を図り、関係者に混乱を来すことがないように適切に実施する必要がある。 <有識者からの意見> -	

		に、地方公共団体及び全国の公立文化施設等にポスター等を配布 エ 応募相談会を、東京及び大阪に加え、各道府県及び政令指定都市の希望を考慮して開催	する広報を実施 4. 助成事業に関する応募相談会等の開催 ・ 団体の個別の関心事項にきめ細かく対応するための「応募相談会」を全国5会場で実施 ・ 採択団体の事務手続を円滑に進めるための「事務手続個別相談会」を全国4会場で実施	関し適切な情報発信を行うほか、既存の助成事業その他関連の情報についてもさらに情報提供の充実に努める必要がある。	
--	--	--	---	---	--

4. その他参考情報

特になし

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1-1-3	基金の管理運用				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人日本芸術文化振興会法 第14条第1項第1号	業務に関連する政策・施策	政策目標12 文化による心豊かな社会の実現 施策目標12-1 芸術文化の振興	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ													
①主要なアウトプット(アウトカム)情報							②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)						
指標等	達成目標	前中期目標期間最終年度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
								決算額(百万円)	1,732	1,342	1,116	1,126	
								従事人員数(人)	7	7	7	7	

1) 決算額は、基金運用収入を計上している。

2) 従事人員数は、経理課の常勤職員の人数を計上している。その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評価	B
1 文化芸術活動に対する援助 (3) 芸術文化振興基金の管理運用 振興会は、安全性に留意しつつ、客観性及び透明性の確保を図りながら、資金の確保に努めること。	1 文化芸術活動に対する援助 (1) 助成金の交付 ウ 芸術文化振興基金の安全かつ安定した管理運用 エ 外部資金の確保	1 文化芸術活動に対する援助 (1) 助成金の交付 エ 基金の管理運用について、安全性に留意するとともに、資金内容及び経済情勢の把握に努め、資金管理委員会において運用方針、金融商品等の検討を行い、効率的な方法により実施 オ 芸術文化振興基金賛助会制度及び社会貢献信託制度の周知、基金の受入拡充 カ 芸術文化復興支援基金による助成について、対象となる地方公共団体の意向を十分に踏まえ、被災地の状況にあわせた効果的な支援を実施	<主な定量的指標> 特になし <その他の指標> ・ 芸術文化振興基金の運用の状況 ・ 芸術文化振興基金への寄附の状況等 <評価の視点> (27年度評価で指摘された取り組むべき課題) ・ 金利の低下等を踏まえ、引き続き、運用の工夫及び寄附の受入拡充等に努めることが望まれる。	<実績報告書等参照箇所> 平成28年度業務実績報告書P11~12 <主要な業務実績> 1. 基金の管理運用 ・ 基金運用益：1,128,731千円、利回り1.66% ・ 再運用等については地方債により運用を行った。 2. 資金の受入拡充 ・ 基金への寄附：28年度実績11件600,438,000円(27年度実績600,440,000円、2,000円の減) ・ 芸術文化復興支援基金への寄附：28年度実績918,366円(27年度実績1,834,061円、915,695円の減)	<評価と根拠> 評価：B ・ 基金及び芸術文化復興支援基金において、寄附の受入拡充及び広報等の取組を実施した。 ・ 芸術文化復興支援基金については、これを原資として、岩手県、宮城県及び福島県の3団体に対し助成金を交付し、文化芸術による復興支援に寄与した。 <課題と対応> ・ 基金の管理運用については、安定性・安全性を重視しつつ有利な運用に努めているところであるが、近年金利が低い局面が常態化していることから、引き続き、資金の受入れの拡充等に努力しつつ、基金運用収入の長期的な見込みに基づいた最適な助成事業の在り方について検討を進める必要がある。	<評価に至った理由> 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 <評価すべき実績> — <今後の課題・指摘事項> — <有識者からの意見> —	

4. その他参考情報

特になし

様式1-1-4-1 中期目標管理法 年度評価 項目別評価調書(国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項)

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1-2-1-1-1	歌舞伎				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人日本芸術文化振興会法 第14条第1項第2号	業務に関連する政策・施策	政策目標12 文化による心豊かな社会の実現 施策目標12-1 芸術文化の振興	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ															
①主要なアウトプット(アウトカム)情報								②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)							
指標等		達成目標	前中期目標期間最終年度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
公演数	計画値	年間7公演程度	8公演	7公演	7公演	7公演	7公演			決算額 収入(百万円)	801	778	815	1,153	
	実績値	—	8公演	7公演	7公演	7公演	7公演			決算額 支出(百万円)	800	817	861	998	
	達成度	—	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%			従事人員数(人)	6	6	6	6	
入場者数	計画値	前中期目標期間の実績(計1,124,629人)以上	243,300人	223,290人	225,000人	226,500人	248,500人								
	実績値	—	238,598人	225,019人	214,922人	225,458人	256,531人								
	達成度	—	98.1%	100.8%	95.5%	99.5%	103.2%								

1)決算額は、
・振興会：各ジャンルの入場料収入及び公演費を計上。
2)従事人員数は、各館の制作担当常勤職員の人数を計上している。
・歌舞伎(歌舞伎課)
その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評価	B
2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 伝統芸能の保存振興及び現代舞台芸術の振興普及を図るため、前中期目標期間の実績を踏まえ、より多くの人が幅広い分野の公演を鑑賞することを目標とし、伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演を行うこと。また、以下の観点からこれらの公演の充実等を図ること。 (1) 主催公演	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (1) 伝統芸能の公開つとめて古典伝承のままの姿で公開 ア 歌舞伎公演 筋の展開が理解しやすい「通し狂言」での上演、上演の途絶えた優れた演目・場面の復活、新作の上演、解説を付した公演等の実施、年間7公演程度 (4) 伝統芸能の公開の実施に際しての留意事項等	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (1) 伝統芸能の公開 ア 伝統芸能の保存と振興を図るため、中期計画の方針に従い、別表1のとおり主催公演を実施	<主な定量的指標> ・ 公演数 ・ 入場者数 <その他の指標> ・ 通し狂言の上演を基本とし、上演の途絶えた優れた演目・場面の復活、新作の上演、解説を付した公演の実施 <評価の視点> (27年度評価で指摘された取り組むべき課題)	<実績報告書等参照箇所> 平成28年度業務実績報告書P15～18 <主要な業務実績> 1. 公演実績 ・ 歌舞伎5公演、歌舞伎鑑賞教室2公演を計画どおり実施 ・ 国立劇場開場50周年記念公演を実施(10月以降の全公演) ・ 歌舞伎公演全体で目標入場者数を達成(達成度103.2%)するとともに、独法化以降最高入場者数を記録 ・ 上演機会の少ない場を網羅した「仮名手本忠臣蔵」の3か月連続完全通し狂言の上演	<評価と根拠> 評価：A ・ “通し狂言”“上演が途絶えていた場面の復活”“復活狂言の再演”という制作方針に従い、義太夫狂言の大作「仮名手本忠臣蔵」を現在上演できるすべての場を網羅して完全通し上演したほか、復活狂言「伊賀越道中双六」の再演など、各公演とも充実した内容の舞台を制作し、外部専門家等から企画内容を高く評価された。 ・ 江戸時代後期から明治にかけて刊行された合巻(長編小説)を原作として、原作の面白い趣向や設定を活かしながら、新たな脚本を作成し、国立劇場の舞台機構を最	<評価に至った理由> 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 自己評価ではA評価であるが、今後の課題・指摘事項に示す点について、更なる改善を期待したい。 <評価すべき実績> ・ 「仮名手本忠臣蔵」を現在上演できるすべての場を網羅した完全通し上演、復活狂言「伊賀越道中双六」の再演など、各公演とも充実した内容の舞台を制作したことは評価できる。 ・ 外国人のための歌舞伎鑑賞教室について、回数の増加、英語字幕表示の実施等、更なる充実を図ったことは、国際化に向けた取組として	

<p>ア 伝統芸能を古典伝承のままの姿で公開するよう努めること。</p> <p>ウ 公開・公演の目的、期待する成果等を明確にし、外部の専門家等からの意見や鑑賞者の要望等を踏まえた評価等を行い、事業の充実に反映させること。</p> <p>エ より幅広く多くの人が鑑賞することを目指して、分野ごとに前中期目標期間の実績を超えるよう、個々の公演において、適切な鑑賞者数の目標を設定し、その達成に努めること。</p>	<p>エ 国立劇場開場 50 周年記念公演等の各種記念事業の実施</p>		<ul style="list-style-type: none"> 「Discover KABUKI ー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」における成果や課題については、今後、文楽等の他の分野において同様に外国人向けの公演を実施する際には、法人内で共有、活用される必要がある。 目標が未達となっている公演については、その要因を分析し、目標の達成に努めることが求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> 原作の面白い趣向や設定を活かした新たな脚本による「しらぬい譚」の上演 44年ぶりに復活した「岡崎」を含む通し狂言「伊賀越道中双六」を台本・演出を見直して再演 27年度に初めて実施した外国人向けの公演「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」を、公演回数を2回に拡大して開催 <p>2. 営業・広報</p> <ul style="list-style-type: none"> マスコミ各社への記者会見や取材依頼のほか、各種媒体により公演情報を周知 国立劇場開場 50 周年記念公演や公演演目に因んだイベントの実施のほか、幅広いニーズに応える観劇プランの提供やDMの定期的な送付等、多様な取組による誘客 6月歌舞伎鑑賞教室内の企画「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」の広報・営業活動を通して、外国人に対するアピールを強化 <p>3. 外部専門家等の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部専門家等の意見を聴取するため、公演専門委員会を2回開催 <p>4. アンケート調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 全7公演で実施(9回)、満足回答率85.1% 「Discover KABUKI」で上記のうち2回を実施、満足回答率82.9%(外国人の満足度は84.3%) 	<p>大限に活用して上演した(「しらぬい譚」)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 歌舞伎公演全体で高く設定した目標入場者数を大きく上回り、独法化以降最高の入場者数を記録した。 文化プログラムへの参画を見据えた「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」を28年度2回に拡大して上演し、英語字幕表示、3か国語(英語・中国語・韓国語)によるオーディオガイド並びにパンフレット配布を行った。観客や外部専門家等から企画及び取組状況について高く評価された。 27年度に試行した「Discover KABUKI」の成果や課題を踏まえ、28年度は歌舞伎及び他ジャンルの外国人向け伝統芸能公演を行った。 営業・広報に関し、国立劇場開場 50 周年の広報とともに公演を周知する各種の取組を実施した。また、学校団体や外国人向けの営業活動を展開した。 <p><課題と対応></p> <ul style="list-style-type: none"> 公演の魅力を広く伝えることができるよう、今後も、企画内容、広報宣伝等の効果的な施策を十分検討していきたい。 	<p>高く評価できる。</p> <p><今後の課題・指摘事項></p> <ul style="list-style-type: none"> 入場者数については目標に対して顕著な成果を達成していない。 目標が未達になっている公演については、その要因を分析し、目標の達成に努めることが求められる。 インバウンド拡大への貢献という観点からも、外国人のための歌舞伎鑑賞教室については、成果の分析等を行い、体験型プログラムの実施等、事業の更なる拡充について検討する必要がある。 <p><有識者からの意見></p> <ul style="list-style-type: none"> 演目発表の際に、詳しい配役が発表できれば、動員面にも成果があるのではないかと。 「仮名手本忠臣蔵」を3か月かけて通し上演した企画を評価する。ただし50周年記念公演としては11月以外の配役面が弱い。大顔合わせを実現できなかったのは残念である。「岡崎」の再演、「しらぬい譚」の復活は評価できる。
--	--------------------------------------	--	--	--	---	--

<p>4. その他参考情報</p>
<p>特になし</p>

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1-2-1-1-2	文楽				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人日本芸術文化振興会法 第14条第1項第2号	業務に関連する政策・施策	政策目標12 文化による心豊かな社会の実現 施策目標12-1 芸術文化の振興	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット(アウトカム)情報								②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)						
指標等		達成目標	前中期目標 期間最終年 度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
公演数	計画値	年間10公演程度	10公演	10公演	10公演	10公演	10公演			決算額 収入(百万円)	728	819	770	795
	実績値	—	10公演	10公演	10公演	10公演	10公演			決算額 支出(百万円)	648	669	662	669
	達成度	—	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%			従事人員数(人)	12	12	12	12
入場者数	計画値	前中期目標期間の実績(計877,231人)以上	170,710人	169,850人	178,700人	175,900人	177,600人							
	実績値	—	178,699人	178,943人	201,017人	186,550人	187,167人							
	達成度	—	104.7%	105.4%	112.5%	106.1%	105.4%							

1)決算額は、
・振興会：各ジャンルの入場料収入及び公演費を計上。
2)従事人員数は、各館の制作担当常勤職員の人数を計上している。
・文楽(伝統芸能課、文楽劇場企画制作課企画制作係)
その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評価	B
2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 伝統芸能の保存振興及び現代舞台芸術の振興普及を図るため、前中期目標期間の実績を踏まえ、より多くの人が幅広い分野の公演を鑑賞することを目標とし、伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演を行うこと。また、以下の観点からこれらの公演の充実を図ること。 (1) 主催公演 ア 伝統芸能を古典伝承	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (1) 伝統芸能の公開 つとめて古典伝承のままの姿で公開 イ 文楽公演 「通し狂言」や見せ場を中心に複数演目を並べる「見取り狂言」等の様々な形態で上演、上演の途絶えた優れた演目・場面の復活、新作の上演、解説を付した公演等の実施、年間10公演程度 (4) 伝統芸能の公開の実	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (1) 伝統芸能の公開 ア 伝統芸能の保存と振興を図るため、中期計画の方針に従い、別表1のとおり主催公演を実施	<主な定量的指標> ・ 公演数 ・ 入場者数 <その他の指標> ・ 様々な形態での上演を行うとともに、上演の途絶えた演目・場面の復活、新作の上演、解説を付した公演の実施 <評価の視点> (27年度評価で指摘された取り組みべき課題) 特になし	<実績報告書等参照箇所> 平成28年度業務実績報告書P19~23 <主要な業務実績> 1. 公演実績 ・ 本館文楽4公演・文楽鑑賞教室1公演、文楽劇場文楽4公演・文楽鑑賞教室1公演を計画どおり実施 ・ 国立劇場開場50周年記念公演を実施(本館及び文楽劇場で実施した9月以降の全公演) ・ 文楽公演全体で目標入場者数を達成(達成度105.4%) ・ 通し狂言での上演(本館9月「一谷嫩軍記」、本館12月「仮名手本忠臣蔵」、文楽劇場4月「妹背山婦女庭訓」) ・ 上演機会の少ない場面の復活等(本館9月「一谷嫩軍記」(初段・二段目)、本館12月「仮名手本忠臣蔵」(十段目)、文楽劇場錦秋「花上野菅碑」、同「勧進帳」花道使用)	<評価と根拠> 評価：A ・ 制作方針に従い、通し上演、上演機会の少ない優れた場面の復活、新作の上演等を含め、各公演とも充実した内容の舞台を制作し、外部専門家等から企画内容を高く評価された。 ・ 本館では、三部制公演(2月)を含めた5公演すべてで90%を超える入場率を記録した。【国立劇場開場以来初】 ・ 本館12月「仮名手本忠臣蔵」は、上演機会の少ない十段目「天河屋の段」を含めた全段を一挙通し上演とした。ほとんどの太夫が複数の段を語り、制作・舞台スタッフも長時間にわたる上演を支えるなど、一丸となって取り組んだ。ほぼ全ステージが完売し、有料入場率	<評価に至った理由> 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 自己評価ではA評価であるが、今後の課題・指摘事項に示す点について、更なる改善を期待したい。 <評価すべき実績> ・ 「仮名手本忠臣蔵」について、同月に歌舞伎でも同演目を上演したことは、国立劇場ならではの企画として高く評価できる。 ・ 中堅若手の芸員への芸芸伝承を強化するという観点から「妹背山婦女庭訓」の通し上演は評価できる。 ・ 外国人のための文楽鑑賞教室を新たに実施したことは、2020年東京オリンピック・パラリンピック競	

<p>のままの姿で公開するよ うに努めること。 ウ 公開・公演の目的、期 待する成果等を明確に し、外部の専門家等から の意見や鑑賞者の要望等 を踏まえた評価等を行 い、事業の充実に反映さ せること。 エ より幅広く多くの人 が鑑賞することを目指し て、分野ごとに前中期目 標期間の実績を超えるよ う、個々の公演において、 適切な鑑賞者数の目標を 設定し、その達成に努め ること。</p>	<p>施に際しての留意事項等 エ 国立劇場開場 50 周 年記念公演等の各種記念 事業の実施</p>		<ul style="list-style-type: none"> 全体で目標を上回る入場者数を達成 新作の上演(文楽劇場夏休み文楽特別公演「新編西遊記 GO WEST! 玉うさぎの涙」「金壺親父恋達引」) 外国人のための文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKU」を本館及び文楽劇場にて実施【新規】 <p>2. 営業・広報</p> <ul style="list-style-type: none"> マスコミ各社への記者会見及び取材依頼の積極的な働きかけ、動画を用いたホームページの有効活用、地元の関係団体との協力、祭礼行事やイベントへの参加や協力により、効果的に公演を広報 国立劇場開場50周年記念公演や公演演目に因んだイベントの実施や演劇フリーペーパーへの記事広告掲出、DMの定期的な送付等、多様なアプローチによる誘客 本館5月「Discover BUNRAKUー外国人のための文楽鑑賞教室ー」及び文楽劇場6月「Discover BUNRAKUーBUNRAKU for Beginnersー」の広報・営業活動を通して、外国人に対するアピールを強化 文楽劇場では、公演ごとに2か国語(日本語・英語)パンフレットを作成し、ホテル、ターミナル駅等へ配布 <p>3. 外部専門家等の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部専門家等の意見を聴取するため、公演専門委員会を本館・文楽劇場で各2回開催 <p>4. アンケート調査</p> <ul style="list-style-type: none"> (本館)5月、9月公演及び5月鑑賞教室で実施(3回)、満足回答率85.6% (文楽劇場)全5公演で実施(6回)、満足回答率93.3% 「Discover BUNRAKU」で上記のうち2回実施、満足回答率87.0%(外国人の満足度は88.9%) 	<p>98.0%という大変な好成績であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「仮名手本忠臣蔵」は、同月に歌舞伎でも同演目を上演し、比較鑑賞できる国立劇場ならではの企画とした。 文楽劇場4月公演で「妹背山婦女庭訓」を通し上演した。技芸員は特に太夫陣の世代交代が顕著な状況下にあり、技芸継承のためあえて中堅、若手を抜擢して、この大曲を上演した経験は今後の文楽にとって貴重な財産となった。その成果が認められ、出演者一同が平成28年度大阪文化祭賞優秀賞を受賞することができた。 本館5月鑑賞教室では、外国人のための文楽鑑賞教室として「Discover BUNRAKU」を行い、日本文化に造詣の深いダニエル・カールを起用し、英語を中心とした解説、「曾根崎心中」本編では英語字幕表示、3か国語(英語・中国語・韓国語)によるオーディオガイド並びにパンフレットの配布により、公演内容の理解が進むよう配慮した。 文楽劇場6月鑑賞教室では、外国人のための文楽鑑賞教室として「Discover BUNRAKU」を行い、構成を落語作家のくまざわあかねに、ナビゲーターを浪曲の春野恵子に依頼し、芝居を上演していく中にナビゲーターが入って演者に質問を加える形での進行など、従来実施していた解説部分の形式を一新した事が評価され、テレビ局をはじめとするマスコミにも大きく取り上げられた。また、本編では、英語字幕表示と3か国語(英語・中国語・韓国語)によるオーディオガイドを実施するとともに、7言語(日本語・英語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語・フランス語・スペイン語)による解説書、英語版文楽入門パンフレットを来場記念特製トートバッグに入れて配布し、好評を得た。 文楽劇場夏休み文楽特別公演では、台本、作曲、美術すべてを一新した「新編西遊記 GO WEST! 玉うさぎの涙」と井上ひさし原作「金壺親父恋達引」の舞台初上演という新作2本を一つの公演において制作上演するという果敢な挑戦が結実し、各部の入場料金を均一ではなくした料金設定の工夫も相まって、好成績に繋がった。 営業・広報に関し、国立劇場開場50周年の広報とともに公演を周知する各種の取組により順調に事業を実施した。また、学校団体や外国人向けの営業活動を展開した。 	<p>技大会開催を見据えた、国際化に向けた取組として高く評価できる。</p> <p><今後の課題・指摘事項></p> <ul style="list-style-type: none"> 入場者数については目標に対して顕著な成果を達成していない。 目標が未達になっている公演については、その要因を分析し、目標の達成に努めることが求められる。 歌舞伎と文楽で連動して同一の狂言を上演する試み等は国立劇場ならではの取組として効果を上げているものであり、他の分野も含めて、継続的に取り組むことが求められる。 インバウンド拡大への貢献という観点からも、外国人のための文楽鑑賞教室については、成果の分析等を行い、体験型プログラムの実施等、事業の更なる拡充について検討する必要がある。 <p><有識者からの意見></p> <ul style="list-style-type: none"> 「妹背山婦女庭訓」の太夫陣が一気に若返り、成果があったとは言い難いが、将来へ向けての布石としては評価できる。
--	--	--	--	---	---

4. その他参考情報

特になし

様式1-1-4-1 中期目標管理法人 年度評価 項目別評価調書(国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項)

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1-2-1-1-3	舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能ほか				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人日本芸術文化振興会法 第14条第1項第2号	業務に関連する政策・施策	政策目標12 文化による心豊かな社会の実現 施策目標12-1 芸術文化の振興	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ															
①主要なアウトプット(アウトカム)情報										②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)					
指標等		達成目標	前中期目標 期間最終年 度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
公演数	計画値	年間21公演程度	22公演	21公演	22公演	22公演	22公演	22公演			決算額 収入(百万円)	67	70	73	123
	実績値	—	22公演	21公演	22公演	22公演	22公演	22公演			決算額 支出(百万円)	102	103	102	167
	達成度	—	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%			従事人員数(人)	12	12	12	12
入場者数	計画値	前中期目標期間の実績(計93,288人)以上	20,940人	18,500人	18,580人	17,600人	26,590人								
	実績値	—	20,594人	16,575人	17,178人	17,842人	27,796人								
	達成度	—	98.3%	89.6%	92.5%	101.4%	104.5%								

1)決算額は、
・振興会：各ジャンルの入場料収入及び公演費を計上。
2)従事人員数は、各館の制作担当常勤職員の人数を計上している。
・舞踊・邦楽ほか(伝統芸能課、文楽劇場企画制作課企画制作係)
その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評価	B
2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 伝統芸能の保存振興及び現代舞台芸術の振興普及を図るため、前中期目標期間の実績を踏まえ、より多くの人が幅広い分野の公演を鑑賞することを目標とし、伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演を行うこと。また、以下の観点からこれらの公演の充実を図ること。 (1) 主催公演 ア 伝統芸能を古典伝承	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (1)伝統芸能の公開つとめて古典伝承のままの姿で公開 ウ 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等公演 質の高い芸芸の公開、芸能の特性を踏まえた企画性が高い公演等の実施、年間21公演程度 (4) 伝統芸能の公開の実施に際しての留意事項等 エ 国立劇場開場50周年記念公演等の各種記念	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (1)伝統芸能の公開 ア 伝統芸能の保存と振興を図るため、中期計画の方針に従い、別表1のとおり主催公演を実施	<主な定量的指標> ・ 公演数 ・ 入場者数 <その他の指標> ・ 質の高い芸芸の公開を基本としつつ、芸能の特性を踏まえた高い企画性のある公演を行う。 <評価の視点> (27年度評価で指摘された取り組むべき課題) ・ 目標が未達となつて	<実績報告書等参照箇所> 平成28年度業務実績報告書P24～34 <主要な業務実績> 1. 公演実績 ・ 舞踊公演4公演、邦楽公演4公演、雅楽公演3公演、声明公演2公演、民俗芸能公演2公演、琉球芸能公演1公演、特別企画公演6公演を計画どおり実施 ・ 国立劇場開場50周年記念公演を実施(本館及び文楽劇場で実施した9月以降の全公演) ・ 全体で目標入場者数を達成(達成度104.5%、前年度実績比155.8%)するとともに、独法化以降で最高の入場者数を記録 ・ 国立劇場開場50周年記念公演として実施した舞踊・邦楽・民俗芸能・琉球芸能公演について、様々な芸能で取	<評価と根拠> 評価：A ・ 本館では、日本舞踊の一大モチーフである「道成寺」をテーマにした舞踊公演、様々な歌物、語り物の分野ごとの第一人者による邦楽公演、開場50周年を寿ぐ新作委嘱作品や「太平楽」右舞大曲などを上演した雅楽公演、天台宗・真言宗の二大流派を取り上げた声明公演、我が国の神楽・狂言・人形芝居の代表的団体が出演した民俗芸能公演、最高峰の演者による琉球舞踊と組踊を上演した琉球芸能公演など、各ジャンルの特性を活かした、国立劇場開場50周年を飾るに相応しい企画性の高い公演を実施した。	<評価に至った理由> 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 自己評価ではA評価であるが、今後の課題・指摘事項に示す点について、更なる改善を期待したい。 <評価すべき実績> ・ 「道成寺」をテーマに、舞踊・民俗芸能・琉球芸能等の公演を連続して上演したことは、国立劇場ならではの企画性の高い取組として高く評価できる。 <今後の課題・指摘事項> ・ 入場者数については目標に対して顕著な成果を達成していない。	

<p>のままの姿で公開するよ うに努めること。</p> <p>ウ 公開・公演の目的、期 待する成果等を明確に し、外部の専門家等から の意見や鑑賞者の要望等 を踏まえた評価等を行 い、事業の充実に反映さ せること。</p> <p>エ より幅広く多くの人 が鑑賞することを目指し て、分野ごとに前中期目 標期間の実績を超えるよ う、個々の公演において、 適切な鑑賞者数の目標を 設定し、その達成に努め ること。</p>	<p>事業の実施</p>		<p>いる公演については、 その要因を分析し、目 標の達成に努めること が求められる。</p>	<p>り上げられる「道成寺」をキーワードに演目を構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本舞踊の一大モチーフである「道成寺」をテーマにした舞踊公演、様々な歌物、語り物の分野ごとの第一人者による邦楽公演、天台宗・真言宗の二大流派を取り上げた声明公演、最高峰の演者による琉球舞踊と組踊を上演した琉球芸能公演など、各ジャンルの特性を活かした企画性の高い公演を実施 ・ 東日本大震災5周年を迎え、復興支援として文楽劇場にて民俗芸能公演「東北の神楽」を上演 <p>2. 営業・広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マスコミ各社への記者会見や取材依頼のほか、各種媒体により公演情報を周知 <p>3. 外部専門家等の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部専門家等の意見を聴取するため、公演専門委員会を本館各ジャンル及び文楽劇場で各2回開催 <p>4. アンケート調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 舞踊公演1回、邦楽公演1回、雅楽公演1回、声明公演2回、民俗芸能公演1回、琉球芸能公演1回、特別企画公演5回(計12回)実施、満足回答率88.2% 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文楽劇場では、10月「東西名流舞踊鑑賞会」や8月「文楽素浄瑠璃の会」での質の高い技芸の公開、5月「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」での若い実演家の育成を行った。また、5月民俗芸能公演「東北の神楽」では、東日本大震災の記憶が風化しつつある関西において、東北の芸能の上演を、震災後早くから災害と芸能について調査を行ってきた国立民族学博物館との共催で実施した。いずれも企画性の高い公演を制作方針通り実施した。 ・ 27年度計画の1.5倍という高い目標入場者数を設定したが、これを達成するとともに独法化以降で最高の入場者数を記録した(実績の27年度比155.8%)。 <p><課題と対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目標入場者数に達しなかった公演については、企画立案時より内容や時期等の計画・検討を綿密に行うとともに、動画を利用するなど効果的な広報宣伝ができるよう、担当部署で連携し、一層工夫を図りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標が未達になっている公演については、その要因を分析し、目標の達成に努めることが求められる。 <p><有識者からの意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「文楽素浄瑠璃の会」の入場者は低減傾向にある。中堅、若手を出演させることもテコ入れになるのではないかと。
--	--------------	--	---	---	---	---

<p>4. その他参考情報</p>
<p>特になし</p>

様式1-1-4-1 中期目標管理法 年度評価 項目別評価調書(国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項)

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1-2-1-1-4	大衆芸能				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人日本芸術文化振興会法 第14条第1項第2号	業務に関連する政策・施策	政策目標12 文化による心豊かな社会の実現 施策目標12-1 芸術文化の振興	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ															
①主要なアウトプット(アウトカム)情報								②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)							
指標等		達成目標	前中期目標期間最終年度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
公演数	計画値	年間64公演程度	62公演	64公演	64公演	64公演	64公演			決算額 収入(百万円)	89	94	96	104	
	実績値	—	62公演	64公演	65公演	64公演	64公演			決算額 支出(百万円)	55	55	56	60	
	達成度	—	100.0%	100.0%	101.6%	100.0%	100.0%			従事人員数(人)	9	9	10	10	
入場者数	計画値	前中期目標期間の実績(計277,952人)以上	49,520人	52,370人	52,760人	52,000人	51,460人								
	実績値	—	51,475人	50,154人	51,324人	52,537人	57,306人								
	達成度	—	103.9%	95.8%	97.3%	101.0%	111.4%								

1) 決算額は、
・ 振興会：各ジャンルの入場料収入及び公演費を計上。
2) 従事人員数は、各館の制作担当常勤職員の人数を計上している。
・ 大衆芸能(演芸課企画制作係、文楽劇場企画制作課企画制作係)
その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評価	B
2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 伝統芸能の保存振興及び現代舞台芸術の振興普及を図るため、前中期目標期間の実績を踏まえ、より多くの人が幅広い分野の公演を鑑賞することを目標とし、伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演を行うこと。また、以下の観点からこれらの公演の充実を図ること。 (1) 主催公演 ア 伝統芸能を古典伝承の	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (1) 伝統芸能の公開 つとめて古典伝承のままの姿で公開 エ 大衆芸能公演 寄席を中心に受け継がれてきた伝統的な大衆芸能の公演、多彩な出演者による企画性の高い公演等の実施、年間64公演程度 (4) 伝統芸能の公開の実施に際しての留意事項等 エ 国立劇場開場50周年記念公演等の各種記念事	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (1) 伝統芸能の公開 ア 伝統芸能の保存と振興を図るため、中期計画の方針に従い、別表1のとおり主催公演を実施	<主な定量的指標> ・ 公演数 ・ 入場者数 <その他の指標> ・ 伝統的な大衆芸能の公演とともに、多彩な出演者により企画性の高い公演を実施する。 <評価の視点> (27年度評価で指摘された取り組みべき課題) ・ 目標が未達となって	<実績報告書等参照箇所> 平成28年度業務実績報告書P35~43 <主要な業務実績> 1. 公演実績 ・ (演芸場) 定席公演22公演、若手新人公演12公演、新春国立名人会1公演、国立名人会11公演、特別企画公演10公演を実施 ・ (文楽劇場) 浪曲2公演、上方演芸特選会6公演を実施 ・ 全公演の合計で目標入場者数を達成(達成度111.4%) ・ 若手新人公演の出演者を対象に、平成28年度花形演芸大賞の審査を実施、受賞者を公表 2. 営業・広報 ・ チラシ、ポスター、ホームページ等による広報、新聞や「東京かわら版」等への広告掲載により公演情報を周	<評価と根拠> 評価：B ・ 目標入場者数を達成できた。伝統的な寄席の形式を踏襲して、様々な分野の演芸家が出演し、大衆芸能の多様な魅力を伝えるとともに、世代、性別を問わず幅広い観客層が楽しめる公演を制作するという方針を反映した効果が具体的に現れてきた。 ・ 民間の寄席に比べて一人(組)当たりの高座時間を長く確保し、内容を割愛することなく落語を一席務めることができるようにする等、技芸の保存・伝承にも配慮した公演制作を実施することができた。「若手新人公演」、「浪曲練声会」を実施し、若手演芸家の技芸向上の方策を積極的に進めることができた。 ・ 演芸場では、落語協会・落語芸術協会をはじめ、関係各団体と緊密な連携をとり、公演制作に多大なる協力を得ることができた。結果、それぞれの幹部の出演、圓	<評価に至った理由> 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 <評価すべき実績> ・ 歌舞伎と連動して、「忠臣蔵」関連の演目で構成した「芸術祭寄席」は国立劇場ならではの企画性の高い取組として高く評価できる。 <今後の課題・指摘事項> ・ 目標が未達になっている公演については、その要因を分析し、目標の達成に努めることが求められる。 ・ 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催を見据え、外国人対応についても検	

<p>まの姿で公開するよう に努めること。</p> <p>ウ 公開・公演の目的、期待する成果等を明確にし、外部の専門家等からの意見や鑑賞者の要望等を踏まえた評価等を行い、事業の充実に反映させること。</p> <p>エ より幅広く多くの人が鑑賞することを目指して、分野ごとに前中期目標期間の実績を超えるよう、個々の公演において、適切な鑑賞者数の目標を設定し、その達成に努めること。</p>	<p>業の実施</p>		<p>いる公演については、その要因を分析し、目標の達成に努めることが求められる。</p>	<p>知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出演者の出身地の都道府県事務所、出身学校や演目ゆかりの地域と連携した情報発信 ・ 報道各社へ定期的に公演情報を配信 ・ 地元ラジオ局に働きかけ、番組内で公演を紹介 <p>3. 外部専門家等の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部専門家等の意見を聴取するため、公演専門委員会を演芸場及び文楽劇場で各2回開催 <p>4. アンケート調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (演芸場)12公演で実施(12回)、満足回答率89.6% 	<p>朝作品に挑む会や上方落語会等国立演芸場ならではの企画性の高い公演を制作することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文楽劇場の「上方演芸特選会」では、上方演芸4団体と協力し、それぞれの団体から多彩なジャンルの若手・ベテラン出演者が競う、今や上方では貴重となった昔懐かしい本格的な寄席形式の定席公演としてバラエティーに富んだ番組構成を実現し、全6公演で目標入場者数を達成することができた。 <p><課題と対応></p> <p>(演芸場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ より魅力ある番組作りに努めるとともに、近隣施設や地域との連携を図るなど、新たな観客を増やすための方策に積極的に取り組んでいきたい。 <p>(文楽劇場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大衆芸能公演全体に観客の高齢化が目立ってきた。営業や宣伝活動にも工夫を凝らし、新しい観客層の開拓も進めていきたい。 	<p>討することが求められる。</p> <p><有識者からの意見></p> <p>—</p>
---	-------------	--	--	--	---	--

<p>4. その他参考情報</p>
<p>特になし</p>

様式1-1-4-1 中期目標管理法人 年度評価 項目別評価調書(国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項)

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1-2-1-1-5	能楽				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人日本芸術文化振興会法 第14条第1項第2号	業務に関連する政策・施策	政策目標12 文化による心豊かな社会の実現 施策目標12-1 芸術文化の振興	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ															
①主要なアウトプット(アウトカム)情報										②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)					
指標等		達成目標	前中期目標期間最終年度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
公演数	計画値	年間51公演程度	51公演	51公演	51公演	51公演	51公演			決算額 収入(百万円)	133	122	127	126	
	実績値	—	51公演	51公演	51公演	51公演	51公演			決算額 支出(百万円)	112	91	103	97	
	達成度	—	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%			従事人員数(人)	5	5	5	5	
入場者数	計画値	前中期目標期間の実績(計178,702人)以上	36,143人	36,143人	35,550人	36,140人	35,895人								
	実績値	—	35,800人	36,224人	36,289人	37,448人	38,014人								
	達成度	—	99.1%	100.2%	102.1%	103.6%	105.9%								

1) 決算額は、
・ 振興会：各ジャンルの入場料収入及び公演費を計上。
2) 従事人員数は、各館の制作担当常勤職員の人数を計上している。
・ 能楽(能楽堂企画制作課企画制作係)
その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評価	A
2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 伝統芸能の保存振興及び現代舞台芸術の振興普及を図るため、前中期目標期間の実績を踏まえ、より多くの人が幅広い分野の公演を鑑賞することを目標とし、伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演を行うこと。また、以下の観点からこれらの公演の充実を図ること。 (1) 主催公演 ア 伝統芸能を古典伝承の	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (1) 伝統芸能の公開つとめて古典伝承のままの姿で公開 オ 能楽公演 伝統的な能狂言の演目と各流の演者を、能楽全体を見渡す視点に立って組み合わせた公演、上演の途絶えた優れた演目の復曲、新作の上演、解説を付した公演、企画	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (1) 伝統芸能の公開 ア 伝統芸能の保存と振興を図るため、中期計画の方針に従い、別表1のとおり主催公演を実施	<主な定量的指標> ・ 公演数 ・ 入場者数 <その他の指標> ・ 能楽全体を見渡す視点に立った公演、上演の途絶えた演目の復曲、新作の上演、解説を付した公演、企画性の高い公演等を実施 ・ アンケート調査 <評価の視点>	<実績報告書等参照箇所> 平成28年度業務実績報告書P44~50 <主要な業務実績> 1. 公演実績 ・ 能楽51公演(定例公演22公演、普及公演11公演、企画公演17公演、鑑賞教室1公演)を計画どおり実施し、全ての公演で目標入場者数を達成(達成度105.9%) ・ 入場率は、独立行政法人化以降最も高い99.4%を記録 ・ 国立能楽堂や他の能楽堂が制作した復曲能、復曲狂言、新作狂言を再演し、演目の拡充に貢献 ・ 「月間特集」や「演出の様々な形」等、企画性のある公演を実施 ・ 4月狂言の会「家・世代を越えて」は、国立能楽堂ならではの企画として好評	<評定と根拠> 評定：A ・ 国立能楽堂の果たすべき役割に基づいた上演方針に従い、伝統的な能狂言の形式による公演のほか、上演の途絶えた優れた演目の復曲等に着手に取り組み、外部専門家からもその企画内容が高く評価された。 ・ 有料入場率が、27年度に記録した独立行政法人化以降最も高い97.9%をさらに1.5ポイント上回る99.4%を記録した。また、27年度は目標入場者数に届かなかった公演が4公演あったが、28年度は全ての公演で目標入場者数を達成した。 ・ 4月狂言の会「家・世代を越えて」で狂言界の重鎮3	<評定に至った理由> 評価すべき実績の欄に示す通り、中期計画及び年度計画に定められた以上の業務の実績が認められるため。 <評価すべき実績> ・ 入場者数については各公演で目標値を上回っており、全体の入場者数でも105.9%という高い成果を達成している。 ・ 全体の入場率は99.4%と極めて高く、独立行政法人化以降、最も高い入場率を達成している。 ・ 外国人のための能楽鑑賞教室を新たに実施したことは、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催を見据えた、国際化に向けた取組として高く評価できる。 ・ 能と箏曲、講談、組踊等の異種芸能を積極的に	

<p>ままの姿で公開するよう に努めること。</p> <p>ウ 公開・公演の目的、期待 する成果等を明確にし、外 部の専門家等からの意見 や鑑賞者の要望等を踏ま えた評価等を行い、事業の 充実に反映させること。</p> <p>エ より幅広く多くの人が 鑑賞することを目指して、 分野ごとに前中期目標期 間の実績を超えるよう、 個々の公演において、適切 な鑑賞者数の目標を設定 し、その達成に努めるこ と。</p>	<p>性の高い公演等の実 施、年間 51 公演程度</p> <p>(4) 伝統芸能の公開 の実施に際しての留 意事項等</p> <p>エ 国立劇場開場 50 周年記念公演等の各 種記念事業の実施</p>		<p>(27 年度で指摘された 取り組むべき課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高い成果を達成し た公演等の取組につ いては、その要因を分 析し継続的に取り組 むことが望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 能楽鑑賞教室で全席を完売し、鑑賞者育成に大きく貢 献 ・ 「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」を実施【新規】 ・ 座席字幕表示装置を活用して、日本語・英語の 2 チャ ンネル方式で字幕を表示(50 公演) ・ 「Discover NOH & KYOGEN」では中国語・韓国語の字 幕も加え、多言語化に対応 <p>2. 営業・広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マスコミ各社への取材依頼、ポスター、チラシ、ホー ムページ等による公演周知 ・ 団体観劇の誘致へ向けての営業活動の活性化 <p>3. 外部専門家等の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公演専門委員会を開催し、外部専門家等の意見を聴取 して、後の事業運営に活用 ・ 高い入場率と公演内容の充実を評価 <p>4. アンケート調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10公演にて実施(10回)、満足回答率87.1% ・ 「Discover NOH & KYOGEN」で上記のうち1回を実施、 満足回答率88.9%(外国人の満足度は92.2%) 	<p>氏と他家の中堅・若手が共演した企画は、芸の伝承とい う面も含め、国立能楽堂ならではの企画として極めて 高い評価を受けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統的な能・狂言の形式による公演のほか、国立能楽 堂が制作した復曲能「阿古屋松」、他の能楽堂等が制作 した復曲能「菅丞相」「綾鼓」、復曲狂言「連尺」、新作 狂言「太郎くんの冒険」を取り上げて再演し、演目の拡 充を図った。 ・ 3月企画公演「復興と文化V」では平成 24 年に国立 能楽堂が制作初演した復曲能「阿古屋松」を 5 年ぶり に再演し、震災からの文化による復興をアピールする とともに、レパートリーの拡充を推進した。 ・ 27 年度に引き続き、能楽鑑賞教室で全席を完売し、 次世代の鑑賞者育成に大きく貢献した。 ・ 初めて「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」を実施し、充実した番組によって外国人観客 に能楽を強く印象付けた。字幕表示と当日無料配布し たパンフレットも 4 か国語版(日本語・英語・中国語・ 韓国語)とし、理解促進に大いに役立った。【新規】 ・ 「月間特集」や「演出の様々な形」によって公演に連 続性や関連性を持たせるなど、国立能楽堂独自の切り 口で特色ある公演を実施した。 ・ 定例公演・普及公演・企画公演・狂言の会・特別公演 等の各種公演で、名曲・人気曲を上演するのみならず、 稀曲や大曲といった作品も含めて多様な能・狂言を企 画性のある番組の中で紹介できた。 	<p>併演し、能楽鑑賞の新たな視点を提示したことは、 企画性の観点においても高く評価できる。</p> <p><今後の課題・指摘事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インバウンド拡大への貢献という観点からも、 外国人のための能楽鑑賞教室については、成果の 分析等を行い、体験型プログラムの実施等、事業 の更なる拡充について検討する必要がある。 ・ 継続的に高い入場率となっていることから、公 演回数増加等についても検討する必要がある。 <p><有識者からの意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 流儀を越えた企画は、国立能楽堂ならではのも のであり評価できる。稽古人口が減る中で、役割の 重要性はいつそう増すと思う。 ・ 能は一回公演のため、入場率が高くても、入場者 数は限られる。今後は連続公演などの試みも検討 して欲しい。
--	---	--	---	--	---	---

4. その他参考情報

特になし

様式1-1-4-1 中期目標管理法人 年度評価 項目別評価調書(国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項)

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1-2-1-1-6	組踊等沖縄伝統芸能				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人日本芸術文化振興会法 第14条第1項第2号	業務に関連する政策・施策	政策目標12 文化による心豊かな社会の実現 施策目標12-1 芸術文化の振興	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ															
①主要なアウトプット(アウトカム)情報										②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)					
指標等		達成目標	前中期目標期間最終年度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
公演数	計画値	年間30公演程度	30公演	30公演	30公演	30公演	30公演			決算額 収入(百万円)	36	46	39	33	
	実績値	—	29公演	29公演	30公演	30公演	30公演			決算額 支出(百万円)	72	80	68	63	
	達成度	—	96.7%	96.7%	100.0%	100.0%	100.0%			従事人員数(人)	2	2	2	2	
入場者数	計画値	前中期目標期間の実績(計79,344人)以上	15,854人	15,745人	16,461人	17,753人	16,683人								
	実績値	—	16,618人	15,224人	18,139人	18,373人	15,573人								
	達成度	—	104.8%	96.7%	110.2%	103.5%	93.3%								

1)決算額は、
 ・おきなわ財団：劇場入場料収入(財団自己財源)、公演費(財団自己財源)、文化プログラム関係費(財団委託費)を計上している。
 2)従事人員数は、国立劇場おきなわ業務管理職員の人数を計上している。
 ・組踊等沖縄伝統芸能(新国立劇場・おきなわ部管理課国立劇場おきなわ係)
 その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評価	B
2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 伝統芸能の保存振興及び現代舞台芸術の振興普及を図るため、前中期目標期間の実績を踏まえ、より多くの人が幅広い分野の公演を鑑賞することを目標とし、伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演を行うこと。また、以下の観点からこれらの公演の充実等を図ること。 (1) 主催公演 ア 伝統芸能を古典伝承の	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (1)伝統芸能の公開 つとめて古典伝承のままの姿で公開 カ 組踊等沖縄伝統芸能公演 上演の途絶えた優れた演目の復曲、新作の上演、解説を付した公演、本土の芸能やアジア・太平洋地域の芸能も取り上げる企画性の高い公演等の実施、年間30	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (1)伝統芸能の公開 ア 伝統芸能の保存と振興を図るため、中期計画の方針に従い、別表1のとおり主催公演を実施	<主な定量的指標> ・ 公演数 ・ 入場者数 <その他の指標> ・ 組踊等沖縄伝統芸能公演の鑑賞機会を提供、上演の途絶えた演目の復曲、新作の上演、解説を付した公演、企画性の高い公演を実施する。 <評価の視点> (27年度評価で指摘され	<実績報告書等参照箇所> 平成28年度業務実績報告書P51~55 <主要な業務実績> 1. 公演実績 ・ 組踊等沖縄伝統芸能30公演(定期公演17公演、企画公演7公演、研究公演1公演、普及公演5公演)を計画どおり実施 ・ 新作組踊「玉露の妖精」の上演 ・ 上演機会が少ない優れた演目の上演(7月「大城崩」、12月「仲村渠真嘉戸」、2月「父子忠臣の巻」、7月 史劇「大新城忠勇伝」、2月 喜劇「米を作る家」「こわれた南蛮甕」) ・ 解説付き公演の上演(4月琉球舞踊鑑賞教室、6月・8月・11月組踊鑑賞教室、9月沖縄芝居鑑賞教室) ・ アジア・太平洋地域の芸能「胡弓」を、解説を付して上演 ・ 外国語オーディオガイドを導入した、外国人向け公演「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」を上演【新規】	<評価と根拠> 評価：B ・ 計画どおり新作組踊「玉露の妖精」の上演や「さかさま『執心鐘入』」の再演、上演機会が少ない優れた組踊及び沖縄芝居の上演、「我が住むは五大州II」やアジア太平洋地域の芸能等海外交流を目的とした公演を継続的に実施した。 ・ 青少年を対象にした組踊、琉球舞踊、沖縄芝居等多様な鑑賞教室を実施、さらに親子・社会人・外国人向けの入門企画の実施により、沖縄伝統芸能の普及を図った。 ・ 「組踊300年」に向けて、本年度は朝薫五番から「執心鐘入」をテーマ作品に掲げ、一つの作品を	<評価に至った理由> 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 <評価すべき実績> ・ 企画の幅を広げた演目構成のほか、上演機会の少ない演目や、新作組踊等の上演、アジア・太平洋地域に視座を置いた公演等、多様な企画を実施したことは評価できる。 ・ 外国人のための組踊鑑賞教室を新たに実施したことは、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催を見据えた、国際化に向けた取組として高く評価できる。 ・ 青少年を対象にした組踊、琉球舞踊、沖縄芝居等多様な鑑賞教室を実施するとともに、親子・社会人	

<p>ままの姿で公開するように努めること。</p> <p>ウ 公開・公演の目的、期待する成果等を明確にし、外部の専門家等からの意見や鑑賞者の要望等を踏まえた評価等を行い、事業の充実に反映させること。</p> <p>エ より幅広く多くの人々が鑑賞することを目指して、分野ごとに前中期目標期間の実績を超えるよう、個々の公演において、適切な鑑賞者数の目標を設定し、その達成に努めること。</p>	<p>公演程度</p>		<p>た取り組むべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標が未達となっている公演については、その要因を分析し、目標の達成に努めることが求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> テーマ作品として「執心鐘入」を特集(11月組踊鑑賞教室、1月定期公演、2月『「執心鐘入」にまつわる芸能」、3月「さかさま『執心鐘入』」) 2. 営業・広報 <ul style="list-style-type: none"> マスコミ各社への取材依頼、ポスター、チラシ、インターネット、友の会会報等により公演を周知 県内約700か所の教育機関、主要企業等、県内約690か所の公民館、県内約230か所の老人会、県内8か所の観光施設に設置した当劇場専用ラック等にて公演情報等を周知 公演演目にゆかりのある地域の公民館や関係団体など、各公演の特性にあわせた誘客活動を展開 旅行者等と連携して、組踊ワークショップを含む組踊鑑賞ツアーを企画 劇場共通ロビーに公演案内パネルを特設し、公演周知を強化 県の補助事業を活用した貸切バス費用助成事業を実施し、団体客を誘致 国立劇場おきなわ公式Facebookやメールマガジンで公演情報を発信 3. 外部専門家等の意見 <ul style="list-style-type: none"> 公演事業委員会を開催し、外部専門家等の意見を聴取して、公演制作・公演計画に活用 4. アンケート調査 <ul style="list-style-type: none"> 全30公演にて実施(37回)、満足回答率91.6% 「Discover KUMIODORI」で上記のうち1回を実施、満足回答率89.5%(外国人の満足度は85.7%) 	<p>通して沖縄伝統芸能を横断的に捉えて公演を実施し、好評を得た。</p> <p><課題と対応></p> <ul style="list-style-type: none"> 目標入場者数が未達の公演が全30公演中18公演あり、全体として目標入場者数を達成することができなかった。上演機会が少ない演目や新作の上演・再演等、組踊や沖縄芝居をはじめ、沖縄伝統芸能全般の演目の拡充に努め、次世代への技法の継承を図ったものの、特に知名度が低い民俗芸能公演や沖縄芝居公演等、厳しい集客状況となった。企画立案時から内容や時期、広報宣伝、新たな観客層の掘り起こしや営業方法について、各課連携の上、工夫を行う必要がある。 	<p>向けの入門企画を継続的に実施していることは、観客層を広げる取組として評価できる。</p> <p><今後の課題・指摘事項></p> <ul style="list-style-type: none"> 目標が未達になっている公演については、その要因を分析し、目標の達成に努めることが求められる。 インバウンド拡大への貢献という観点からも、外国人のための組踊鑑賞教室については、成果の分析等を行い、体験型プログラムの実施等、事業の更なる拡充について検討する必要がある。 沖縄という立地を活かし、引き続き独自性のある企画を実施する必要がある。 <p><有識者からの意見></p> <p>—</p>
--	-------------	--	---	---	---	---

4. その他参考情報

特になし

様式1-1-4-1 中期目標管理法 年度評価 項目別評価調書(国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項)

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1-2-1-1-7	演目の拡充				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人日本芸術文化振興会法 第14条第1項第2号	業務に関連する政策・施策	政策目標12 文化による心豊かな社会の実現 施策目標12-1 芸術文化の振興	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ													
①主要なアウトプット(アウトカム)情報							②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)						
指標等	達成目標	前中期目標 期間最終年 度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
								決算額(百万円)	31	35	39	51	
								従事人員数(人)	48	44	45	45	

1)決算額は、
・振興会：各ジャンルの入場料収入及び公演費を計上。演目の拡充は、公演費のうち文芸費を計上している。(再掲)
・おきなわ財団：劇場入場料収入(財団自己財源)、公演費(財団自己財源)を計上している。
2)従事人員数は、各館の制作担当常勤職員の人数を計上している。その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評価	A
2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 伝統芸能の保存振興及び現代舞台芸術の振興普及を図るため、前中期目標期間の実績を踏まえ、より多くの人が幅広い分野の公演を鑑賞することを目標とし、伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演を行うこと。また、以下の観点からこれらの公演の充実等を図ること。 (1) 主催公演 ア 伝統芸能を古典伝承のままの姿で公開するように努めること。	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (1) 伝統芸能の公開 ア 歌舞伎公演 上演の途絶えた優れた演目・場面の復活、新作の上演等を実施 イ 文楽公演 上演の途絶えた優れた演目・場面の復活、新作の上演等を実施 オ 能楽公演 上演の途絶えた優れた演目の復曲、新作の上演等を実施 カ 組踊等沖縄伝統芸能公演 上演の途絶えた優れた演目の復曲、新作の上演等を実施	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (1) 伝統芸能の公開 イ 演目の拡充 ①(歌舞伎)「復活上演候補演目一覧」の見直し 「国立劇場文芸研究会」における上演候補台本準備稿の作成作業 歌舞伎の新作脚本募集の選考及び表彰 ②(文楽)新作の上演 廃絶演目の復曲作業及び上演準備作業 ③(大衆芸能)「漫才・コント」の新作脚本募集、選考及び表彰 ④(能楽)国立能楽堂及び他の能楽堂等で上演された新作・復曲作品の再演 ⑤(組踊等沖縄伝統芸能)上	<主な定量的指標> 特になし <その他の指標> 特になし <評価の視点> (27年度評価で指摘された取り組みべき課題) 特になし	<実績報告書等参照箇所> 平成28年度業務実績報告書P56～59 <主要な業務実績> 1. 復活上演候補演目の上演候補台本準備稿の作成作業 ・ 復活上演用準備台本「念力箭立相」の作成 2. 歌舞伎の新作脚本募集 ・ 優秀作1篇と清茶会奨励賞2篇の選出 3. 歌舞伎における復活等の上演 ・ 新たな脚本による「しらぬい譚」の上演(初春歌舞伎公演) ・ 「伊賀越道中双六」の再演(3月歌舞伎公演 26年度44年ぶりに上演した場を含む) 4. 文楽における新作の上演及び復曲等の上演準備作業 ・ 新作「新編西遊記 GO WEST!」の上演(文楽劇場夏休み文楽特別公演) ・ 新作「金壺親父恋差引」の文楽初上演(文楽劇場夏休み文楽特別公演) ・ 新作文楽上演準備稿の作成 ・ 「蘭奢待新田系図」小山田幸内住家の段の上演(8月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」) ・ 「花魁苔八総」藁六住家の段・丸塚山の段(文楽劇場10月「復曲試演会」)、行女塚の段・伴作住家の段(本館2月あぜくらの	<評定と根拠> 評定：A ・ 歌舞伎では、四世鶴屋南北作品「念力箭立相」の復活上演用準備台本を作成した。 ・ 合巻(長編小説)を原作とした新たな脚本を作成し、初春歌舞伎公演「しらぬい譚」を上演した。また3月歌舞伎公演「伊賀越道中双六」は、26年度に44年ぶりの復活上演を行った「岡崎」を、2年3か月ぶりに取り上げることでレパートリー定着を図り、さらに「円覚寺」を86年ぶりに復活した。これらは国立劇場ならではの取組、功績として高い評価を受けた。 ・ 能楽堂では、1月定例公演の狂言「鞍馬参」で台本及び演出の見直しを試みたほか、過去に国立能楽堂で復曲した作品や他の能楽堂等で復曲・新作された優れた作品を取り上げて上演するなど、演目の拡充に積極的に取り組んだ。	<評定に至った理由> 評価すべき実績の欄に示す通り、中期計画及び年度計画に定められた以上の業務の実績が認められるため。 <評価すべき実績> ・ 11月雅楽、9月太鼓の新作委嘱初演作品の上演等、計画にない取り組みを意欲的に進めており、計画を超える進捗が認められる。 ・ 歌舞伎では新たな脚本作品の上演、文楽では新作の上演及び廃絶演目の素浄瑠璃による復曲上演、能楽では新作及び再演、沖縄伝統芸能における新作上演等、精力的に演目の拡充を図ったことは評価できる。 <有識者からの意見> ・ 歌舞伎の復活上演は、意欲的に行われているが、近年、新作の上演が少ない。過去の脚本募集の入選作はもちろん、既成作家への依頼など、より頻繁に新作上演を行うことも望まれる。	

		<p>演機会が少ない優れた演目の上演</p> <p>古典の様式を踏まえた新作組踊の上演</p>	<p>集い「復曲素浄瑠璃試演会」、芳流閣の段(文楽劇場3月伝統芸能講座)の上演</p> <p>5. 大衆芸能の新作脚本募集</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成28年度(第18回)大衆芸能脚本募集漫才・コント部門の新作脚本を募集し、優秀作1篇、佳作2篇を決定 <p>6. 能楽における新作及び復曲の上演</p> <ul style="list-style-type: none"> 復曲及び新作の再演(4公演) 台本及び演出の見直しによる上演(1公演) <p>7. 組踊等沖縄伝統芸能における新作組踊等の上演と創作舞踊大賞の作品募集</p> <ul style="list-style-type: none"> 上演機会が少ない優れた演目の上演(5公演) 新作の上演・再演(7公演) 第7回国立劇場おきなわ創作舞踊大賞を募集し、大賞1作品、奨励賞1作品、佳作1作品を決定 <p>8. 創作委嘱作品の上演等</p> <ul style="list-style-type: none"> 舞楽「雉門松濤楽」の新作委嘱初演(本館11月雅楽) 邦楽雑子「鶴の寿」の新作委嘱初演(本館9月特別企画) 	<ul style="list-style-type: none"> 文楽劇場では、難易度の高い1公演での新作2作品の上演を実現した。 文楽の復曲作業を順調に実施し、素浄瑠璃での公開を進展させ、レパートリーの拡充に繋がる取組を実施できた。 国立劇場おきなわでは、組踊の様式を基に現代にも通じるテーマを扱った新作組踊、組踊のパロディーとして遊び心満載に制作した喜劇、沖縄芝居の普及を目的に解説等を織り交ぜながら構成した喜劇等、特色豊かな新作作品を制作した。どれも観客のニーズに応え、沖縄伝統芸能の発展に寄与する作品として発信することができた。 	
--	--	---	---	---	--

4. その他参考情報

特になし

様式1-1-4-1 中期目標管理法人 年度評価 項目別評定調書(国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項)

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1-2-1-2	連携協力・地方における上演等[伝統芸能の公開]				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人日本芸術文化振興会法 第14条第1項第2号	業務に関連する政策・施策	政策目標12 文化による心豊かな社会の実現 施策目標12-1 芸術文化の振興	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ													
①主要なアウトプット(アウトカム)情報							②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)						
指標等	達成目標	前中期目標期間最終年度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
								決算額(百万円)	32	63	61	45	
								従事人員数(人)	46	46	47	47	

1)決算額は、
 ・振興会：外部公演入場料(公演事業)、共催公演等収入、公演受託事業収入
 ・おきなわ財団：国受託事業収入(文化庁芸術祭・財団自己財源)を計上している。
 2)従事人員数は、各館の制作担当常勤職員及び国立劇場おきなわ業務管理職員の人数を計上している。
 ・歌舞伎(歌舞伎課)
 ・文楽(伝統芸能課、文楽劇場企画制作課企画制作係)
 ・大衆芸能(演芸課企画制作係、文楽劇場企画制作課企画制作係)
 ・能楽(能楽堂企画制作課企画制作係)
 ・組踊等沖縄伝統芸能(新国立劇場・おきなわ部管理課国立劇場おきなわ係)
 その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	B
2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 伝統芸能の保存振興及び現代舞台芸術の振興普及を図るため、前中期目標期間の実績を踏まえ、より多くの人が幅広い分野の公演を鑑賞することを目標とし、伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演を行うこと。また、以下の観点からこれらの公演の充実等を図ること。 (1) 主催公演 ア 伝統芸能を古典伝承のままの姿で公開するように努めること。	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (4)伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等 イ 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施 ウ 伝統芸能の保存振興の中核的拠点としての公演等の実施 ① 国、地方公共団体、芸術団体、企業等との連携協力公演等 ② 全国各地の文化施設等における公演等	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (4) 伝統芸能の公開の実施に際しての留意事項 ア 外部専門家等の意見聴取、観客へのアンケート調査の適宜実施 イ 我が国における伝統芸能の保存振興の中核的拠点として、次のとおり公演等を実施 ① 共催、受託などによる公演等を別表5のとおり実施 ② 全国各地の文化施設等における公演等と別表6のとおり実施	<主な定量的指標> 特になし <その他の指標> ・ アンケート調査 <評価の視点> (27年度評価で指摘された取り組むべき課題) 特になし	<実績報告書等参照箇所> 平成28年度業務実績報告書P60～64 <主要な業務実績> 1. 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施 ・ 各分野において専門委員による公演ごとのレポート提出及び年2回の公演専門委員会等の開催 ・ アンケート調査の実施(77公演89回、満足回答率88.4%) 2. 共催、受託などによる公演 ・ 文化庁芸術祭主催公演12公演、協賛公演20公演を実施 ・ 諸団体と良好な協力関係を築き、共催、受託等による公演を積極的に実施 3. 全国各地の文化施設等における公演 ・ 歌舞伎鑑賞教室静岡公演、歌舞伎鑑賞教室神	<評定と根拠> 評定：A ・ 平成28年度(第71回)文化庁芸術祭オープニング公演を受託し、実施した。また、オープニング公演を除く主催公演11公演及び協賛公演20公演を実施した。 ・ 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施、国・地方公共団体等との後援・協力、外部の公演や展示への協力等において目標を達成できた。 ・ 27年度は「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」として歌舞伎の1回公演で試行的に実施した外国人向けの鑑賞教室を、28年度は歌舞伎で2回に拡大し、さらに文楽(本館及び文楽劇場)、能楽、組踊とジャンルも大幅に拡大して実施した。上演に際しては、前年度の試行における成果や課題を踏まえ、大使館等への働きかけや、字幕、オーディオガイド並びにパンフレットの多言語化、さらに当日の外国人来場者の	<評定に至った理由> 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 自己評価ではA評定であるが、今後の課題・指摘事項に示す点について、更なる改善を期待したい。 <評価すべき実績> ・ 外国人向けの公演について、歌舞伎公演の回数を増加、文楽、能楽、組踊まで分野を大幅に拡充、多言語による音声解説、字幕表示、解説書の提供等を実施したことは、日本文化普及の観点からも高く評価できる。 <今後の課題・指摘事項> ・ 連携協力・地方における上演等については、計画を超える進捗は認められない。 ・ インバウンド拡大への貢献という観点から	

<p>オ 国、地方公共団体、他の劇場、音楽堂等、芸術団体、企業等との連携協力等を強化すること。</p> <p>カ 青少年等を対象とする公演の種類、回数を充実するとともに、各鑑賞事業の連携協力を強化すること。</p> <p>キ 国際文化交流の進展に寄与するとともに、伝統芸能及び現代舞台芸術に関する日本文化の海外発信にも努めること。</p>	<p>③ 国際文化交流の進展に寄与するための国等との連携協力公演等</p>	<p>③ 国際文化交流の進展に寄与する公演等を別表 7 のとおり実施</p>		<p>奈川公演を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 歌舞伎鑑賞教室の地方公演に職員スタッフを派遣し、現地にて国立劇場の技術やノウハウを提供 国立劇場おきなわ県外公演を実施(2公演) <p>4. 国際文化交流公演等</p> <ul style="list-style-type: none"> 27年度から大幅に拡大し、歌舞伎・文楽・能楽・組踊の各ジャンルにおいて、外国人向け公演を5公演6回実施【一部新規】 国立劇場おきなわにおいて、アジア・太平洋地域の芸能を紹介する企画を継続(「胡弓〜弓が奏でるアジアの調べ〜」) 本館「Discover KABUKI」において在日各国大使等の公演招待を実施 	<p>受け入れ態勢等について拡充を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 国立劇場おきなわでは、沖縄県内外の自治体に働きかけ、県内では11月に金武町で「組踊版・シンデレラ」を、竹富町で「男性舞踊家の会と『組踊版・スイミー』」を、県外では6月に京都市で「琉球舞踊と組踊(京都造形芸術大学と共催)と題して組踊「銘苺子」と琉球舞踊を、2月には大阪市で「琉球舞踊〜男性舞踊家の会〜」と題して琉球舞踊を上演し、組踊をはじめとした沖縄伝統芸能を県内外に広く紹介することができた。 「アジア・太平洋地域の芸能」は、胡弓という楽器に焦点を当て、日本・中国・韓国の各国の音楽を紹介することで、それぞれの楽器・音楽の独自性、またアジア圏内における類似性を照らし出した。擦弦楽器の演奏を中心とした公演は、県内ではほとんどない企画であり、多様な音楽を一度に鑑賞・比較できる貴重な機会となった。 	<p>も、外国人のための鑑賞教室については、成果の分析等を行い、体験型プログラムの実施等、事業の更なる拡充について検討する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 鑑賞機会の拡大の観点からも、地方公演の拡充を検討するなど、引き続きその充実が求められる。 <p><有識者からの意見></p> <ul style="list-style-type: none"> 各地方の拠点となる施設で、国立劇場での公演の録音・録画などを鑑賞できる機会を整えていくことができないか。
---	---------------------------------------	--	--	--	--	---

<p>4. その他参考情報</p>
<p>特になし</p>

様式1-1-4-1 中期目標管理法人 年度評価 項目別評価調書(国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項)

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1-2-1-3	快適な観劇環境の形成[伝統芸能の公開]				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人日本芸術文化振興会法 第14条第1項第2号	業務に関連する政策・施策	政策目標12 文化による心豊かな社会の実現 施策目標12-1 芸術文化の振興	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ													
①主要なアウトプット(アウトカム)情報							②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)						
指標等	達成目標	前中期目標期間最終年度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
								決算額(百万円)	1,221	774	1,167	988	
								従事人員数(人)	52	51	55	57	

1) 決算額は、
 ・振興会：解説書作成費、観客勧誘事務費、鑑賞会事務費、施設整備費(交付金)、施設整備費(補助金)
 ・おきなわ財団：解説書作成費(財団自己財源)、観客勧誘事務費(財団自己財源)、鑑賞会事務費(財団自己財源)、文化プログラム関係費(財団委託費)、施設整備費(交付金)を計上している。
 2) 従事人員数は、各館の施設整備・営業担当常勤職員及び国立劇場おきなわ業務管理職員の人数を計上している。
 ・施設整備(本館施設課、能楽堂事業推進課施設係、文楽劇場事業推進課施設係、新国立劇場・おきなわ部管理課国立劇場おきなわ係)
 ・営業(本館制作部宣伝課、営業部営業課・劇場課(施設利用室を除く)、演芸場営業課、能楽堂営業課(劇場利用係を除く)、文楽劇場営業課(劇場利用係を除く)、新国立劇場・おきなわ部管理課国立劇場おきなわ係)
 その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評価	B
2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (2) 快適な観劇環境の形成 各劇場の鑑賞者や観劇希望者の要望、利用実態等を踏まえたサービスを提供するとともに、高齢者、身体障害者、外国人等を含めた来場者本位の快適な観劇環境を形成することにより、来場者の満足度の向上を図ること。 また、これらを把握する手法として、観客に対するアンケート調査や劇	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (5) 快適な観劇環境の形成 観客本位の快適な環境の形成のため、次のとおりサービスの向上に努め、観客の満足度の向上を図る。 ア 高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適で安全な劇場施設の整備、各種サービスの充実 イ 入場券販売において、利用者にとって利便性の高い多様な購入方法	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (5) 快適な観劇環境の形成 ア 売店・レストラン等におけるサービスの充実、観劇時のマナーの呼びかけ、高齢者、障害者、外国人等の利用者にも配慮した劇場内外の環境整備等各種サービスの充実 イ 入場券販売における観客の利用形態に応じた多様な購入方法の提供 ウ 公演内容に応じて、解説書等の作成並びに音声同時解説及び字幕表示の実施	<主な定量的指標> 特になし <その他の指標> ・ 音声同時解説等の実施状況 ・ 公演説明会、施設見学等の状況 <評価の視点> (27年度評価で指摘された取り組むべき課題) ・ 快適な観劇環境の提供、外国人利用者への対応等は2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け継続	<実績報告書等参照箇所> 平成28年度業務実績報告書P92~105 <主要な業務実績> 1. 快適で安全な観劇環境の提供、外国人利用者等への対応 ・ 観客用設備の適切な維持管理・改善を実施 ・ 各館の売店・レストランのサービス改善のため、アンケート調査及び委託業者との定期的な会議を実施 ・ 職員や委託業者などによる消防訓練、避難訓練等を実施するとともに、利用者の安全を確保するための設備改修等を実施 ・ 外国人利用者への対応として、劇場内外の案内表示の整備、外国語によるチラシ・リーフレット等を提供 ・ 障害者差別解消法の施行に伴い、相談窓口を設置 ・ その他、観客サービスの向上に繋がる取組を適宜実施 ・ 国立劇場開場50周年記念公演上演にあたり観客用設備の整備及び特別仕様のチケットケースやオリジナル	<評価と根拠> 評価：B ・ 快適で安全な観劇環境の提供のため、設備等の整備やサービスの改善を適切に実施した。 ・ 観客の利用傾向や要望に応じて、親子を対象とする公演の先行販売等、チケット購入における利便を図った。 ・ 公演内容に応じて、解説書や音声同時解説、字幕表示、公演説明会等のサービスを実施し、公演内容の理解のための一助とした。 ・ 意見・要望等により迅速に対応し、サービスの向上等業務改善を図った。 ・ 意見・要望等を集計し、前年度データとの比較・分析を行った。 ・ 観客食堂サービス向上推進チームの活動を通じ、食堂サービスの改善に努めた。	<評価に至った理由> 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 <評価すべき実績> ・ 外国人向けの公演において、多言語による解説書、音声解説、字幕等、理解向上のための取組を多様に展開したことは評価できる。 <今後の課題・指摘事項> ・ 快適な観劇環境の提供、外国人来場者への対応等は2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け継続的に改善していくことが求められる。 <有識者からの意見> —	

<p>場モニター制度等を活用すること。</p>	<p>を提供 ウ 解説書等の作成、音声同時解説や字幕表示、公演内容の説明会等などのサービスの提供 エ アンケート調査や劇場モニターの活用等</p>	<p>鑑賞団体等に対し、公演内容の事前説明会や施設見学会を開催 エ アンケート調査等の活用により、観客等の要望、利用実態等を把握、サービスの向上に活用 意見・要望の一元的管理、対応の迅速化と職員間の情報共有の強化、内容の集計・分析結果をサービス向上に活用</p>	<p>的に改善していくが望まれる。</p>	<p>グッズの作成 ・ 快適な観劇環境を促進するためのマナーチラシ(日本語・英語)の作成 ・ 国立劇場開場50周年記念公演の開始に合わせた装飾等の整備を実施 ・ 隼町地区敷地内の道路及び駐車場の白線引き直し等の実施 ・ 本館大劇場及び小劇場のロビー床及び便所ブースの改修工事を実施 ・ 本館大劇場及び能楽堂のロビー階段の手摺を増設 ・ 本館大劇場にて、四季を感じられるロビー飾り等の実施 ・ 文楽劇場の1階ロビーと2階劇場を結ぶ大階段中央に手摺を新設 ・ 各館の外国人向け公演において、パンフレットの作成及び字幕表示等の多言語対応を実施 2. 多様なチケット購入方法の提供 ・ インターネットチケット販売においても障害者割引を開始し、障害者の利便性を向上 ・ チケット売場窓口で使用できるクレジットカードのブランドを拡大し、利便性を向上 ・ 本館・演芸場・能楽堂における親子企画公演の親子先行発売を実施 ・ チケットセンターホームページに各館の親子企画を紹介する特設サイトを設置 ・ 10～12月歌舞伎公演「仮名手本忠臣蔵」3か月通しセット券を販売 ・ 三井記念美術館で開催された特別展「国立劇場開場50周年記念 日本の伝統芸能展」の観覧者(10月～3月歌舞伎公演、12月・2月文楽公演)や読売新聞読者(3月歌舞伎公演)に対し、特別割引販売を実施 ・ 東日本大震災被災者招待を実施 ・ 文楽劇場における文楽本公演で幕見席を販売 3. 公演内容等の理解促進のための取組 ・ 公演内容に適した解説書等を作成 ・ 歌舞伎・文楽公演にて音声同時解説を実施、計106公演において字幕表示を実施 ・ 公演内容の事前説明会を216件8,315名、施設見学会を52件944名、バックステージツアーを107件3,664名に対し開催 ・ 国立劇場おきなわで、旅行者と提携した組踊鑑賞ツアーにおいて、公演鑑賞前に組踊ワークショップを実施し、計8回で78名が参加 4. 意見・要望等の把握と対応</p>	<p>・ 障害者差別解消法の施行に伴い、振興会ホームページ内に相談窓口を設けるなど、相談体制の整備に努めた。 ・ 本館大劇場ロビーにおいて来場者が日本の四季を感じられるよう、季節毎に造花等を飾り、ライティングを行った。 ・ 国立劇場開場50周年記念公演上演にあたり、特別仕様のチケットケースやオリジナルグッズを作成した。 ・ 千代田区等と連携して「国立劇場通り」等に提灯や懸垂幕の装飾を取付け、来場者に国立劇場開場50周年をPRするとともに、来場時の高揚感や観劇後の余韻を楽しめるよう努めた。 ・ 本館大劇場及び小劇場の絨毯を全面更新し、華やかなロビー空間を演出した。また、本館大劇場及び小劇場の便所ブースを更新し、個室空間スペースの充実を図った。 ・ 本館大劇場及び能楽堂等のロビー階段の手摺を増設し、来場者の安全性を高めた。 ・ 隼町地区敷地内の道路及び駐車場の白線を引き直すなど、敷地内交通の整理と歩行者の安全を図った。</p> <p><課題と対応> ・ バリアフリー化等、劇場施設の改善を引き続き検討する。 ・ サービスの質の維持・向上について、引き続き検証・改善に努める。</p>	
-------------------------	---	---	-----------------------	---	---	--

				<ul style="list-style-type: none"> ・ 意見・要望等を一元的に把握し、より迅速に対応 ・ 対応状況に関し全役職員及び委託業者で情報を共有 ・ 意見・要望等を踏まえサービス等を改善 ・ 意見・要望等を集計・分析 		
--	--	--	--	---	--	--

4. その他参考情報						
特になし						

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1-2-1-4	広報・営業活動の充実[伝統芸能の公開]				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人日本芸術文化振興会法 第14条第1項第2号	業務に関連する政策・施策	政策目標12 文化による心豊かな社会の実現 施策目標12-1 芸術文化の振興	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ																																																																								
①主要なアウトプット(アウトカム)情報								②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)																																																																
指標等		達成目標	前中期目標期間最終年度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度																																																										
ホームページアクセス件数(振興会)	計画値	前中期目標期間の実績(平均1,996,878件)以上	1,950,000件	2,000,000件	2,100,000件	2,400,000件	3,000,000件			決算額(百万円)	326	338	318	431																																																										
	実績値	—	2,306,557件	2,623,429件	2,876,551件	3,135,970件	3,256,254件			従事人員数(人)	56	57	60	62																																																										
	達成度	—	118.3%	131.2%	137.0%	130.7%	108.5%			(この領域は斜線表示されています)																																																														
ホームページアクセス件数(国立劇場おきなわ)	計画値	前中期目標期間の実績(平均224,246件)以上	206,000件	216,000件	236,000件	288,000件	293,000件								(この領域は斜線表示されています)																																																									
	実績値	—	259,376件	374,989件	373,859件	305,370件	330,365件		(この領域は斜線表示されています)																																																															
	達成度	—	125.9%	173.6%	158.4%	106.0%	112.8%													(この領域は斜線表示されています)																																																				
会員数(あぜくら会)	計画値	前中期目標期間の実績(最終17,629人)以上	17,800人	18,000人	18,000人	18,000人	18,000人																		(この領域は斜線表示されています)																																															
	実績値	—	17,629人	17,935人	17,934人	18,111人	18,694人																							(この領域は斜線表示されています)																																										
	達成度	—	99.0%	99.6%	99.6%	100.6%	103.9%																												(この領域は斜線表示されています)																																					
会員数(国立文楽劇場友の会)	計画値	前中期目標期間の実績(最終7,651人)以上	7,500人	7,450人	7,700人	7,900人	8,100人																																	(この領域は斜線表示されています)																																
	実績値	—	7,651人	7,842人	8,148人	8,279人	8,316人																																						(この領域は斜線表示されています)																											
	達成度	—	102.0%	105.3%	105.8%	104.8%	102.7%																																											(この領域は斜線表示されています)																						
会員数(国立劇場おきなわ友の会)	計画値	前中期目標期間の実績(最終2,193人)以上	1,550人	1,700人	2,200人	2,200人	2,200人																																																(この領域は斜線表示されています)																	
	実績値	—	2,193人	2,073人	1,952人	1,992人	1,810人																																																					(この領域は斜線表示されています)												
	達成度	—	141.5%	121.9%	88.7%	90.5%	82.3%																																																										(この領域は斜線表示されています)							

1) 決算額は、
 ・振興会：各館の公演費のうち宣伝費、宣伝諸費、鑑賞会事務費
 ・おきなわ財団：公演費のうち宣伝費(財団自己財源)、宣伝諸費(財団自己財源)、鑑賞会事務費(財団自己財源)、文化プログラム関係費(財団委託費)を計上している。

2) 従事人員数は、各館の広報担当・営業担当常勤職員及び国立劇場おきなわ業務管理職員の人数を計上
 ・広報(本館総務課(総務係を除く)、情報推進課、新国立劇場・おきなわ部管理課国立劇場おきなわ係)
 ・営業(本館営業部(劇場課を除く)、演芸場営業課、能楽堂営業課(劇場利用係を除く)、文楽劇場営業課(劇場利用係を除く)、新国立劇場・おきなわ部管理課国立劇場おきなわ係)
 その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
					業務実績	自己評価	評価	B
	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演(3) 広報・営業活動の充実 年間の主催公演を通して購入できるシーズンシートの拡充など、より効果的な広報・営業活動を展開すること。 なお、ホームページについては、利用者が最新の情報に容易にアクセスできるようにするとともに、アクセス件数については前中期目標期間の実績以上とすること。	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (6) 広報・営業活動の充実 より多くの人が幅広い分野の公演を鑑賞することを目標として、次の取組により一層効果的な広報・営業活動を展開 ア 公演内容に応じた効果的な宣伝活動、各種事業に関する広報の充実 イ 観客の需要を的確に捉えた営業活動 ウ 会員に向けた各種サービスの提供による会員の観劇機会の増加	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (6) 広報・営業活動の充実 ア 効果的な広報・営業活動の展開 ① 公演内容に応じて、記者会見・取材等によるマスメディアを通じた広報や、インターネット広告等の多様な媒体を活用して、広報活動を効果的に実施 ② 各種事業に関する広報の充実を努め、ホームページ等を活用して随時最新の情報を提供、 (a) ホームページについて、各種情報の早期掲載及び内容の充実、アクセス動向等分析 ・日本芸術文化振興会ホームページ目標アクセス件数：3,000,000件 ・国立劇場おきなわホームページ目標アクセス件数：293,000件 (b) メールマガジンにより、公演等の情報を随時配信 (c) 外国語版のホームページやパンフレット等の充実を図り、外国人に対する情報発信を強化 (d) 国立劇場開場50周年記念事業について、特別ポスター・チラシ、ホームページ上の特設サイト等の広報活動を実施 ③ 各種事業に関する広報誌を次のとおり発行 ・日本芸術文化振興会ニュース(毎月発行) ・国立劇場おきなわ情報誌「華風」(毎月発行) ④ シーズンシートやセット券等の企画・販売、各種キャンペーンを企画・実施 ⑤ 団体観劇促進のため、公演内容に応じた営業活動を展開、旅行代理店・ホテル等との連携を強化 ⑥ 「国立劇場キャンパスメンバーズ」の運営、サービスの提供、拡充 ⑦ 全職員が積極的に団体観劇を勧誘する「おすすめキャンペーン」を引き続き実施 イ 個人を対象とする会員組織の会員に対し、会報による情報提供を定期的実施、入場券の会員先行販売や会員向けイベント等の各種サ	<主な定量的指標> ・ ホームページアクセス件数 ・ 会員数 <その他の指標> 特になし <評価の視点> (27年度評価で指摘された取り組みべき課題) ・ 「国立劇場キャンパスメンバーズ」の利用者が大幅増加したことなど、成果の上がった取組は、その内容を分析し、他の劇場において同様の取組を行う際には、反映させることが望まれる。	<実績報告書等参照箇所> 平成28年度業務実績報告書P106～119 <主要な業務実績> 1. 効果的な広報・営業活動の展開 ・ 団体観劇を促進するため、公演内容に応じた営業活動を展開 ・ マスコミ各社への記者会見や取材依頼のほか、各種媒体により公演情報を周知 ・ 公演内容に応じて各種セット券等を販売 ・ 英語版ホームページの改善、公演情報の早期掲載、特設サイトの開設、SNS(Facebook、Twitter)の活用等によりホームページの内容を充実化、メールマガジンを随時配信 ・ 振興会、国立劇場おきなわの各ホームページにおいて目標アクセス件数を大幅に超えて達成 ・ 旅行代理店・ホテル等との連携を強化 ・ 国立劇場開場50周年記念公演に関連したイベントや営業活動を実施 ・ 「日本芸術文化振興会ニュース」、国立劇場おきなわ会報誌「華風」等の広報誌を発行 ・ 国内および訪日外国人等スマートフォン利用者のホームページ利用環境向上のため、振興会ホームページをスマートフォン用に対応 ・ 外国人来場者の誘致のため、6月に「Discover KABUKIー外国人のための歌舞伎鑑賞教室ー」において各国駐日大使等大使館関係者を招待(41か国69人が参加) ・ 9月に、有楽町駅周辺まちづくり協議会の協力を得て、有楽町駅前地上広場で国立劇場開場50周年事業の周知及び文化プログラムの一環として、「有楽町×国立劇場(Yurakucho Times National Theatre)」を実施 ・ 11月に、日本橋福徳の森で国立劇場開場50周年記念イベントを実施 ・ 法人を対象とする事前登録制の団体チケット販売システム「法人利用サービス」を提供 ・ 大学等を対象とする会員制度「国立劇場キャンパスメンバーズ」のサービスを提供 ・ 全職員が積極的に観劇を勧誘する「ご観劇おすすめキャンペーン」を引き続き実施 ・ 「国立劇場開場50周年記念サイト」及び「国立劇場歌舞伎情報サイト」に、公演に関する情報やトピックスを掲載して周知	<評定と根拠> 評定：B ・ 公演内容に応じた広報活動を実施し、公演情報の周知拡大を図り、一般の集客に努めた。 ・ 各種キャンペーン等、公演内容に応じた広報・営業活動を実施した。 ・ 国立劇場開場50周年記念公演に関連したイベントや営業活動を実施した。 ・ 国立劇場開場50周年事業の周知及び文化プログラムの一環として実施した「有楽町×国立劇場(Yurakucho Times National Theatre)」では、計6回芸能の上演を行い、各回400～500名の集客を得たほか、記念公演等のチラシ等の配布、ポスターの掲出等を行って周知を図った(9/18)。 ・ 国立劇場開場50周年記念イベント(日本橋福徳の森)では、日本舞踊や着物の所作ワークショップ等上演し、買い物客等のべ1,500名程度の観客を集めたほか、記念公演等のチラシや英文チラシを5,000部配布して周知を図った(11/12・13)。 ・ 「国立劇場キャンパスメンバーズ」のサービス内容を拡充し、利用者を増加させることができた。 ・ 会員組織については、イベントの開催等、サービスの充実に努め、概ね会員数の目標を達成することができた。 ・ 文楽劇場では、各種キャンペーンやホームページを利用した広報などにより、公演内容に応じた広報・営業活動を実施した。広報活動を一層強化し好結果を得た。 ・ 国立劇場おきなわでは、沖縄県や旅行者と連携して、組踊ワークショップを含む組踊鑑賞ツアーを実施した(8回、参加者計78名)。	<評定に至った理由> 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 <評価すべき実績> ー <今後の課題・指摘事項> ・ 国立劇場開場50周年記念事業としての広報等の成果については、その費用対効果も含め検証が必要である。 ・ 広報、営業活動等については、各館で連携を図るなど、最大限の効果が図られるよう法人全体で戦略的に取り組む必要がある。 ・ 観客層拡大の観点からも、SNS等を活かした報・営業活動等については、積極的に取り組むことが求められる。 <有識者からの意見> ー	

		<p>ービスを提供、アンケート調査の結果等を、会員向けサービスの充実に活用、会員向けサービスの充実に活用、会員向けサービスの周知による、新規会員の増加</p> <p>① あぜくら会(本館・演芸場・能楽堂)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会報「あぜくら」(毎月発行) ・ 会員向けイベント：年8回程度 ・ 目標会員数：18,000人 <p>② 国立文楽劇場友の会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「国立文楽劇場友の会会報」(年6回発行) ・ 会員向けイベント：年6回程度 ・ 目標会員数：8,100人 <p>③ 国立劇場おきなわ友の会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「国立劇場おきなわ友の会会報」(年4回発行) ・ 会員向けイベント：年3回程度 ・ 目標会員数：2,200人 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 能楽堂の「主催公演予定表」(年間スケジュール)を継続して作成 ・ 文楽劇場のホームページにおいて、技芸員のインタビュー動画の公開を開始したほか、公演記録映像を活用したダイジェスト版動画の作成を全ての文楽公演において実施 ・ 文楽劇場独自のコンテンツである「文楽かんげき日誌」を継続して実施 ・ 文楽劇場では文楽本公演において幕見席を販売 ・ 国立劇場おきなわホームページを改修し、中国語版・韓国語版ページを公開、スマートフォンやタブレットでの閲覧に対応 <p>2. 会員組織の運営、会員向けサービスの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会員組織の会員に対し、会報による情報提供及び先行販売、会員向けイベント等のサービスを実施 ・ あぜくら会、国立文楽劇場友の会において目標会員数を達成 ・ 会員サービスの充実及び新規入会キャンペーン等による入会促進 	
--	--	--	--	---	--

4. その他参考情報
特になし

様式1-1-4-1 中期目標管理法 年度評価 項目別評価調書(国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項)

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1-2-2-1-1	オペラ				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人日本芸術文化振興会法 第14条第1項第2号	業務に関連する政策・施策	政策目標12 文化による心豊かな社会の実現 施策目標12-1 芸術文化の振興	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット(アウトカム)情報								②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)						
指標等		達成目標	前中期目標期間最終年度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
公演数	計画値	年間12公演程度	11公演	11公演	12公演	11公演	11公演			決算額 収入(百万円)	898	925	962	1,009
	実績値	—	11公演	11公演	12公演	11公演	11公演			決算額 支出(百万円)	1,224	1,313	1,127	1,051
	達成度	—	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%			従事人員数(人)	4	4	4	4
入場者数	計画値	前中期目標期間の実績(計404,192人)以上	74,260人	74,900人	76,332人	75,400人	74,300人							
	実績値	—	78,872人	76,599人	73,444人	79,658人	79,321人							
	達成度	—	106.2%	102.3%	96.2%	105.6%	106.8%							

1) 決算額は、各ジャンルの入場料収入及び公演費を計上している。
 2) 従事人員数は、新国立劇場・おきなわ部管理課新国立劇場系の常勤職員の人数を計上している。その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評価	B
2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 伝統芸能の保存振興及び現代舞台芸術の振興普及を図るため、前中期目標期間の実績を踏まえ、より多くの人が幅広い分野の公演を鑑賞することを目標とし、伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演を行うこと。また、以下の観点からこれらの公演の充実等を図ること。 (1) 主催公演	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (2) 現代舞台芸術の公演 国際的に比肩し得る高い水準の現代舞台芸術を自主制作により公演 ア オペラ公演 名作と呼ばれる代表的な作品を上演するとともに、新たに制作する作品や上演機会の少ない優れた作品、日本の作曲家の作品の上演にも努め、そ	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (2) 現代舞台芸術の公演 現代舞台芸術の振興と普及を図るため、中期計画の方針に従い、別表2のとおり主催公演を実施	<主な定量的指標> ・ 公演数 ・ 入場者数 <その他の指標> ・ 名作と呼ばれる代表的な作品の上演、新制作や上演機会の少ない公演、日本の作曲家の作品の上演 ・ アンケート調査 <評価の視点> (27年度評価で指摘された	<実績報告書等参照箇所> 平成28年度業務実績報告書P67~69 <主要な業務実績> 1. 公演実績 ・ 本公演10公演と鑑賞教室1公演を計画どおり実施 ・ オペラ公演全体で目標入場者数を達成 ・ 「ウェルテル」「ワルキューレ」「ルチア」を新制作で上演 ・ 繰り返し再演可能なスタンダードなレパートリー作品として「ウェルテル」を新制作 ・ 楽劇「ニーベルングの指環」4部作の第1日「ワルキューレ」を高水準で上演し、残り2作品への期待を高める舞台成果 ・ モンテカルロ歌劇場との共同制作でベルカント・オペ	<評価と根拠> 評価：B ・ 11公演(本公演10公演、鑑賞教室1公演)を計画どおり実施し、全公演で目標値を上回る入場者数を達成した。 ・ いずれの公演も高い水準で上演され、外部専門家、評論家及び観客の高い評価を得た(アンケート満足率86.5%)。 ・ 新制作のうち、「ワルキューレ」はフィンランド国立歌劇場、「ルチア」はモンテカルロ歌劇場との連携協力により制作した。また「ルチア」では、公演関連イベントやレクチャーを実施して、作品の歴史的背景や意義、鑑賞の機会が少ない楽器の魅力にも触れ、幅広い普及に	<評価に至った理由> 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 <評価すべき実績> ・ 新制作と人気オペラの再演を組み合わせた多彩な作品を、歌唱・演奏ともに高いレベルで上演したことは評価できる。 <今後の課題・指摘事項> — <有識者からの意見> —	

<p>イ 国際的に比肩しうる高い水準の現代舞台芸術を自主制作により公演すること。</p> <p>ウ 公開・公演の目的、期待する成果等を明確にし、外部の専門家等からの意見や鑑賞者の要望等を踏まえた評価等を行い、事業の充実に反映させること。</p> <p>エ より幅広く多くの人々が鑑賞することを目指して、分野ごとに前中期目標期間の実績を超えるよう、個々の公演において、適切な鑑賞者数の目標を設定し、その達成に努めること。</p>	<p>れらをレパトリーとして蓄積し、繰り返し上演することにより、オペラの振興と普及を図る。</p> <p>年間12公演程度実施</p>		<p>取り組むべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目標が未達となっている公演については、その要因を分析し、目標の達成に努めることが求められる。 	<p>ラ最高傑作のひとつ「ルチア」を新制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「夕鶴」を全役日本人歌手で上演、「蝶々夫人」をオペラ研究所修了生が主演 <p>2. 営業・広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 画像・動画を多用したホームページ及びSNS(Facebook、Twitter)の活用により、興味を喚起 ・ 若年層向け特別優待制度 U25 優待メンバーズ等の実施により、学生及び若年層を勧誘 <p>3. 外部専門家等の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し意見を聴取、後の事業運営に活用 <p>4. アンケート調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全11公演で実施(16回)、満足回答率86.5% 	<p>努めた。</p>	
---	---	--	--	--	-------------	--

4. その他参考情報

特になし

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1-2-2-1-2	バレエ				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人日本芸術文化振興会法 第14条第1項第2号	業務に関連する政策・施策	政策目標12 文化による心豊かな社会の実現 施策目標12-1 芸術文化の振興	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ															
①主要なアウトプット(アウトカム)情報								②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)							
指標等		達成目標	前中期目標期間最終年度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
公演数	計画値	年間6公演程度	7公演	6公演	7公演	7公演	7公演			決算額 収入(百万円)	283	313	318	368	
	実績値	—	7公演	6公演	7公演	7公演	7公演			決算額 支出(百万円)	464	558	465	397	
	達成度	—	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%			従事人員数(人)	4	4	4	4	
入場者数	計画値	前中期目標期間の実績(計222,023人)以上	44,900人	35,800人	42,400人	47,400人	48,500人								
	実績値	—	43,957人	36,511人	47,844人	50,576人	58,288人								
	達成度	—	97.9%	102.0%	112.8%	106.7%	120.2%								

1)決算額は、各ジャンルの入場料収入及び公演費を計上している。
2)従事人員数は、新国立劇場・おきなわ部管理課新国立劇場系の常勤職員の人数を計上している。その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評価	A
2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 伝統芸能の保存振興及び現代舞台芸術の振興普及を図るため、前中期目標期間の実績を踏まえ、より多くの人が幅広い分野の公演を鑑賞することを目標とし、伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演を行うこと。また、以下の観点からこれらの公演の充実等を図ること。 (1) 主催公演 (2) 国際的に比肩しうる高	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (2)現代舞台芸術の公演 国際的に比肩し得る高い水準の現代舞台芸術を自主制作により公演 イ バレエ公演 スタ ンダードな演目を多彩なキャストで上演するとともに、国内外の振付家による質の高い新国立劇場のオリジナル作品の企画・上演にも努め、それらをレパートリ	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (2)現代舞台芸術の公演 現代舞台芸術の振興と普及を図るため、中期計画の方針に従い、別表2のとおり主催公演を実施	<主な定量的指標> ・ 公演数 ・ 入場者数 <その他の指標> ・ スタandardな演目を上演するとともに、国内外の振付家による質の高いオリジナル作品の企画・上演 ・ アンケート調査 <評価の視点> (27年度評価で指摘された取り組むべき課題)	<実績報告書等参照箇所> 平成28年度業務実績報告書P70~72 <主要な業務実績> 1. 公演実績 ・ 本公演6公演とこどものためのバレエ劇場1公演を計画どおり実施 ・ バレエ公演全体で目標入場者数を達成(達成度120.2%)するとともに、新国立劇場開場以来最高の入場者数を記録 ・ こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」を新制作 ・ 新制作「こどものためのバレエ劇場『白鳥の湖』」では、こどもバレエとして過去最高の入場者数及び入場率(入場者数11,453人、入場率96.0%)を記録 2. 営業・広報 ・ 画像、動画を多用したホームページ及び	<評価と根拠> 評価:A ・ 7公演を計画どおり実施した。入場者数については全公演で目標値を大きく上回るとともに、新国立劇場開場以来最高の入場者数を記録した(7公演中4公演で90%を超える入場率を記録)。 ・ 古典作品から現代作品まで幅広いレパートリーを、技術面、表現、音楽性などいずれも極めて高い水準で上演し、評論家、外部専門家、観客から高い評価を得た(アンケート満足回答率97.1%)。 ・ 20世紀における演劇バレエの最高峰の一つである、マクミラン版「ロメオとジュリエット」では、演劇的表現、高度なテクニック、リフトを通してドラマティックに	<評価に至った理由> 評価すべき実績の欄に示す通り、中期計画及び年度計画に定められた以上の業務の実績が認められるため。 <評価すべき実績> ・ 入場者数については各公演で目標値を上回っており、全体の入場者数でも、120.2%という高い成果を達成している。 ・ こどもためのバレエ劇場「白鳥の湖」を新制作し、同企画で過去最高の入場者数及び入場率を達成している。 ・ 古典の人気作品から現代作品まで幅広く取り上げ、新国立劇場開場以来最高の入場者数を達成したことは高く評価できる。	

<p>い水準の現代舞台芸術を自主制作により公演すること。</p> <p>ウ 公開・公演の目的、期待する成果等を明確にし、外部の専門家等からの意見や鑑賞者の要望等を踏まえた評価等を行い、事業の充実に反映させること。</p> <p>エ より幅広く多くの人が鑑賞することを目指して、分野ごとに前中期目標期間の実績を超えるよう、個々の公演において、適切な鑑賞者数の目標を設定し、その達成に努めること。</p>	<p>一として蓄積し、繰り返し上演することにより、バレエの振興と普及を図る。年間6公演程度実施</p>		<ul style="list-style-type: none"> 「くるみ割り人形」において SNS 等を活用した宣伝広報により、過去最高の入場者数を達成したことなど、成果の上があった取組についてはその内容を分析し他の公演における広報宣伝等の取組にも繋げることが望まれる。 	<p>SNS (Facebook、Twitter) の活用により、興味を喚起</p> <ul style="list-style-type: none"> 若年層向け特別優待制度「U25 優待メンバーズ」等の実施により、学生及び若年層を勧誘 SNS やメール等、インターネットを積極的に活用した積極的な営業、広報活動により、「アラジン」「ロメオとジュリエット」「シンデレラ」ではいずれも 94% を超える入場率 <p>3. 外部専門家等の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し意見を聴取、後の事業運営に活用 <p>4. アンケート調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 全7公演で実施(7回)、満足回答率 97.1% 	<p>舞台を創り上げ観客の感動を呼んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ヴァレンタイン・バレエ」では、集客が難しいミックス・プログラムでありながら、パランシン振付「テーマとヴァリエーション」を軸に、ガラ公演風にグラン・パ・ド・ドゥなどを数作品入れ、また男性のみで上演する現代作品「トロイ・ゲーム」を加えた組合せで企画、上演し、目標を上回る集客を得た。 新国立劇場バレエ団プリンシパルの米沢唯が、「ロメオとジュリエット」におけるヒロインの情熱や、愛と死を通じての内面的成長、物語の悲劇的テーマを繊細に描いた役作りに対し、平成28年度(第67回)芸術選奨の舞踊部門で文部科学大臣新人賞を受賞した。 新国立劇場バレエ団ソリストの木村優里の優れた踊りが高く評価され、週刊オンステージ新聞「2016年新人(舞踊家)ベスト1」を受賞した。 	<ul style="list-style-type: none"> 新国立劇場バレエ団プリンシパル米沢唯が芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞したことは、新国立劇場バレエ団が人材育成の上でも成果を挙げていることとして評価できる。 <p><今後の課題・指摘事項></p> <p>—</p> <p><有識者からの意見></p> <ul style="list-style-type: none"> 主役級を中心にダンサーの力量に向上が見られ、芸術性も高い。コール・ド・バレエの動きの質の高さも世界的なレベルにあると断言でき、揃っていること、形が美しいことを超えた表現力が期待される。現代作品は質、上演回数とも古典に比べると物足りないが、団内(特に、古典ではしどころのあまりない男性ダンサー)の士気を高く保つためには時代の先端を行くような良質な作品の導入が不可欠であり、より意欲的なプログラム構成が望まれる。
--	---	--	---	--	---	--

<p>4. その他参考情報</p>
<p>特になし</p>

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1-2-2-1-3	現代舞踊				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人日本芸術文化振興会法 第14条第1項第2号	業務に関連する政策・施策	政策目標12 文化による心豊かな社会の実現 施策目標12-1 芸術文化の振興	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ															
①主要なアウトプット(アウトカム)情報										②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)					
指標等		達成目標	前中期目標期間最終年度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
公演数	計画値	年間4公演程度	4公演	4公演	4公演	4公演	4公演	4公演			決算額 収入(百万円)	26	26	32	25
	実績値	—	4公演	4公演	4公演	4公演	4公演	4公演			決算額 支出(百万円)	52	61	58	55
	達成度	—	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%			従事人員数(人)	4	4	4	4
入場者数	計画値	前中期目標期間の実績(計27,081人)以上	5,310人	5,550人	4,900人	5,950人	4,000人								
	実績値	—	6,024人	5,616人	5,598人	7,297人	4,957人								
	達成度	—	113.4%	101.2%	114.2%	122.6%	123.9%								

1)決算額は、各ジャンルの入場料収入及び公演費を計上している。
2)従事人員数は、新国立劇場・おきなわ部管理課新国立劇場系の常勤職員の人数を計上している。その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評価	A
2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 伝統芸能の保存振興及び現代舞台芸術の振興普及を図るため、前中期目標期間の実績を踏まえ、より多くの人が幅広い分野の公演を鑑賞することを目標とし、伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演を行うこと。また、以下の観点からこれらの公演の充実等を図ること。 (1) 主催公演 イ 国際的に比肩しうる高	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (2)現代舞台芸術の公演 国際的に比肩し得る高い水準の現代舞台芸術を自主制作により公演 ウ 特徴あるスタイルを持つ振付家による斬新な企画作品や、国内外で高い評価を得ている作品等を上演し、現代舞踊の振興と普及を図る。 年間4公演程度実施	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (2)現代舞台芸術の公演 現代舞台芸術の振興と普及を図るため、中期計画の方針に従い、別表2のとおり主催公演を実施	<主な定量的指標> ・ 公演数 ・ 入場者数 <その他の指標> ・ 特徴あるスタイルを持つ振付家による斬新な企画作品や国内外で高い評価を得ている作品等を上演 ・ アンケート調査 <評価の視点> (27年度評価で指摘された取り組むべき課題)	<実績報告書等参照箇所> 平成28年度業務実績報告書P73~74 <主要な業務実績> 1. 公演実績 ・ 4公演を計画どおり実施 ・ 現代舞踊公演全体で目標入場者数を達成(達成度123.9%) 2. 営業・広報 ・ 画像、動画等を多用したホームページ及びSNS(Facebook、Twitter)の活用により、興味を喚起 3. 外部専門家等の意見 ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し意見を聴取、後の事業運営に活用 4. アンケート調査	<評価と根拠> 評価:A ・ 4公演を計画どおり実施した。入場者数については全公演で目標値を大きく上回った(達成度123.9%)。 ・ いずれの公演も、画期的で多彩な企画内容と高い水準の外部専門家や観客から極めて高い評価を得た(アンケート満足回答率91.6%)。 ・ 平成26年度文化庁芸術選奨(メディア芸術部門)文部科学大臣賞を受賞した、高谷史郎ディレクションによる舞台作品「CHROMA(クロマ)」が、新国立劇場の広い舞台空間、照明・音響・映像機材、優秀な舞台スタッフとカンパニー側の技術スタッフとの良いチームワークにより、新国立劇場ならではの最新の現代パフォーマンス作品に生まれ変わり、通常のパレエ・ダンス公演に	<評価に至った理由> 評価すべき実績の欄に示す通り、中期計画及び年度計画に定められた以上の業務の実績が認められるため。 <評価すべき実績> ・ 入場者数については各公演で目標値を上回っており、全体の入場者数でも、123.9%という高い成果を達成している。 ・ いずれの公演も、画期的で多彩な公演内容を高い水準で実施したことは評価できる。 ・ 「CHROMA(クロマ)」におけるインターネット等と連動した企画は、新たな観客層開拓という観点からも高く評価できる。 ・ 「DANCE to the Future 2016 Autumn」の継続は、振	

<p>い水準の現代舞台芸術を自主制作により公演すること。</p> <p>ウ 公開・公演の目的、期待する成果等を明確にし、外部の専門家等からの意見や鑑賞者の要望等を踏まえた評価等を行い、事業の充実反映させること。</p> <p>エ より幅広く多くの人が鑑賞することを目指して、分野ごとに前中期目標期間の実績を超えるよう、個々の公演において、適切な鑑賞者数の目標を設定し、その達成に努めること。</p>			<ul style="list-style-type: none"> 「DANCE to the Future 2016」は振付家育成の観点からも継続的に取り組むことが望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全4公演で実施(4回)、満足回答率91.6% 	<p>は訪れたことのない、アート全般に興味を持つと思われる観客を多く集客できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新国立劇場バレエ団を活用した「DANCE to the Future 2016 Autumn」の継続により、未来の振付家育成を確実に進展させた。振付作品を発表した新国立劇場バレエ団ファースト・アーティストの宝満直也は週刊オンステージ新聞2016年新人(振付家)ベスト1を受賞した。 新国立劇場バレエ団と国内外の振付家、ダンサーとコラボレーションを行った「JAPON dance project 2016」 「ベートーヴェン・ソナタ」にて既存の新国立劇場バレエ団公演観劇者の誘導に成功し、「ベートーヴェン・ソナタ」では現代舞踊史上最高の会員販売数を達成した。 ライブストリーミングサイト「DOMMUNE」にて、「高谷史郎(ダムタイプ)『CHROMA(クロマ)』」、「JAPON dance project 2016」の特集番組を放送し、現代舞踊の普及、振興に寄与した。 2016/2017シーズン4演目のセット券が過去最高の売上を達成し、全ての公演で目標を大きく上回る販売枚数を達成した。 	<p>付家の育成という観点からも評価できる。</p> <p><今後の課題・指摘事項></p> <p>—</p> <p><有識者からの意見></p> <ul style="list-style-type: none"> 実験的なものも含め、日本人振付家の高水準の新作が多く、一方では歴史的な価値のある古い作品の掘り起こしもあり充実していた印象がある。集客率も高く、作品(あるいは団体、出演者)ごとにコアな客層が形成されている感触もあるが、中劇場、小劇場では関係者の動員によって全体の数字が跳ね上がる部分もあるのではないかと。ある振付家や団体、スターダンサー(バレエを含めた)のファンへの関心が、傾向の違う他の公演にも向かうように工夫できればさらに「目の肥えた観客」の育成に繋がると思う。
---	--	--	--	--	---	---

<p>4. その他参考情報</p>
<p>特になし</p>

様式1-1-4-1 中期目標管理法 年度評価 項目別評価調書(国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項)

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1-2-2-1-4	演劇				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人日本芸術文化振興会法 第14条第1項第2号	業務に関連する政策・施策	政策目標12 文化による心豊かな社会の実現 施策目標12-1 芸術文化の振興	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ															
①主要なアウトプット(アウトカム)情報										②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)					
指標等		達成目標	前中期目標期間最終年度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
公演数	計画値	年間8公演程度	8公演	8公演	8公演	8公演	8公演	8公演			決算額 収入(百万円)	241	231	395	357
	実績値	—	8公演	8公演	8公演	8公演	8公演	8公演			決算額 支出(百万円)	331	324	400	363
	達成度	—	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%			従事人員数(人)	4	4	4	4
入場者数	計画値	前中期目標期間の実績(計265,496人)以上	51,400人	52,800人	50,000人	56,900人	51,700人								
	実績値	—	61,325人	48,821人	47,995人	68,001人	61,005人								
	達成度	—	119.3%	92.5%	96.0%	119.5%	118.0%								

1) 決算額は、各ジャンルの入場料収入及び公演費を計上している。
 2) 従事人員数は、新国立劇場・おきなわ部管理課新国立劇場係の常勤職員の人数を計上している。その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評価	A
2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 伝統芸能の保存振興及び現代舞台芸術の振興普及を図るため、前中期目標期間の実績を踏まえ、より多くの人が幅広い分野の公演を鑑賞することを目標とし、伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演を行うこと。また、以下の観点からこれらの公演の充実を図ること。 (1) 主催公演	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (2) 現代舞台芸術の公演 国際的に比肩し得る高い水準の現代舞台芸術を自主制作により公演 エ 演劇公演 新作上演の企画・発信するとともに、我が国で創作された作品の再評価や海外の優れた作品の紹介、芸術団体等との交流に努め、現代演劇の振興と普及を図る。年間8公演程度実施	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (2) 現代舞台芸術の公演 現代舞台芸術の振興と普及を図るため、中期計画の方針に従い、別表2のとおり主催公演を実施	<主な定量的指標> ・ 公演数 ・ 入場者数 <その他の指標> ・ 新作を上演するとともに、我が国で創作された作品の再評価や海外の優れた作品を紹介する。 ・ アンケート調査 <評価の視点> (27年度評価で指摘された取り組みべき課題)	<実績報告書等参照箇所> 平成28年度業務実績報告書P75～77 <主要な業務実績> 1. 公演実績 ・ 8公演を計画どおり実施 ・ 演劇公演全体で、目標入場者数を達成(達成度118.0%) ・ 新シリーズ「かさなる視点-日本戯曲のカー」を開始し、そのVol.1「白蟻の巣」では追加公演を実施 2. 営業・広報 ・ 画像・動画を多用したホームページ及びSNS(Facebook、Twitter、Instagram)の活用により、興味を喚起	<評価と根拠> 評価：A ・ 8公演を計画どおり実施した。演劇公演全体で目標入場者数を達成した。 ・ 新国立劇場のために書き下ろされた鄭義信三部作の「たとえば野に咲く花のように」「パーマ屋スマイル」や、別役実による新作「月・こうこう、風・そうそう」、2009年以来上演されてきたシェイクスピア歴史劇シリーズ「ヘンリー四世(二部作)」など、新国立劇場ならではの多彩かつ意欲的な企画による公演が高い水準で上演された。外部専門家や評論家、観客から高い評価を得た(アンケート満足回答率91.3%)。	<評価に至った理由> 評価すべき実績の欄に示す通り、中期計画及び年度計画に定められた以上の業務の実績が認められるため。 <評価すべき実績> ・ 入場者数については全体の入場者数で、118.0%という高い成果を達成している。 ・ 計画を上回る公演回数を実施しており、計画を超える進捗が認められる。 ・ 再演、新作、新たなシリーズ上演等、意欲的な取り組みは評価できる。 <今後の課題・指摘事項>	

<p>イ 国際的に比肩しうる高い水準の現代舞台芸術を自主制作により公演すること。</p> <p>ウ 公開・公演の目的、期待する成果等を明確にし、外部の専門家等からの意見や鑑賞者の要望等を踏まえた評価等を行い、事業の充実に反映させること。</p> <p>エ より幅広く多くの人々が鑑賞することを目指して、分野ごとに前中期目標期間の実績を超えるよう、個々の公演において、適切な鑑賞者数の目標を設定し、その達成に努めること。</p>			<p>特になし</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若年層向け特別優待制度「U25 優待メンバーズ」等の実施により、学生及び若年層を勧誘 ・ 出演者のファンクラブや旅行代理店、企業、大学等に対し、公演ごとに多彩な営業活動を展開し勧誘 ・ 主に中劇場公演において新国立劇場にとっての新たな来場者層を多く演劇DMメンバーに誘導 ・ テーマや期間毎に4種類の通し券を販売 <p>3. 外部専門家等の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門委員に各公演についてのレポートを依頼し意見を聴取、後の事業運営に活用 <p>4. アンケート調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全8公演で実施(14回)、満足回答率91.3% 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ヘンリー四世(二部作)」については、キャストの半数は過去に上演したシリーズからの続演であったほか、二部作の同時上演により、作品全体の統一感がより高まり、完成度の高い舞台を上演できた。演劇部門を代表するシリーズになっており、外部専門家等からも高い評価を得た。 ・ 「あわれ彼女は娼婦」「ヘンリー四世(二部作)」出演の浦井健治の高い演技力が評価され、平成28年度(第67回)芸術選奨の演劇部門で文部科学大臣新人賞を受賞した(「ヘンリー四世」ほかにおける演技に対して)。 <p><課題と対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上演機会の少ない作品の集客には困難が伴うが、国立の劇場としての使命に鑑み、広報宣伝に一層の工夫を凝らす等により、上演の維持を図りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標が未達になっている公演については、その要因を分析し、目標の達成に努めることが求められる。 <p><有識者からの意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ヘンリー四世」の完全上演は見応えがあり、俳優個々の魅力も発揮される好企画であった。演出家の演出手腕が存分に発揮されていた。「あわれ彼女は娼婦」演出が光った。鄭義信の三部作上演も好企画であった。 ・ 長期的、中期的に計画を立てる方式を定着させてほしい。
---	--	--	-------------	--	---	--

4. その他参考情報

特になし

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1-2-2-2	連携協力・地方における上演等[現代舞台芸術の公演]				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人日本芸術文化振興会法 第14条第1項第2号	業務に関連する政策・施策	政策目標12 文化による心豊かな社会の実現 施策目標12-1 芸術文化の振興	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ													
①主要なアウトプット(アウトカム)情報							②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)						
指標等	達成目標	前中期目標期間最終年度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
								決算額(百万円)	184	196	214	188	
								従事人員数(人)	4	4	4	4	

1) 決算額は、外部公演収入を計上している。
 2) 従事人員数は、新国立劇場・おきなわ部管理課新国立劇場系の常勤職員の人数を計上している。
 その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評価	B
2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 伝統芸能の保存振興及び現代舞台芸術の振興普及を図るため、前中期目標期間の実績を踏まえ、より多くの人が幅広い分野の公演を鑑賞することを目標とし、伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演を行うこと。また、以下の観点からこれらの公演の充実等を図ること。 (1) 主催公演 オ 国、地方公共団体、他の劇場、音楽堂等、芸術団体、企業等との連携協力等を強化すること。 カ 青少年等を対象とする公演の種類、回数を充実するとともに、各鑑賞	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等 イ 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施 ウ 現代舞台芸術の普及振興の中核的拠点としての公演等の実施 ① 国、地方公共団体、芸術団体、企業等との連携協力公演等 ② 全国各地の文化施設等における公演等	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (4) 現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項 ア 外部専門家等の意見聴取、観客へのアンケート調査の適宜実施 イ 我が国における現代舞台芸術の普及振興の中核的拠点として、次のとおり公演等を実施 ① 共催、受託などによる公演等を別表5のとおり実施 ② 各地の文化施設等における公演等を別表6のとおり実施	<主な定量的指標> 特になし <その他の指標> ・ アンケート調査 <評価の視点> (27年度評価で指摘された取り組むべき課題) 特になし	<実績報告書等参照箇所> 平成28年度業務実績報告書P78~81 <主要な業務実績> 1. 外部専門家等の意見聴取、アンケート調査の実施 ・ 各分野において専門委員に公演ごとのレポートを依頼し意見を聴取、後の事業運営に活用 ・ 全30公演41回でアンケート調査を実施、満足回答率89.4% 2. 共催、受託などによる公演 ・ 文化庁芸術祭主催公演6公演、協賛公演2公演を実施 ・ 大学との積極的な連携、協力を実施 3. 全国各地の文化施設等における公演 ・ オペラ1公演、バレエ2公演、演劇4公演、合計7公演を実施 ・ 合唱団は15の外部公演に出演 ・ 「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」をふまえ、地域の公立文化施設に技術者を講師として派遣する等、連携を強化 ・ 公益社団法人劇場演出空間技術協会、劇場・音楽堂等連絡協議会等と連携しフォーラムを開催 4. 国際文化交流公演等	<評定と根拠> 評定：B ・ 国内外の劇場等と良好な協力関係を築き、共催、受託などによる公演を積極的に実施した。 ・ 「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」を踏まえた全国の公立文化施設等との交流に積極的に取り組んだ。	<評定に至った理由> 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 <評価すべき実績> — <今後の課題・指摘事項> — <有識者からの意見> —	

<p>事業の連携協力を強化すること。</p> <p>キ 国際文化交流の進展に寄与するとともに、伝統芸能及び現代舞台芸術に関する日本文化の海外発信にも努めること。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・ 海外劇場等との情報交換や訪問受入れによる文化交流の実施 ・ 在日各国大使のオペラ・バレエ鑑賞プログラムの実施 		
--	--	--	--	---	--	--

<p>4. その他参考情報</p>
<p>特になし</p>

様式1-1-4-1 中期目標管理法 年度評価 項目別評価調書(国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項)

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1-2-2-3	快適な観劇環境の形成[現代舞台芸術の公演]				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人日本芸術文化振興会法 第14条第1項第2号	業務に関連する政策・施策	政策目標12 文化による心豊かな社会の実現 施策目標12-1 芸術文化の振興	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ													
①主要なアウトプット(アウトカム)情報							②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)						
指標等	達成目標	前中期目標期間最終年度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
								決算額(百万円)	1,909	2,179	1,950	1,826	
								従事人員数(人)	4	4	4	4	

1) 決算額は、公演附帯費(プログラム作成費、友の会事務費、観客勧誘事務費、劇場関係費)、新国立劇場維持管理費、情報センター維持管理費、共同利用施設維持管理費、舞台美術センター維持管理費、施設整備費(交付金)、施設整備費(補助金)を計上している。
2) 従事人員数は、新国立劇場・おきなわ部管理課新国立劇場系の常勤職員の人数を計上している。
その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評価	B
2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (2) 快適な観劇環境の形成 各劇場の鑑賞者や観劇希望者の要望、利用実態等を踏まえたサービスを提供するとともに、高齢者、身体障害者、外国人等を含めた来場者本位の快適な観劇環境を形成することにより、来場者の満足度の向上を図ること。 また、これらを把握する手法として、観客に対するアンケート調査や劇場モニター制度等を活用すること。	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (5) 快適な観劇環境の形成 観客本位の快適な環境の形成のため、次のおりサービスの向上に努め、観客の満足度の向上を図る。 ア 高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適で安全な劇場施設の整備、各種サービスの充実 イ 入場券販売において、利用者にとって利便性の高い多様な購入方法を提供 ウ 解説書等の作成、音声同時解説や字幕表示、公演内容の説明会等などのサービスの提供	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (5) 快適な観劇環境の形成 ア 売店・レストラン等におけるサービスの充実、観劇時のマナーの呼びかけ、高齢者、障害者、外国人等の利用者にも配慮した劇場内外の環境整備等各種サービスの充実 イ 入場券販売における観客の利用形態に応じた多様な購入方法の提供 ウ 公演内容に応じて、解説書等の作成並びに音声同時解説及び字幕表示の実施 エ アンケート調査等の活用により、観客等の要望、利用実態等を把握、サービス向上に活用 意見・要望を一元的に管理、対応の迅速化と職員間の情報共有の強化、内容の集計・分析結	<主な定量的指標> 特になし <その他の指標> ・ 外国人利用者向けのサービスの充実 ・ 公演内容の事前説明会、施設見学会の状況 <評価の視点> (27年度評価で指摘された取り組むべき課題) ・ 快適な観劇環境の提供、外国人利用者への対応等は2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け継続的に改善していくことが望まれる。	<実績報告書等参照箇所> 平成28年度業務実績報告書P92~105 <主要な業務実績> 1. 快適な観劇環境の提供、外国人利用者への対応 ・ 観客用設備の適切な維持管理・改善を実施 ・ 売店・レストランのサービス改善のため、アンケート調査及び委託業者との定期的な会議を実施 ・ 職員や委託業者などによる消防訓練、避難訓練等を実施するとともに、利用者の安全を確保するための設備改修等を実施 ・ 外国人利用者への対応として、劇場内外の案内表示の整備、外国語によるチラシ・リーフレット等を提供 ・ 障害者差別解消法の施行に伴い、相談窓口を設置 ・ その他、観客サービスの向上に繋がる取組を適宜実施 ・ 劇場内に大型フロアマップやピクトグラムを設置して来場者の動線を補助、掲示パネルを大型化して情報の視認性を向上 ・ レストラン、売店に加え、2階ブリッジでカフェを営業(開演前など適宜営業) ・ オペラ劇場・中劇場の客席を補修、長時間の着席に	<評価と根拠> 評価：B ・ 快適で安全な観劇環境の提供のため、引き続き案内表示や掲示を改善するとともに、カフェの営業やクッションの開発等を新しく実施した。 ・ 観客の利用傾向や要望に応じて、チケット購入や割引サービス利用時の利便性を高めた。 ・ 公演内容に応じて、解説書や字幕表示、公演説明会等のサービスを実施し、公演内容の理解のための一助とした。 ・ 観客からの意見・要望について、各部署での情報共有を行い、様々なサービス改善に繋がった。 <課題と対応> ・ バリアフリー化等、劇場施設の改善を引き続き検討する。 ・ サービスの質の維持・向上について、引き続き検証・改善に努める。	<評価に至った理由> 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 <評価すべき実績> — <今後の課題・指摘事項> ・ 快適な観劇環境の提供、外国人来場者への対応等は2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け継続的に改善していくことが求められる。 <有識者からの意見> —	

	エ アンケート調査や 劇場モニターの活用等	果をサービス向上に活用		<p>よる疲労を軽減するクッション(レンタル)を開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オペラ劇場プロムナードに続き小劇場ホワイエにテーブルとイスを増設 ・ 劇場ホワイエの各種展示や動画上映など、公演内容とその観客に合わせた観劇環境の提供 ・ 英語版公式サイトを充実させるとともに、英語版SNS(Facebook、Instagram)を開始し情報発信 ・ 日本政府観光局、各国大使館・文化機関、外国人記者会、国際交流基金等外部団体の協力を得て広く情報提供、周知展開 <p>2. 多様なチケット購入方法の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 税込1,620円で一人1枚のみ公演当日に販売するZ席の販売方法を改善(オペラ、バレエ公演)するとともに、英語版Webボックスオフィスでも同Z席の取り扱いを追加 ・ 若年層向け特別優待制度の情報伝達手段にLINEを新規導入 <p>3. 公演内容等の理解促進のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公演内容に適した解説書等を作成 ・ 計9公演において字幕表示を実施 ・ 公演内容の事前説明会を10件3,166名、施設見学会を57件779名、バックステージツアーを15件394名に対し開催 <p>4. 意見・要望等の把握と対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 意見・要望等を一元的に把握し、より迅速に対応 ・ 対応状況に関し全役職員及び委託業者で情報を共有 ・ 意見・要望等を踏まえサービス等を改善 ・ 意見・要望等を集計・分析 		
--	--------------------------	-------------	--	--	--	--

4. その他参考情報
特になし

様式1-1-4-1 中期目標管理法人 年度評価 項目別評価調書(国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項)

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1-2-2-4	広報・営業活動の充実[現代舞台芸術の公演]				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人日本芸術文化振興会法 第14条第1項第2号	業務に関連する政策・施策	政策目標12 文化による心豊かな社会の実現 施策目標12-1 芸術文化の振興	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ															
①主要なアウトプット(アウトカム)情報							②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)								
指標等		達成目標	前中期目標 期間最終年 度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
ホームページアクセス 件数(新国立劇場)	計画値	前中期目標期間の 実績(平均 1,816,139件)以上	1,900,000件	2,500,000件	3,600,000件	3,650,000件	3,700,000件			決算額(百万円)	114	126	112	109	
	実績値	—	3,578,251件	4,604,571件	4,364,070件	4,342,296件	4,599,610件			従事人員数(人)	4	4	4	4	
	達成度	—	188.3%	184.2%	121.2%	119.0%	124.3%								
会員数(クラブ・ジ・ア トレ)	計画値	前中期目標期間の 実績(最終9,366件) 以上	9,600人	9,600人	9,500人	9,500人	9,700人								
	実績値	—	9,366人	9,470人	9,668人	9,872人	10,363人								
	達成度	—	97.6%	98.6%	101.8%	103.9%	106.8%								

1) 決算額は、公演附帯費(友の会事務費、宣伝諸費、特別宣伝費)を計上している。
 2) 従事人員数は、新国立劇場・おきなわ部管理課新国立劇場係の常勤職員の人数を計上している。
 その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評価	B
2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (3) 広報・営業活動の充実 年間の主催公演を通して購入できるシーズンシートの拡充など、より効果的な広報・営業活動を展開すること。 なお、ホームページについては、利用者が最新の情報に容易にアクセスできるようにするとともに、アクセス件数については前中期目標期間の実績以上とすること。	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (6) 広報・営業活動の充実 より多くの人々が幅広い分野の公演を鑑賞することを目標として、次の取組により一層効果的な広報・営業活動を展開 ア 公演内容に応じた効果的な宣伝活動、各種事業に関する広報の充実 イ 観客の需要を的確に捉えた営業活動 ウ 会員に向けた各種サービスの提供による会員の観劇機会の増加	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (6) 広報・営業活動の充実 ア 効果的な広報・営業活動の展開 ① 公演内容に応じて、記者会見・取材等によるマスメディアを通じた広報や、インターネット広告等の多様な媒体を活用して、広報活動を効果的に実施 ② 各種事業に関する広報の充実に努め、ホームページ等を活用して随時最新の情報を提供、 (a) ホームページについて、	<主な定量的指標> ・ ホームページアクセス件数 ・ 会員数 <その他の指標> 特になし <評価の視点> (27年度評価で指摘された取り組みべき課題) 特になし	<実績報告書等参照箇所> 平成28年度業務実績報告書P106~119 <主要な業務実績> 1. 効果的な広報・営業活動の展開 ・ 団体観劇を促進するため、公演内容に応じた営業活動を展開 ・ マスコミ各社への記者会見や取材依頼のほか、各種媒体により公演情報を周知 ・ 公演内容に応じて各種セット券等を販売 ・ 英語版ホームページの改善、公演情報の早期掲載、特設サイトの開設、SNS(Facebook、Twitter)の活用等によりホームページの内容を充実化、メールマガジンを随時配信 ・ ホームページにおいて目標アクセス件数を大幅に超えて達成 ・ 旅行代理店・ホテル等との連携を強化	<評価と根拠> 評価：B ・ 公演内容に応じて、様々な媒体による広報・営業活動を実施した。 ・ 英文サイトを含めたホームページのデザイン改修、全ジャンルでのFacebook、Twitterの活用や、様々な媒体による動画配信により、これまで以上に多くの情報を随時発信することができ、年間アクセス件数も年度計画目標を大きく上回った。 ・ 会員向けサービスの充実を図るとともに、ハウスカード(クレジットカード機能のないカード)の入会促進を積極的に行った結果、クラブ・ジ・アトレは会員数の目標を大きく上回ることができた。	<評価に至った理由> 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 <評価すべき実績> ・ Facebook、インターネットラジオやYouTube等による動画配信も含めたメディアミックス的な広報、英語版 SNS の運用による外国への情報発信等は、広報・営業活動における効果的な取組として評価できる。 <今後の課題・指摘事項> ・ 広報、営業活動等については、各館で連携を図るなど最大限の効果が図られるよう法人全体で戦略的に取り組む必要がある。	

		<p>各種情報の早期掲載及び内容の充実、アクセス動向等分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新国立劇場ホームページ目標アクセス件数：3,700,000件 (b) メールマガジンにより、公演等の情報を随時配信 (c) 外国語版のホームページやパンフレット等の充実を図り、外国人に対する情報発信を強化 <p>③ 各種事業に関する広報誌を次のとおり発行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新国立劇場情報誌「ジ・アトレ」(毎月発行) <p>④ シーズンシートやセット券等の企画・販売、各種キャンペーンを企画・実施</p> <p>⑤ 団体観劇促進のため、公演内容に応じた営業活動を展開、旅行代理店・ホテル等との連携を強化</p> <p>イ 個人を対象とする会員組織の会員に対し、会報等による情報提供を定期的を実施、入場券の会員先行販売や会員向けイベント等の各種サービスを提供、アンケート調査の結果等を、会員向けサービスの充実に活用、会員向けサービスの周知による、新規会員の増加</p> <p>④ クラブ・ジ・アトレ(新国立劇場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会報「ジ・アトレ」(毎月発行) ・ 会員向けイベント：年12回程度 ・ 目標会員数：9,700人 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 「日本芸術文化振興会ニュース」、新国立劇場情報誌「ジ・アトレ」等の広報誌を発行 ・ 公演会場ホワイエ内で、今後の主催公演に関するパネル掲示や映像上映を実施 ・ オペラ公演、演劇公演のトークや解説の外部番組に出演、サイトにも配信されて広く周知 ・ オペラ公演に関連する「音楽講座」を動画配信 ・ 劇場内で公演関連講座やレクチャー、芸術監督による2017/2018 シーズンラインアップ説明会を実施 ・ ホームページのスマートフォン読み込み速度を改善 ・ ホームページの日本語トップ画面を改修しイベント情報の周知強化、バレエ団ページも改修 ・ 英語版 SNS (Facebook、Instagram) を開始、日本語 SNS (Facebook、Twitter、Instagram) も情報発信を大幅増加 ・ オペラ、バレエのシーズンセット券、演劇のテーマ別セット券を販売 ・ 都内ホテル、百貨店等と連携した観劇プランや学校団体向け営業を積極的実施 <p>2. 会員組織の運営、会員向けサービスの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会員組織の会員に対し、会報による情報提供及び先行販売、会員向けイベント等のサービスを実施 ・ クラブ・ジ・アトレにおいて目標会員数を達成 ・ 会員サービスの充実及び新規入会キャンペーン等による入会促進 	<p><課題と対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後もジャンルや演目の特性を見据え、きめ細かな広報宣伝営業活動を続けたい。 ・ 引き続き、入会キャンペーン等の実施により新規会員の増加を図るとともに、会員向けサービスの一層の充実に努めたい。 	<p><有識者からの意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNS の活用等には積極性を感じ、作品動画やインタビューなどを情報公開後すぐに目にする機会も増えている。より上演作品の魅力や価値のツボを押さえ、観客の見識を高める一助になるものがさらに増えればよいと思う。
--	--	--	--	--	---	--

4. その他参考情報
特になし

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1-2-3-1	[青少年等を対象とした公演]伝統芸能分野				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人日本芸術文化振興会法 第14条第1項第2号	業務に関連する政策・施策	政策目標12 文化による心豊かな社会の実現 施策目標12-1 芸術文化の振興	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット(アウトカム)情報								②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)						
指標等		達成目標	前中期目標期間最終年度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
公演数	計画値	年間6公演程度	6公演	6公演	7公演	7公演	7公演			決算額 収入(百万円)	267	258	281	282
	実績値	—	6公演	6公演	7公演	7公演	7公演			決算額 支出(百万円)	193	199	220	201
	達成度	—	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%			従事人員数(人)	25	25	25	25
入場者数	計画値	前中期目標期間の実績(計752,835人)以上	145,776人	152,038人	153,977人	156,202人	157,938人							
	実績値	—	154,741人	158,395人	156,902人	168,024人	161,080人							
	達成度	—	106.1%	104.2%	101.9%	107.6%	102.0%							

- 1) 決算額は、
 ・振興会：入場料収入及び公演費
 ・おきなわ財団：入場料収入(財団自己財源)及び公演費(財団自己財源)、文化プログラム関係費(財団委託費)を計上している。
- 2) 従事人員数は、各館の制作担当常勤職員及び国立劇場おきなわ業務管理職員の人数を計上している。
 ・歌舞伎(歌舞伎課)
 ・文楽(伝統芸能課、文楽劇場企画制作課企画制作係)
 ・能楽(能楽堂企画制作課企画制作係)
 ・組踊等沖縄伝統芸能(新国立劇場・おきなわ部管理課国立劇場おきなわ係)
 その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評価	A
2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 伝統芸能の保存振興及び現代舞台芸術の振興普及を図るため、前中期目標期間の実績を踏まえ、より多くの人が幅広い分野の公演を鑑賞することを目標とし、伝統芸能の公開及び現代	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (3) 青少年等を対象とした公演 ア 青少年を対象とした伝統芸能公演を年間6公演程度実施 社会人や親子を対象とする入門企画の実施 各公演等の連携協力の	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (3) 青少年等を対象とした公演 ア 伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表3のとおり実施 社会人や親子等を対象	<主な定量的指標> ・ 公演数 ・ 入場者数 <その他の指標> 特になし <評価の視点> (27年度評価で指摘された取り組みべき課題)	<実績報告書等参照箇所> 平成28年度業務実績報告書P82~89 <主要な業務実績> 1. 主に青少年を対象とした公演 ・ 歌舞伎鑑賞教室2公演、文楽鑑賞教室2公演(本館、文楽劇場)、能楽鑑賞教室1公演、沖縄芝居鑑賞教室1公演、組踊鑑賞教室1公演、合計7公演を計画どおり実施 ・ 6月能楽鑑賞教室(全10公演)は前年度に続き全席を完売(有料入場率100.0%) 2. 社会人や親子等を対象とした入門企画・公演	<評価と根拠> 評価：A ・ 各分野とも年度計画どおり公演を実施し、伝統芸能分野全体で目標入場者数を達成した。 ・ 青少年を対象とした鑑賞教室に加え、日頃伝統芸能に触れる機会の少ない社会人等を対象とした公演や、親子を対象とした公演の各館で実施することにより、伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成	<評価に至った理由> 評価すべき実績の欄に示す通り、中期計画及び年度計画に定められた以上の業務の実績が認められるため。 <評価すべき実績> ・ 外国人のための歌舞伎鑑賞教室を2回に拡大して実施したこと、多言語による音声解説に加え、英語字幕の実施、さらに文楽・能楽・組踊等沖縄伝統芸能の各分野において新たに外国人	

<p>舞台芸術の公演を行うこと。また、以下の観点からこれらの公演の充実等を図ること。</p> <p>(1) 主催公演 カ 青少年等を対象とする公演の種類、回数を充実するとともに、各鑑賞事業の連携協力を強化すること。</p>	<p>強化</p>	<p>とした入門企画を別表4のとおり実施</p> <p>各公演等の連携協力を強化</p>	<p>特になし</p>	<p>(本館)</p> <ul style="list-style-type: none"> 6月・7月歌舞伎鑑賞教室で「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」を、6月歌舞伎鑑賞教室で「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」を、7月歌舞伎鑑賞教室で「親子で楽しむ歌舞伎教室」を実施 「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」は前年度の試行的実施を踏まえ回数を2回に拡大 5月文楽鑑賞教室で「社会人のための文楽鑑賞教室」を実施 5月文楽鑑賞教室で「Discover BUNRAKU－外国人のための文楽鑑賞教室－」を実施【新規】 6月特別企画公演〈伝統芸能の魅力〉で「雅楽を楽しむ」「日本舞踊を楽しむ」「声明を楽しむ」「邦楽を楽しむ」を実施 <p>(演芸場)</p> <ul style="list-style-type: none"> 7月特別企画公演「親子で楽しむ演芸会」を実施 <p>(能楽堂)</p> <ul style="list-style-type: none"> 6月能楽鑑賞教室で「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」を実施【新規】 8月企画公演で「働く貴方に贈る」「夏休み親子で楽しむ能の会」「夏休み親子で楽しむ狂言の会」を実施 <p>(文楽劇場)</p> <ul style="list-style-type: none"> 6月文楽鑑賞教室で「社会人のための文楽入門」を実施 6月文楽鑑賞教室で「Discover BUNRAKU－BUNRAKU for Beginners－」を実施【新規】 夏休み文楽特別公演の第一部を親子劇場として実施し、新作文楽を上演 <p>(国立劇場おきなわ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 普及公演で、4月「琉球舞踊鑑賞教室」、6月「社会人のための組踊鑑賞教室」、8月「親子のための組踊鑑賞教室」を実施 11月組踊鑑賞教室で「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」を実施【新規】 	<p>を図る取組を継続した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムの一環として、「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」を2回に拡大して実施した。多言語による音声解説に加え、英語字幕の表示も行い好評を得た。また文楽・能楽・組踊等沖縄伝統芸能の各分野において、新たに外国人向け公演を実施した。実施に際しては、解説部分の構成のほか、大使館・学校等への働きかけ、字幕表示、多言語のパンフレット配布、当日の外国人来場者の受け入れ態勢等について工夫を凝らしてサービスを向上させ、観客や外部専門家等から高く評価された。 27年度に試行した「Discover KABUKI」の成果や課題を踏まえ、外国人向け伝統芸能公演を拡大実施することができた。 〈伝統芸能の魅力〉シリーズを継続し、舞踊・邦楽・雅楽・声明の入門公演を継続して実施した。テーマを明確に打ち出すなど企画面での充実に加え、体験コーナーを開演前に設定したことが体験時間の拡大と体験者の増加に繋がったことについて、高い評価を得た。 	<p>向け公演を実施したことは、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催を見据えた、国際化に向けた取組として高く評価できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 27年度の成果や課題を踏まえ、外国人向け鑑賞教室の内容の工夫・充実を図ったことは、継続的な改善に向けた取り組みとして高く評価できる。 〈伝統芸能の魅力〉シリーズにおいて体験コーナーを開演前に設定したことは、鑑賞者育成の観点からも高く評価できる。 <p><今後の課題・指摘事項></p> <ul style="list-style-type: none"> インバウンド拡大への貢献という観点からも、外国人のための鑑賞教室については、成果の分析等を行い、体験型プログラムの実施等、事業の更なる拡充について検討する必要がある。 社会人のための鑑賞教室については、継続的に高い入場率を達成していることから、成果の分析等を行い、回数の増加等、事業の更なる拡充について検討する必要がある。 <p><有識者からの意見></p> <ul style="list-style-type: none"> 鑑賞教室は、時間的な制約があるのは理解できるが、より幅のある演目選定ができれば客層に広がりが出ると思う。 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を見据えて外国人のための歌舞伎・文楽・能楽・組踊等の公演を行ったことは、今後のインバウンド施策の展開を考える上でも大きな意味を持つものと考えられる。また、青少年を対象とした鑑賞教室の実施、親子や社会人を対象とした入門企画の実施においても、多くの入場者を確保することができ、将来の観客や聴衆を育てるという点からも評価できる。
---	-----------	--	-------------	--	--	---

<p>4. その他参考情報</p>
<p>特になし</p>

様式1-1-4-1 中期目標管理法 年度評価 項目別評価調書(国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項)

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1-2-3-2	[青少年等を対象とした公演]現代舞台芸術分野				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人日本芸術文化振興会法 第14条第1項第2号	業務に関連する政策・施策	政策目標12 文化による心豊かな社会の実現 施策目標12-1 芸術文化の振興	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット(アウトカム)情報								②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)						
指標等		達成目標	前中期目標期間最終年度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
公演数	計画値	年間3公演程度	2公演	1公演	2公演	4公演	2公演			決算額 収入(百万円)	21	41	95	52
	実績値	—	2公演	1公演	2公演	4公演	2公演			決算額 支出(百万円)	89	120	189	109
	達成度	—	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%			従事人員数(人)	4	4	4	4
入場者数	計画値	前中期目標期間の実績(計81,656人)以上	13,100人	9,000人	15,000人	25,500人	18,400人							
	実績値	—	15,396人	9,911人	16,618人	30,770人	20,953人							
	達成度	—	117.5%	110.1%	110.8%	120.7%	113.9%							

1)決算額は、入場料収入及び普及公演費を計上している。
2)従事人員数は、新国立劇場部の常勤職員の人数を計上している。
その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評価	B
2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 伝統芸能の保存振興及び現代舞台芸術の振興普及を図るため、前中期目標期間の実績を踏まえ、より多くの人が幅広い分野の公演を鑑賞することを目標とし、伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演を行うこと。また、以下の観点からこれらの公演の充実等を図ること。 (1) 主催公演 カ 青少年等を対象とする公演の種類、回数を充実す	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (3) 青少年等を対象とした公演 イ 青少年等を対象とした現代舞台芸術公演を年間3公演程度実施 各公演の連携協力の強化	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (3) 青少年等を対象とした公演 イ 青少年等が現代舞台芸術に触れる機会を確保し、新たな観客層の育成と現代舞台芸術の普及を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表3のとおり実施し、親子でも楽しめるよう工夫 各公演の連携協力を強化	<主な定量的指標> ・ 公演数 ・ 入場者数 <その他の指標> ・ アンケート調査 <評価の視点> (27年度評価で指摘された取り組みべき課題) ・ 「夏の子ども劇場セット」の企画・立案のように広報・宣伝面において、成果が上がった取組についてはその内容を分析し、他の公演における広報・宣伝	<実績報告書等参照箇所> 平成28年度業務実績報告書P90~91 <主要な業務実績> 1. 主に青少年を対象とした公演 ・ オペラ鑑賞教室1公演、こどものためのバレエ1公演、合計2公演を計画どおり実施 ・ 2公演ともに目標入場者数を達成(達成度113.9%) ・ 新制作「こどものためのバレエ劇場『白鳥の湖』」公演では、こどもバレエとして過去最高の入場者数(11,453人)を記録	<評価と根拠> 評価：B ・ 2公演を年度計画どおり実施し、入場者数については2公演ともに目標を上回った。 ・ いずれの公演も青少年向け公演として観客や外部専門家から極めて高い評価を得た(アンケート満足回答率81.4%)。 ・ 新制作「こどものためのバレエ劇場『白鳥の湖』」では、バレエに初めて触れる子供たちにも理解しやすく、かつ最高水準の作品を上演することができた。またこどもバレエとして過去最高の入場者数・入場率(入場者数11,453人、入場率96.0%)を記録した。 ・ 高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演に合わせて、28年度より公演会場となったロームシアター	<評価に至った理由> 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 <評価すべき実績> — <今後の課題・指摘事項> — <有識者からの意見> —	

るとともに、各鑑賞事業の連携協力を強化すること。			にも繋げることが望まれる。		京都にて、オペラ鑑賞教室の歴史や公演の舞台写真、衣裳、舞台模型などを展示し、オペラ作品理解に寄与するとともに舞台芸術への興味を喚起した。	
--------------------------	--	--	---------------	--	--	--

4. その他参考情報
特になし

様式1-1-4-1 中期目標管理法 年度評価 項目別評価調書(国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項)

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1-2-4-1	[劇場施設の使用効率の向上等]伝統芸能分野				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人日本芸術文化振興会法 第14条第1項第5号	業務に関連する政策・施策	政策目標12 文化による心豊かな社会の実現 施策目標12-1 芸術文化の振興	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ															
①主要なアウトプット(アウトカム)情報										②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)					
指標等		達成目標	前中期目標期間最終年度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
使用効率	計画値	前中期目標期間の実績(平均71%)以上	70%	67%	70%	69%	67.7%			決算額(百万円)	452	453	435	402	
	実績値	—	71.9%	70.5%	69.6%	71.6%	67.5%			従事人員数(人)	18	19	16	18	
	達成度	—	102.7%	105.2%	99.4%	103.2%	99.7%								

1) 決算額は、
 ・ 振興会：劇場使用料収入、稽古室等使用料
 ・ おきなわ財団：劇場使用料収入(財団自己財源)、附属施設使用料(財団自己財源)を計上している。
 2) 従事人員数は、各館の貸し劇場担当常勤職員及び国立劇場おきなわ業務管理職員の人数を計上している。
 (本館営業部劇場課施設利用室、能楽堂営業課劇場利用係、文楽劇場営業課劇場利用係、新国立劇場・おきなわ部管理課国立劇場おきなわ係) 其の際、役員及びその他の職員は勘案していない。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評価	B
2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (4) 劇場の使用効率の向上等 主催公演をより効率よく日程を組むなどし、劇場の使用効率の向上を図るとともに、国民の鑑賞機会の増加を図る観点から貸劇場公演の日数を増やすことも含め、公演回数増加を図ること。なお、中期目標期間における主催公演日数と貸し劇場日数を合計した数を使用可能日数で除した率については、前中期	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (7) 劇場施設の使用効率の向上等 ア 劇場施設の使用効率の向上 イ 利用方法、空き日情報等をホームページ等により提供するサービスの向上	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (7) 劇場施設の使用効率の向上等 ア 劇場施設の使用効率の向上 イ 各施設の利用促進を図るため、次の取組を実施	<主な定量的指標> ・ 使用効率 <その他の指標> 特になし <評価の視点> (27年度評価で指摘された取り組みべき課題) 特になし	<実績報告書等参照箇所> 平成28年度業務実績報告書P120~123 <主要な業務実績> 1. 劇場施設の貸与、使用効率の向上 ・ 伝統芸能の保存振興等を目的とする事業に対し、劇場施設を貸与 ・ 伝統芸能分野の合計で、使用効率の年度計画目標を概ね達成 2. 劇場施設の利用促進を図るための取組 ・ 施設利用に関する情報を、ホームページ・パンフレット・専門誌等で随時発信 ・ サービス向上のため、利用者へのアンケートや他劇場調査を実施	<評価と根拠> 評価：B ・ 伝統芸能の保存振興等を目的とする事業に対し、劇場施設を積極的に貸与した。 ・ 各劇場の貸与日数及び使用効率は、全体で年度計画の目標を概ね達成できた。 <課題と対応> ・ 本館大小劇場、国立劇場おきなわ大小劇場の使用効率が目標に届かなかった。劇場利用について一層周知に努め、利用の増加を図りたい。	<評価に至った理由> 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 <評価すべき実績> — <今後の課題・指摘事項> — <有識者からの意見> —	

<p>目標期間の実績以上とすること。</p>	<p>① 各施設の設備等の概要、利用方法及び空き日等の情報をホームページへ掲載 ② パンフレットやダイレクトメールによる広報 ③ 利用希望者への説明・見学等 ④ 利用者に対しアンケート調査を実施、その調査結果を踏まえたサービスの充実 ⑤ 他の劇場施設等の利用方法、利用料金等の調査、調査結果の検討・活用</p>				
------------------------	---	--	--	--	--

<p>4. その他参考情報</p>
<p>特になし</p>

様式1-1-4-1 中期目標管理法 年度評価 項目別評価調書(国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項)

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1-2-4-2	[劇場施設の使用効率の向上等]現代舞台芸術分野				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人日本芸術文化振興会法 第14条第1項第5号	業務に関連する政策・施策	政策目標12 文化による心豊かな社会の実現 施策目標12-1 芸術文化の振興	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ															
①主要なアウトプット(アウトカム)情報							②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)								
指標等		達成目標	前中期目標期間最終年度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
使用効率	計画値	前中期目標期間の実績(平均55%)以上	56%	58%	65%	69%	70.8%			決算額(百万円)	200	228	233	261	
	実績値	—	57.2%	64.0%	68.8%	70.2%	72.5%			従事人員数(人)	4	4	4	4	
	達成度	—	102.1%	110.3%	105.8%	101.6%	102.4%								

1)決算額は、貸劇場収入を計上している。
2)従事人員数は、新国立劇場・おきなわ部管理課新国立劇場系の常勤職員の人数を計上している。
その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評価	B
2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (4) 劇場の使用効率の向上等 主催公演をより効率よく日程を組むなどし、劇場の使用効率の向上を図るとともに、国民の鑑賞機会の増加を図る観点から貸劇場公演の日数を増やすことも含め、公演回数増加を図ること。なお、中期目標期間における主催公演日数と貸劇場日数を合計した数を使用可能日数で除した率については、前中期目標期間の実績以上とすること。	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (7) 劇場施設の使用効率の向上等 ア 劇場施設の使用効率の向上 イ 劇場施設の使用効率の向上 エ 伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を貸与 オ 利用方法、空き日情報等をホームページ等により提供 カ 利用者に対して提供するサービスの向上	2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演 (7) 劇場施設の使用効率の向上等 ア 劇場施設の使用効率の向上 イ 伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を貸与 ・ 新国立劇場オペラ劇場 貸与日数31日、使用効率44% ・ 新国立劇場中劇場 211日、82% ・ 新国立劇場小劇場 159日、82% ※ 使用効率は、使用可能日数のうち鑑賞機会の提供(主催公演、主催公演関連企画、貸し劇場公演)を行った日数の割合。 イ 各施設の利用促進を図るため、次の取組を実施 ① 各施設の設備等の概要、利用方法及び空き日等の情報をホームページに掲載 ② パンフレットやダイレクトメールによる広報 ③ 利用希望者への説明・見学等 ④ 利用者に対しアンケート調査を実施、その調査結果を踏まえたサービスの充実 ⑤ 他の劇場施設等の利用方法、利用料金等の調査、	<主な定量的指標> ・ 使用効率 <その他の指標> 特になし <評価の視点> (27年度評価で指摘された取り組むべき課題) 特になし	<実績報告書等参照箇所> 平成28年度業務実績報告書P120~123 <主要な業務実績> 1. 劇場施設の貸与、使用効率の向上 ・ 現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を貸与 ・ 現代舞台芸術分野の合計で、貸与日数・使用効率とも年度計画目標を達成 2. 劇場施設の利用促進を図るための取組 ・ 施設利用に関する情報を、ホームページ・パンフレット・専門誌等で随時発信 ・ サービス向上のため、利用者へのアンケートや他劇場調査を実施	<評価と根拠> 評価：B ・ 舞台の安全と公演の質に留意しつつスケジュールを精査して貸与可能日を確保し、オペラ劇場、中劇場、小劇場とも劇場稼働率の限度まで有効活用して芸術団体等へ貸与することができた。	<評価に至った理由> 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 <評価すべき実績> — <今後の課題・指摘事項> — <有識者からの意見> —	

		調査結果の検討・活用				
--	--	------------	--	--	--	--

4. その他参考情報
特になし

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1-3-1	伝統芸能の伝承者の養成				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人日本芸術文化振興会法 第14条第1項第3号	業務に関連する政策・施策	政策目標12 文化による心豊かな社会の実現 施策目標12-1 芸術文化の振興	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット(アウトカム)情報								②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)						
指標等		達成目標	前中期目標 期間最終年 度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
修了者数(歌舞伎)※	計画値	計18人程度	24人程度	—	9人	1人	12人			決算額(百万円)	234	244	248	273
	実績値	—	25人	—	8人	1人	12人			従事人員数(人)	15	15	15	15
	達成度	—	104.2%	—	88.9%	100.0%	100.0%							
修了者数(大衆芸能)※	計画値	計8人程度	4人程度	2人	—	6人	—							
	実績値	—	2人	2人	—	6人	—							
	達成度	—	50.0%	100.0%	—	100.0%	—							
修了者数(能楽)※	計画値	基礎課程計5人程度	基礎課程5人程度	専門課程1人	—	—	基礎課程2人							
	実績値	—	基礎課程4人 専門課程2人	専門課程1人	—	—	基礎課程2人							
	達成度	—	120.0%	100.0%	—	—	100.0%							
修了者数(文楽)※	計画値	計6人程度	6人程度	—	3人	—	3人							
	実績値	—	9人	—	3人	—	3人							
	達成度	—	150.0%	—	100.0%	—	100.0%							
修了者数(組踊)※	計画値	計18人程度	9人程度	9人	—	—	10人							
	実績値	—	9人	9人	—	—	10人							
	達成度	—	100.0%	100.0%	—	—	100.0%							
既成者研修 発表会(歌舞伎俳優)	計画値	年2回程度	2回	2回	2回	2回	2回							
	実績値	—	2回	2回	2回	2回	2回							
	達成度	—	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%							
既成者研修 発表会(歌舞伎音楽)	計画値	年1回程度	1回	1回	1回	1回	1回							
	実績値	—	1回	1回	1回	1回	1回							
	達成度	—	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%							
既成者研修 発表会(能楽)	計画値	年3回程度	3回	3回	3回	3回	3回							
	実績値	—	3回	3回	3回	3回	3回							
	達成度	—	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%							

既成者研修 発表会(文 楽)	計画値	年3回程度	4回	3回	4回	4回	4回		
	実績値	—	4回	3回	4回	4回	4回		
	達成度	—	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
既成者研修 発表会(組 踊)	計画値	年1回程度	1回	1回	1回	1回	1回		
	実績値	—	1回	1回	1回	1回	1回		
	達成度	—	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

※修了者数の前中期目標期間最終年度値は、計画値・実績値ともに前中期目標期間中の累計値。
各年度の数値は、当該年度に修了者があったコースのみ記載している。

1) 決算額は、
・ 振興会：養成研修費、公演費(研修事業)
・ おきなわ財団：養成研修費(財団委託費)を計上している。
2) 従事人員数は、各館の養成担当常勤職員及び国立劇場おきなわ業務管理職員の人数を計上している。
(本館養成課、能楽堂企画制作課養成係、文楽劇場企画制作課養成係、新国立劇場・おきなわ部管理課国立劇場おきなわ係) の際、役員及びその他の職員は勘案していない。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	B
3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修 伝統芸能の保存振興、現代舞台芸術の振興普及を図るため、以下のとおり伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修を実施すること。 (1) 伝統芸能の伝承者の養成については、民間では養成が困難であることから国として支援が必要な分野に限定するものとし、関係団体の要望や外部専門家等の意見等を踏まえ、養成すべき分野の選択に係る具体的な方針を定めるとともに、養成すべき分野、養成人数等の選定に至った経緯、理由を明らかにし、毎年度、各分野の実情及び研修修了生の動向を把握して伝承者の充実のための不断の見直しを行うこと。 (3) (1)及び(2)を実施するに当たり、以下の観点を	3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修 (1) 伝統芸能の伝承者の養成 ア 歌舞伎、大衆芸能、能楽、文楽、組踊の各分野について実施 実施に当たっては、各分野の充足状況等を把握、関係団体等と協議、外部専門家等の意見等を踏まえ、養成分野、人数、研修期間等を定め計画的に実施 研修修了生の動向把握等により成果の検証を行い、対象とする分野、人数等について不断の見直し イ 重要無形文化財保持者等を講師として、実践的・体系的なカリキュラムにより、中期目標の期間中に次の人数の研修修了を目途とした養成研修を実施 ①歌舞伎俳優・音楽：18人程度、②大衆芸能：8人程度、③能楽：基礎課程5人程度、④文楽：6人程度、	3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修 (1) 伝統芸能の伝承者の養成 ア 中期計画の方針に従い、次の養成研修を実施 ① 歌舞伎俳優・音楽： (歌舞伎俳優) (a) 歌舞伎俳優第22期生(研修期間2年、9名)(修了) (b) 歌舞伎俳優第23期生の募集(歌舞伎音楽) (c) 竹本第22期生(研修期間2年、2名)(修了) (d) 竹本第23期生の募集 (e) 鳴物第15期生(研修期間2年、1名)(修了) (f) 鳴物第16期生の募集 (g) 長唄第7期生(研修期間3年、3名) ② 大衆芸能 (a) 寄席囃子第14期生(研修期間2年、6名) ③ 能楽(ワキ・囃子・狂言：研修期間6年) (a) 第9期生(2名) (b) 第10期生の募集 ④ 文楽(太夫、三味線、人形：研修期間2年)： (a) 第27期生(3名)(修了)	<主な定量的指標> ・ 修了者数(中期目標期間累計値) ・ 既成者研修発表会公演数 <その他の指標> ・ 広報活動及び研修生等の実演機会の充実等 <評価の視点> (27年度評価で指摘された取り組むべき課題) ・ 研修応募者の一層の確保のため、引き続き広報等の充実が望まれる。	<実績報告書等参照箇所> 平成28年度業務実績報告書P124～136 <主要な業務実績> 1. 養成研修の実施 ・ 歌舞伎俳優第22期生(研修期間2年、9名)の2年目の研修を実施、修了 ・ 竹本第22期生(研修期間2年、2名)の2年目の研修を実施、修了 ・ 鳴物第15期生(研修期間2年、1名)の2年目の研修を実施、修了 ・ 長唄第7期生(研修期間3年、2名)の1年目の研修を実施 (年度当初の3名のうち1名が8月に研修を辞退、また2名が9月適性審査に合格) ・ 寄席囃子第14期生(研修期間2年、4名)の1年目の研修を実施 (年度当初の6名のうち4名が9月適性審査に合格) ・ 能楽第9期生(研修期間6年、2名)の3年目の研修を実施 ・ 文楽第27期生(研修期間2年、3名)の2年目の研修を実施、修了 ・ 組踊第4期生(研修期間3年、10名)の3年目の研修を実施、修了 ・ 歌舞伎俳優・歌舞伎音楽(竹本・鳴物)研修修了発表会及び歌舞伎音楽(長唄)・大衆芸能(寄席囃子)研修発表会(合同開催、1回)、青翔会(能楽、3回)、東西合同研究発表会(能楽、1回)、文楽研修修了発表会(1回)、組踊研修生発表会(2回)を実施	<評定と根拠> 評定：B ・ 伝統芸能を長期的な視点に立って保存振興し、各分野の伝承者を安定的に確保するため、伝承者の充足状況等の調査、関係団体との協議、外部専門家の意見聴取を行いながら28年度の事業を進めた。中期目標の達成状況も概ね順調である。 ・ 新人研修、研修発表会及び既成者研修等について、計画どおり実施した。 ・ 歌舞伎俳優研修が舞台実習として出演した稚魚の会・歌舞伎会合同公演「寿曾我対面」における演技、研修修了発表会の「仮名手本忠臣蔵」の演技に対して、外部専門家から大きな研修の成果であるとして高い評価を得た。 ・ 稚魚の会・歌舞伎会合同公演は、国立劇場開場50周年を記念する番組を構成したこともあり、高い入場率(96.6%)を達成するとともに、舞台成果にも外部専門家から高い評価を得た。 ・ 国立劇場開場50周年にあたって研修事業が各種新聞雑誌等に取り上げられ、国立劇場設立の大きな成果の一つとして認められた。 <課題と対応> ・ 応募者の増加を図るため、募集時期の見直し、広報活動や研修見学会の充実等の方策を引き続き検討する。 ・ 組踊研修修了生において、芸能活動を継続的に	<評定に至った理由> 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 <評価すべき実績> — <今後の課題・指摘事項> ・ 国民への還元という観点からも、得られた成果については積極的に発信していくことが求められる。 ・ 応募者の一層の確保のため、引き続き広報等の充実が望まれる。 <有識者からの意見> ・ 国立劇場としての大きな役割であり、伝統芸能の次世代への継承に不可欠な事業として評価する。内容の検分・見直しを常に行い、より充実した内容となることが望まれる。	

<p>踏まえて事業を実施すること。</p> <p>ア 養成・研修事業の国民への周知</p> <p>イ 学校等との連携による波及効果の拡大</p> <p>ウ 伝統芸能の担い手を確保するための効果的かつ効率的な取組の検討</p> <p>エ 伝統芸能と現代舞台芸術の分野の相互交流</p> <p>オ 公演の制作及び舞台技術等に関するインターンシップや実地研修の受入等による人材養成</p>	<p>⑤組踊：18人程度</p> <p>ウ 既成者研修を実施</p> <p>① 既成者研修発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歌舞伎俳優既成者研修発表会（年2回程度）、歌舞伎音楽既成者研修発表会（年1回程度）、能楽既成者研修発表会（年3回程度）、文楽既成者研修発表会（年3回程度）、組踊既成者研修発表会（年1回程度） <p>② 能楽研究課程（1年間）</p> <p>(3) 実施に当たっての留意事項</p> <p>ア 養成研修事業についての広報活動を充実</p> <p>イ 児童・生徒等の体験学習や劇場外における様々な文化普及活動へ参画</p> <p>ウ 伝統芸能の担い手を確保するための効果的かつ効率的な取組について検討</p> <p>エ 合同講義の実施等、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流を実施</p> <p>オ 国立劇場、新国立劇場等の人材や施設を活用し、公演制作者や舞台技術者等の実地研修等の受入れ、協力</p>	<p>(b) 第28期生の募集</p> <p>⑤ 組踊(立方・地方:研修期間3年)</p> <p>(a) 第4期生(10名)(修了)</p> <p>(b) 第5期生の募集</p> <p>イ 次の既成者研修を実施</p> <p>① 既成者研修発表会</p> <p>(a) 歌舞伎俳優既成者研修発表会(2公演実施)稚魚の会・歌舞伎会合同公演、上方歌舞伎会</p> <p>(b) 歌舞伎音楽既成者研修発表会(1公演実施)音の会</p> <p>(c) 能楽既成者研修発表会(3公演実施)若手能(観世会館、大槻能楽堂、能楽堂)</p> <p>(d) 文楽既成者研修発表会(4公演実施)文楽若手会(文楽劇場、本館小ホール、2回)</p> <p>(e) 組踊既成者研修発表会(1公演実施)若手伝承者公演</p> <p>② 能楽研究課程</p> <p>ウ 養成分野、人数、研修期間等を定め計画的に実施</p> <p>成果の検証、対象分野、人数等について不断の見直し</p> <p>(3) 留意事項</p> <p>ア ホームページ等を活用し、事業の周知を促進、研修生募集について、様々な広報活動により周知</p> <p>イ 研修生及び研修修了生によるワークショップ等を全国の文化施設、学校等と協力して実施、外部公演への出演等、文化普及活動への参画</p> <p>ウ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義の実施</p> <p>エ 国立劇場、新国立劇場等の人材や施設を活用した、公演制作者や舞台技術者等に対する実地研修の受入れ、協力</p>		<p>2. 既成者研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歌舞伎俳優既成者研修発表会「稚魚の会・歌舞伎会合同公演」「上方歌舞伎会」を実施 ・ 歌舞伎音楽既成者研修発表会「音の会」を実施 ・ 能楽既成者研修発表会「若手能(京都公演・大阪公演・東京公演)」を実施 ・ 文楽既成者研修発表会「文楽若手会(大阪公演・東京公演)」「若手素浄瑠璃の会(2公演)」を実施 ・ 組踊既成者研修発表会「若手伝承者公演」を実施 ・ 能楽研究課程を引き続き開講(受講者33名、実施回数363回) <p>3. 実施に当たっての留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第40回全国高等学校総合文化祭広島大会会場、歌舞伎鑑賞教室、既成者研修発表会、研修修了発表会のロビーで養成研修事業を周知 ・ 能楽研修修了生を中心とした若手能楽師が全国の学校・文化施設等に出向いて行うワークショップ等を23件実施 ・ 五館合同特別講義において、歌舞伎音楽(鳴物)研修主任講師の田中佐太郎を招いての講演「良き舞台人となるために」とその後の研修生交流会を開催し、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流を実施 <p>4. 外部専門家等の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 養成事業委員会を開催し、外部専門家等の意見を聴取して、後の事業運営に活用 	<p>ていくための出演機会の創出について、各関係団体・関係機関と調整し、協力、連携していく必要がある。</p>	
---	--	--	--	--	---	--

4. その他参考情報

特になし

様式1-1-4-1 中期目標管理法 年度評価 項目別評価調書(国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項)

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1-3-2	現代舞台芸術の実演家等の研修				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人日本芸術文化振興会法 第14条第1項第3号	業務に関連する政策・施策	政策目標12 文化による心豊かな社会の実現 施策目標12-1 芸術文化の振興	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ															
①主要なアウトプット(アウトカム)情報						②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)									
指標等		達成目標	前中期目標 期間最終年 度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
修了者数 (オペラ)※	計画値	計25人程度	25人程度	5人	5人	5人	5人		決算額(百万円)		167	154	118	119	
	実績値	—	24人	5人	5人	5人	5人		従事人員数(人)		4	4	4	4	
	達成度	—	96.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%								
修了者数 (バレエ)※	計画値	計30人程度	30人程度	6人	6人	5人	6人								
	実績値	—	30人	6人	6人	5人	6人								
	達成度	—	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%								
修了者数 (演劇)※	計画値	計60人程度	75人程度	12人	9人	9人	8人								
	実績値	—	67人	11人	9人	9人	8人								
	達成度	—	89.3%	91.7%	100.0%	100.0%	100.0%								

※修了者数の前中期目標期間最終年度値は、計画値・実績値とともに前中期目標期間中の累計値。各年度の値は、当該年度の修了者のみ記載している。

1)決算額は、新国財団：養成研修費(財団委託費)を計上している。
2)従事人員数は、新国立劇場・おきなわ部管理課新国立劇場系の常勤職員の人数を計上している。その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評価	B
3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修 伝統芸能の保存振興、現代舞台芸術の振興普及を図るため、以下のとおり伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修を実施すること。 (2) 現代舞台芸術の実演家の研修については、高い技術と豊かな芸術性を備	3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修 (2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修 ア グローバルな視点に立った体系的なカリキュラム等により、安定的、継続的に実演家を育成 イ オペラ研修及びバレエ研修は国際的な活躍が期待	3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修 (2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修 ア 中期計画の方針に従い次の研修を実施 ①オペラ研修(研修期間3年) (a) 第17期生(5名3年目)(修了) (b) 第18期生(5名2年目) (c) 第19期生(5名1年目) (d) 第20期生(5名程度)の募集 (e) 研修発表会等(3公演実施) ・ 試演会(新国立劇場小劇場) ・ 修了公演(新国立劇場中劇場)	<主な定量的指標> ・ 修了者数(中期目標期間累計値) <その他の指標> 特になし <評価の視点> (27年度評価で指摘された取り組むべき課題) 特になし	<実績報告書等参照箇所> 平成28年度業務実績報告書P137~144 <主要な業務実績> 1. 研修の実施 ・ オペラ研修(研修期間3年)：第17期生5名の3年目の研修を実施、修了 第18期生5名の2年目の研修を実施 第19期生5名の1年目の研修を実施 ・ バレエ研修(研修期間2年)：第12期生6名の2年目の研修を実施、修了 第13期生7名の1年目の研修を実施 予科第7期生5名の2年目の研修を実施、修了 予科第8期生2名の1年目の研修を実施	<評価と根拠> 評価：B ・ オペラ研修生5名、バレエ研修生6名、演劇研修生8名が修了し、年度計画における目標を達成した。 ・ 研修発表会等について、計画どおり実施した。なおオペラ研修所7月試演会では、1回追加公演を行った。 ・ オペラ研修所では、全日本空輸株式会社の協賛により「ANAスカラシップ」を創設、ミラノ・スカラ座アカデミーでの海外研修に加え、ミュンヘン・バイエルン州立歌劇場付属研修	<評価に至った理由> 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 <評価すべき実績> — <今後の課題・指摘事項> ・ 国民への還元という観点からも、得られた成果については積極的に発信していくことが求められる。 <有識者からの意見> —	

<p>えたオペラ歌手、バレエダンサー及び演劇俳優を確保することを目的に、新国立劇場の公演をはじめとする水準の高い舞台に出演する実演家を養成するよう努めること。</p> <p>なお、事業の実施に当たっては、民間団体の役割を踏まえつつ、グローバルな視点に立って組まれた体系的なカリキュラムによって、安定的かつ継続的に行うこと。</p> <p>また、研修成果については、研修修了者の活動状況を示すなど、国民に分かりやすい形で明らかにすること。</p> <p>加えて、外部専門家等の意見を聴取し、成果の不十分なものについては廃止を含め、長期的な視点を踏まえて研修分野・規模について不断の見直しを行うこと</p> <p>(3) (1)及び(2)を実施するに当たり、以下の観点を踏まえて事業を実施すること。</p> <p>ア 養成・研修事業の国民への周知</p> <p>イ 学校等との連携による波及効果の拡大</p> <p>ウ 伝統芸能の担い手を確保するための効果的かつ効率的な取組の検討</p> <p>エ 伝統芸能と現代舞台芸術の分野の相互交流</p> <p>オ 公演の制作及び舞台技術等に関するインターンシップや実地研修の受入等による人材養成</p>	<p>できる水準の実演家を育成することを目標とし、演劇研修は確かな演技力等を備えた次代の演劇を担う実演家を育成することを目標として、第一線で活躍する各分野の専門家等を講師として、実践的・体系的なカリキュラムにより、中期目標の期間中に次の人数の研修修了を目標とした研修を実施</p> <p>①オペラ研修：25人程度、②バレエ研修：30人程度、③演劇研修：60人程度</p> <p>(3) 実施に当たっての留意事項</p> <p>ア 養成研修事業についての広報活動を充実</p> <p>イ 児童・生徒等の体験学習や劇場外における様々な文化普及活動へ参画</p> <p>エ 合同講義の実施等、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流を実施</p> <p>オ 国立劇場、新国立劇場等の人材や施設を活用し、公演制作者や舞台技術者等の実地研修等の受入れ、協力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歌唱コンサート(新国立劇場中劇場) (f) 海外研修の実施(9月～10月) ②バレエ研修(研修期間2年) <ul style="list-style-type: none"> (a) 第12期生(6名2年目)(修了) (b) 第13期生(7名1年目) (c) 第14期生(6名程度)の募集 (d) バレエ予科生 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第7期生(5名2年目) ・ 第8期生(2名1年目) ・ 第9期生(若干名)の募集 (e) 研修発表会等(3公演実施) <ul style="list-style-type: none"> ・ 発表公演(新国立劇場中劇場) ・ 修了公演(新国立劇場中劇場) ・ 「バレエ・アステラス2016」(新国立劇場オペラ劇場) ③演劇研修(研修期間3年) <ul style="list-style-type: none"> (a) 第10期生(8名3年目)(修了) (b) 第11期生(13名2年目) (c) 第12期生(16名1年目) (d) 第13期生(16名程度)の募集 (e) 研修発表会等(3公演実施) <ul style="list-style-type: none"> ・ 試演会(新国立劇場小劇場) ・ 修了公演(新国立劇場小劇場) ・ 朗読劇「ひめゆり」(新国立劇場小劇場) イ グローバルな視点に立った体系的なカリキュラム等により、安定的、継続的に実演家の育成の実施 <ul style="list-style-type: none"> 外部専門家等の意見の聴取、成果の検証により、長期的視点を踏まえて対象とする分野、人数などについて不断の見直し (3) 実施に当たっての留意事項 ア ホームページ等を活用し、事業の周知を促進、研修生募集について、様々な広報活動により周知 イ 研修生及び研修修了生によるワークショップ等を全国の文化施設、学校等と協力して実施、外部公演への出演等、文化普及活動への参画 ウ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義の実施 エ 国立劇場、新国立劇場等の人材や施設を活用した、公演制作者や舞台技術者 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 演劇研修(研修期間3年)：第10期生8名の3年目の研修を実施、修了 <ul style="list-style-type: none"> 第11期生12名の2年目の研修を実施(1名が退所) 第12期生15名の1年目の研修を実施(1名が退所) ・ 研修発表会等を実施：オペラ3回(7月試演会、11月歌唱コンサート、2月研修所公演)うち、7月試演会は年度計画で2回公演のところ、券売好調のため1回追加実施)、バレエ3回(7月バレエ・アステラス2016、11月第12期生・第13期生発表公演、2月修了公演)、演劇3回(8月第10期生朗読劇公演、11月試演会、2月修了公演) ・ 各研修所において次年度入所の研修生の募集・選考を実施 ・ オペラ研修所において海外研修を、28年度創設のANAスカラシップに基づき拡大して実施 ・ 研修事業委員会を開催、27年度の成果検証に基づき今後の方向性を検討 <p>2. 実施に当たっての留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページやFacebook等を活用し、研修の実施状況、修了生の活動状況等の詳細な情報を随時発信 ・ バレエ研修生がJ.P.モルガン協賛による聾学校生徒を対象としたレッスン見学会に出演 ・ 演劇研修所第10期生がラジオの特別番組に出演し、広島をテーマとした作品を朗読 ・ 五館合同特別講義、研修生交流会を開催し、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流を実施 ・ 舞台技術者、インターン等の受入れを行うとともに、芸術団体や公立文化施設、提携大学と連携して新国立劇場の人材及び施設を活用 	<p>所でも研修を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 舞台技術者等の研修については、関係諸団体と協力し、新国立劇場の人材及び施設を活かして積極的に実施した。 <p><課題と対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修事業への各方面からの大きな期待に応えるべく、研修内容、研修事業の在り方や展望については、引き続き研修事業委員会や講師会等において検討を重ねていく必要がある。 ・ 研修施設等については、関係各所と相談し、引き続き見直しを検討していきたい。 	
---	---	---	--	---	--	--

		等に対する実地研修の受入れ、協力				
--	--	------------------	--	--	--	--

4. その他参考情報
特になし

様式1-1-4-1 中期目標管理法人 年度評価 項目別評価調書(国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項)

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1-4-1-1	伝統芸能の調査研究				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人日本芸術文化振興会法 第14条第1項第4号	業務に関連する政策・施策	政策目標12 文化による心豊かな社会の実現 施策目標12-1 芸術文化の振興	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ													
①主要なアウトプット(アウトカム)情報							②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)						
指標等	達成目標	前中期目標期間最終年度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
								決算額(百万円)	200	212	202	214	
								従事人員数(人)	14	13	13	13	

1) 決算額は、
 ・ 振興会：芸能記録作成費、近代歌舞伎年代記編纂事業費
 ・ おきなわ財団：芸能記録作成費(財団委託費)を計上している。
 2) 従事人員数は、各館の調査研究等担当常勤職員及び国立劇場おきなわ業務管理職員の人数を計上している。
 (本館調査記録課、能楽堂事業推進課調査資料係、文楽劇場事業推進課調査資料係、新国立劇場・おきなわ部管理課国立劇場おきなわ係) の際、役員及びその他の職員は勘案していない。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評価	B
4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の充実等に資するとともに、その理解の促進を図るため、調査研究を実施すること。また、その成果を大学等の研究者、他の劇場、音楽堂等、芸術団体及び国民一般に提供するとともに、計画的な資料収集を行うこと。なお、事業の実施に当たっては、以下に掲げる事項に留意すること。 (1) 調査研究について	4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 伝統芸能の公開の充実に、その理解の促進を図るための調査研究及び資料の収集、並びに研究者や国民一般への成果の提供 (1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 ア 伝統芸能に関する調査研究を次のとおり実施 ① 上演資料集の作成 ② 日本各地の歌舞伎・文楽を主とした演	4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 (1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 ア 中期計画の方針に従い、伝統芸能に関する調査研究を次のとおり実施 ① 公演の実施に当たり、過去の公演記録、演出等を調査した上演資料集を作成 「仮名手本忠臣蔵」の歌舞伎及び文楽の上演年表データを収録したCDを作成、提供 ② 日本各地の歌舞伎・文楽を主とした演劇興行に関する記録及び組踊等沖縄伝統芸能の上演に関する記録の調査研究調査研究を次のとおり実施	<主な定量的指標> 特になし <その他の指標> ・ アンケート調査 <評価の視点> (27年度評価で指摘された取り組むべき課題) ・ 調査研究の成果については、国民への還元という観点からも、広く公開を図るなど、その活用については引き続き一層の検討を図ることが望まれる。	<実績報告書等参照箇所> 平成28年度業務実績報告書P147～149 <主要な業務実績> ・ 伝統芸能に関する調査研究を実施し、その成果として以下の刊行及び刊行準備を計画どおり実施 上演資料集(歌舞伎7冊、文楽4冊、組踊3冊) 上演資料集別冊「仮名手本忠臣蔵 上演年表(歌舞伎・文楽)」CD-R 「近代歌舞伎年表 名古屋篇」第十一巻(刊行)、同第十二巻以降(刊行準備・資料収集) 「義太夫年表 昭和篇」第四巻(刊行準備・資料調査) ・ 伝統芸能に関する古文書等について調査研究を実施し、その成果として以下の復刻・刊行等及び刊行準備を計画どおり実施 歌舞伎資料選書・12「芝居見たまま 明治篇」第五巻(刊行)全五巻完結 未翻刻戯曲集・23「江戸桜清水清玄」(刊行)、同24(古文書調査) 正本写合巻集・18「江戸桜清水清玄」(刊行)、同19「西南雲	<評価と根拠> 評価：A ・ 国立劇場開場50周年記念公演「通し狂言 仮名手本忠臣蔵」上演に合わせて、上演資料集別冊「仮名手本忠臣蔵 上演年表(歌舞伎・文楽)」CD-Rを制作した。過去に発行した「仮名手本忠臣蔵」(歌舞伎)上演資料集は、上演年表の情報が膨大なため年代別に分冊となっており、初演から現代までの全期間を通じての上演年表の作成が従来から望まれていた。そのため、これまでの年代別の上演年表に新たに再調査を加えて一つに集約することができたのは非常に意義深い。さらに歌舞伎・文楽を同時収録としたことは、国立劇場にしかできない事業であり画期的な成果である。加えて利用者の検索等の便宜を図るためデータ(PDF、Excel)として活用できるように配慮し、研究者、大学教授のみならず学生や個人にまでその汎用性を高めた。専門家、研究機関等のアンケートでも、いずれも高い評価を得た。 ・ 外部専門家の意見では、上演資料集別冊として「仮名手本	<評価に至った理由> 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 自己評価ではA評価であるが、今後の課題・指摘事項に示す点について、更なる改善を期待したい。 <評価すべき実績> ・ 莫大な参考文献等の資料を掲載した「仮名手本忠臣蔵」の上演資料集、別冊としての上演年表CD-R(歌舞伎・文楽)は、着実に資料を蓄積してきた国立劇場ならではの成果として評価できる。 <今後の課題・指摘事項> ・ 伝統芸能の調査研究については、計画を超える進捗は認められない。 ・ 調査研究の成果については、学術的な評価についても分析する必要がある。 ・ 国民への還元という観点からも、得られた成果については積極的に発信していくことが	

<p>は、所期の目的を達成したものから見直しを行い、振興会ならではの特性のあるものに重点化を図ること。</p> <p>(6) 一般利用者等の意見・要望等を聴取するとともに、外部専門家等の意見を踏まえ、事業の充実に反映させること。伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の充実等及びその理解の促進を図るため、調査研究を実施</p>	<p>劇興行に関する記録の調査研究、組踊等沖縄伝統芸能の上演に関する記録の調査研究</p> <p>③ 伝統芸能に関する古文献等についての調査研究、復刻・刊行等</p>	<p>(a) 「近代歌舞伎年表」名古屋篇第十一巻の刊行及び第十二巻の刊行準備、(b) 「義太夫年表 昭和篇」第四巻の刊行準備</p> <p>③ 伝統芸能に関する古文献等について調査研究を行い、復刻・刊行等を実施</p> <p>(a) 歌舞伎資料選書・12 「芝居見たまま 明治篇」第五巻、(b) 未翻刻戯曲集第二十三巻、(c) 正本写合巻集(2冊)、</p>		<p>晴朝東風」(刊行)</p> <p>その他古文献調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部専門家等の意見聴取 <p>調査事業委員会において外部専門家等より意見を聴取し、後の事業運営に活用。調査研究成果の外部機関への積極的な発信を求めたいという意見に対応して、ドイツ・フランス・韓国、計6カ所の研究機関等へ刊行物を寄贈。</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート調査を実施 <p>満足度：上演資料集(歌舞伎・文楽・上演資料集別冊・組踊)92.9%、「近代歌舞伎年表 名古屋篇」第十一巻95.8%</p>	<p>忠臣蔵 上演年表(歌舞伎・文楽)CD-Rの制作は、国立劇場ならではの仕事であり、極めて貴重な成果である等、最大級の評価を得た。また、「従来の分冊(年代別・冊子)という形態だとやや使いにくい面があったので、全期間まとまった形になったのは素晴らしい」「検索がとても便利である」「歌舞伎と文楽が同時に見られるのは評価できる」等の意見があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケートでは、「CD-Rによるデータ配布、しかも書き込み可能なExcelでの配布というのは画期的で、大英断」「このような上演資料集が欲しかった、研究機関のデータベースにとって非常に役立つ」等、好評であった。 公益財団法人統計情報研究開発センターの発行する機関誌「ESTRELA」に、上演資料集別冊「仮名手本忠臣蔵上演年表(歌舞伎・文楽)CD-Rが紹介された。比類ないボリュームに加え、文字表記の統一など、使い勝手にも気が配られている、と評価され、「忠臣蔵」上演の時代別、上演場所、全十一段の上演パターンの特徴など、データでの提供により多様なアプローチが可能となった点が注目された。 アンケートでは、「満足」との回答が、上演資料集別冊「仮名手本忠臣蔵 上演年表(歌舞伎・文楽)CD-Rで98.1%と、特に高い評価を得た。 上演資料集では「仮名手本忠臣蔵」上演に合わせ、歌舞伎公演は3冊(10月～12月)、文楽は1冊(12月)発行し、その膨大な参考文献に加え、過去の演出資料・芸談等をいずれも300頁を超える豊富な情報を掲載し、出演者・スタッフ・観客等に調査研究成果を提供することができた。 振興会が刊行する資料、年表、文献類は、伝統芸能のみならず江戸期以降の歴史研究において基礎資料となるものであり、これまでの刊行物に対して研究者等から高く評価されている。これらの調査研究の成果は刊行後すぐに現れるものではなく、長期的計画のもと確実に行われることが最重要である。 伝統芸能に関する調査研究を不断に実施し、各刊行物を作成した。次年度以降の刊行物の準備についても、資料集積、原稿作成等の作業を計画的に進めた。正本写合巻集(2冊)と未翻刻戯曲集の刊行については、これにより黙阿弥研究のめざましい進展、大きな意義があったと外部専門家から高く評価され、国立劇場の調査研究事業の意義を高めた。また、「芝居見たまま 明治篇」の全5巻完結とともに、歌舞伎研究の進展に寄与する大きな成果を得た。 	<p>求められる。</p> <p><有識者からの意見></p> <ul style="list-style-type: none"> 「仮名手本忠臣蔵」のCD-R作成は国立劇場ならではの事業である。他の演目にも広げて欲しい。
--	---	---	--	---	---	---

4. その他参考情報

特になし

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1-4-1-2	伝統芸能の資料の収集・活用				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人日本芸術文化振興会法 第14条第1項第4号	業務に関連する政策・施策	政策目標12 文化による心豊かな社会の実現 施策目標12-1 芸術文化の振興	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット(アウトカム)情報								②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)						
指標等		達成目標	前中期目標期間最終年度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
文化デジタルライブラリーアクセス件数	計画値	—	360,000件	400,000件	430,000件	455,000件	520,000件		決算額(百万円)	164	130	174	179	
	実績値	—	473,258件	583,969件	622,365件	680,018件	898,468件		従事人員数(人)	12	12	11	12	
	達成度	—	131.5%	146.0%	144.7%	149.5%	172.8%							
展示公開実施状況(情報館)	計画値	年3企画程度	4回	4回	4回	4回	4回							
	実績値	—	4回	4回	4回	4回	4回							
	達成度	—	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%							
展示公開実施状況(演芸資料館)	計画値	年3企画程度	3回	3回	3回	3回	3回							
	実績値	—	3回	3回	3回	3回	3回							
	達成度	—	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%							
展示公開実施状況(能楽堂)	計画値	年4企画程度	5回	4回	4回	4回	4回							
	実績値	—	5回	4回	4回	4回	4回							
	達成度	—	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%							
展示公開実施状況(文楽劇場)	計画値	年4企画程度	5回	5回	4回	4回	4回							
	実績値	—	5回	5回	4回	4回	4回							
	達成度	—	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%							
展示公開実施状況(おきなわ)	計画値	年4企画程度	4回	4回	4回	4回	4回							
	実績値	—	4回	4回	4回	4回	4回							
	達成度	—	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%							
展示公開来場者数	計画値	前中期目標期間の実績(計974,532人)以上	174,370人	178,250人	181,650人	185,120人	184,490人							
	実績値	—	205,849人	206,012人	211,845人	213,495人	231,460人							
	達成度	—	118.1%	115.6%	116.6%	115.3%	125.5%							

1) 決算額は、
 ・振興会：文化デジタルライブラリー構築事業費、資料収集活用費
 ・おきなわ財団：資料収集活用費(財団委託費)、文化プログラム関係費(財団委託費)を計上している。
 2) 従事人員数は、各館の調査研究等担当常勤職員及び国立劇場おきなわ業務管理職員の人数を計上している。
 (本館資料サービス課、能楽堂事業推進課調査資料係、文楽劇場事業推進課調査資料係、新国立劇場・おきなわ部管理課国立劇場おきなわ係) の際、役員及びその他の職員は勘案していない。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	A
4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の充実に資するとともに、その理解の促進を図るため、調査研究を実施すること。また、その成果を大学等の研究者、他の劇場、音楽堂等、芸術団体及び国民一般に提供するとともに、計画的な資料収集を行うこと。なお、事業の実施に当たっては、以下に掲げる事項に留意すること。 (2) 成果については、インターネットなど多様な媒体を用いて公開すること。 (3) 公演の映像記録については、必要な著作権等の処理を行った上で、劇場上映や映像記録の販売等を行うなど有効に活用すること。 (4) 一般公開施設については、利用者の利便性の向上と広報活動の強化を図ること。なお、資料展示室の来場者数については、前中期目標期間の実績以上とすること。 (6) 一般利用者等の意見・要望等を聴取するとともに、外部専門家等の意見を踏まえ、事業の充実に反映させること。	4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 伝統芸能の公開の充実に資するとともに、その理解の促進を図るため、調査研究及び資料の収集、並びに研究者や国民一般への成果の提供 (1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 イ 伝統芸能に関する資料の収集及び活用を次のとおり実施 ① 伝統芸能関係図書、歌舞伎錦絵等博物資料等の収集及び分類整理、閲覧、図録等の作成、博物館施設等への貸与等 ② 収集した資料のデータベース化、デジタルコンテンツの充実 ウ 収集した資料等の展示公開 ・ 伝統芸能情報館資料展示室 年3企画程度 ・ 演芸資料館資料展示室 年3企画程度 ・ 能楽堂資料展示室 年4企画程度 ・ 文楽劇場資料展示室 年4企画程度 ・ 国立劇場おきなわ資料展示室 年4企画程度	4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 (1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 イ 中期計画の方針に従い、伝統芸能に関する資料の収集及び活用を次のとおり実施 ① 図書・資料の収集及び分類整理、閲覧のための提供 伝統芸能全般に関する図書・資料のほか、主に各館の公開分野に関する図書・資料を収集 開架図書の充実、一般利用の促進 ② 収集した資料等を活用し、次のとおり刊行 また、博物館施設等に対し、収集した資料を貸与 (a) 特別展示図録(能楽堂) (b) 英文演目解説「The Guide to Noh of National Noh Theatre」(6)(能楽堂) ③ 収集した資料のデータベース化やデジタルコンテンツの充実及びインターネットによる公開 (a) 図書、資料及び公演記録等について、次の情報のデータベース化を実施 ・ 図書(本館公演筋書) ・ 錦絵 ・ プロマイド ・ 公演記録情報(上演情報、公演記録写真、扮装図鑑) (b) 文化デジタルライブラリーホームページ目標アクセス件数：520,000件 ウ 収集した資料等を別表8のとおり展示公開	<主な定量的指標> ・ 文化デジタルライブラリーアクセス件数 ・ 展示公開実施状況 ・ 展示公開来場者数 <その他の指標> 特になし <評価の視点> (27年度評価で指摘された取り組みべき課題) 特になし	<実績報告書等参照箇所> 平成28年度業務実績報告書P150～157 <主要な業務実績> 1. 資料の収集と公開 ・ 伝統芸能全般の文献(図書・解説書・台本・雑誌等)、図画(錦絵・番付・絵巻等)、写真、映像・音声資料、舞台装置等の資料について、収集、分類整理を各館で実施 2. 収集資料の活用 ・ 整理した資料等を、展示、閲覧、講座、公演記録鑑賞会等で活用 ・ 三井記念美術館において、特別展「国立劇場開場50周年記念 日本の伝統芸能展」を三井記念美術館、NHK、NHKプロモーションと共催 ・ 国立劇場の50年間を彩った主催公演のポスターを、歌舞伎公演期間中、本館大劇場ロビーの特設展示コーナーにおいて展示 ・ 伝統芸能情報館図書閲覧室にて、毎月の公演・展示に関するコーナーを設け、関連文献を配架 ・ 能楽堂資料展示室での特別展示及び企画展示のための調査結果をもとに、図録を作成 ・ 外部展示への資料の貸出 ・ 株式会社吉徳主催の国立劇場50周年記念「立版古と芝居絵」展への立版古貸出 ・ 京王プラザホテルの開業45周年記念イベント「幽玄～芸のブランディング～展」への能面、能装束、文献・絵画等の貸出 ・ 金沢能楽美術館開館10周年記念Ⅱ特別展「狂言一笑の美意識」への狂言装束、絵画の貸出 ・ 大阪市立中央図書館の「図書館で“観る”ぶんらく」展への過去の文楽上演ポスター及び文楽人形のかしらの製作工程貸出 ・ 豊中市立伝統芸能館の展示への文楽人形及び文楽入門解説パネル貸出 ・ 文楽を中心とした古典芸能振興事業実行委員会主催(大阪市・公益財団法人文楽協会)「ムムム！文楽シリーズ『まちなか文楽展』」への文楽人形、義太夫三味線及び小道具等貸出 ・ 和歌山大学紀州経済史文化史研究所主催の特別展「道成寺の縁起・伝承と実像」への丸本、稽古本及び公演記録写真等貸出 ・ 独立行政法人国立文化財機構アジア太平洋無形文化遺産研究センター、堺市、文化庁主催の無形文化遺産国際シンポジウム「技と心を受け継ぐ」への文楽紹介パネル貸出 ・ 阪神高速道路株式会社の阪神高速ミナミ交流プラザ(愛称:LoopA)での錦秋文楽公演に関する展示への、写真パネル、舞台模型及び文楽人形のかしらの製作工程等の貸出 ・ 関西国際空港旅客ターミナル KIX ギャラリー「文	<評定と根拠> 評定：A ・ ユネスコ無形文化遺産解説コンテンツ「文楽への誘い」多言語版(8言語)を作成した。また、デジタルコンテンツの充実等により、アクセス件数は大幅に増加した(前年度比32.1%増)。 ・ 収集資料のデータベース化を計画どおり実施した。 ・ 計画どおり資料の収集を行い、閲覧・展示・貸出等に活用した。 ・ 展示公開の来場者数は合計231,460人であり、年度計画目標の達成度は125.5%に至った。 ・ 国立劇場開場50周年記念事業として、三井記念美術館で「日本の伝統芸能展」を開催した。これは平成15年に行った「歌舞伎400年展」以来13年ぶりの外部での大規模な展示となり、来場者からは大変な好評を得た。 ・ 能楽堂の展示図録は、年度計画では1冊のところを2冊刊行した。 ・ 能楽堂の特別展示と企画展示は、相互の展示企画に連続性があり、また公演(月間特集)や公開講座とも連動して、効率的かつ効果的に行うことができた。 ・ 能楽堂の特別展示では監修者会議を定期的で開催して、最新の調査・研究成果を取り入れた展示を行うことができた。 ・ 国立劇場おきなわ県外公演に合わせて、会場の京都・春秋座(5/20～23、6/5)で、組踊・琉球舞踊の衣裳・小道具等の展示を行った。	<評定に至った理由> 評価すべき実績の欄に示す通り、中期計画及び年度計画に定められた以上の業務の実績が認められるため。 <評価すべき実績> ・ ユネスコ無形文化遺産解説コンテンツ「文楽への誘い」の多言語版(8言語)を作成したことは、日本文化普及の観点からも高く評価できる。 ・ 文化デジタルライブラリーアクセス数は172.8%という高い成果を達成している。(対前年度実績132.1%) ・ 展示公開の来場者数は125.5%という高い成果を達成している。 ・ 三井記念美術館における「日本の伝統芸能展」は、資料の積極的な活用という観点から評価できる。 <今後の課題・指摘事項> ・ 収集した資料については、幅広く提供するとともに、より効果的に活用することが求められる。 <有識者からの意見> ・ 文化デジタルライブラリーは、利用しやすい。今後は、国立劇場以外での上演データも載せることが望まれる。	

			<p>三井記念美術館において「国立劇場開場50周年記念 日本 の伝統芸能展」を開催</p> <p>本館劇場ロビーにおいて公 演ポスター展を開催</p>		<p>楽展 2017」への文楽人形、文楽絵看板等貸出</p> <p>3. 文化デジタルライブラリー等の整備と公開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画どおり収集資料のデータベース化を引き続き実施、プロマイド 261 点を登録・公開するなどデジタルコンテンツを充実 ・ ユネスコ無形文化遺産解説コンテンツ「文楽への誘い」多言語版(8 言語)を作成 <p>4. 展示公開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 収集資料の展示公開を計画どおり実施し、19 企画で入場者数 231,460 人(目標 184,490 人 達成度 125.5%) ・ 伝統芸能情報館情報展示室及び演芸場資料展示室では、歌舞伎・文楽・大衆芸能に興味と理解を深めることを目的に展示を実施 ・ 文楽劇場展示室では、英語による展示解説を充実させ、さらに文化プログラム事業の一環として外国人向け小冊子「Introduction To BUNRAKU」を作成し、展示室にて配布。また、来場者アンケートでも好評であった公演記録映像上映を充実させるため、改修時に映像コーナーを新設し、展示に因んだ過去の公演記録映像を 10 分～20 分程度に編集し上映 ・ 国立劇場おきなわでは、自主公演と関連付けて企画展を実施 <p>5. 外部専門家等の意見及びアンケート調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査事業委員会において外部専門家等より意見を聴取し、後の事業運営に活用 ・ アンケート調査を実施 <p>満足度：図書閲覧室(全館)91.8%、資料展示室(全館)88.3%</p>		
--	--	--	---	--	---	--	--

4. その他参考情報
特になし

様式1-1-4-1 中期目標管理法人 年度評価 項目別評価調書(国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項)

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1-4-1-3	公演記録の作成・活用、普及活動の実施[伝統芸能関係]				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人日本芸術文化振興会法 第14条第1項第4号	業務に関連する政策・施策	政策目標12 文化による心豊かな社会の実現 施策目標12-1 芸術文化の振興	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット(アウトカム)情報										②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)				
指標等		達成目標	前中期目標期間最終年度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
講座等実施状況	計画値	—	53回	54回	52回	52回	54回			決算額(百万円)	278	272	321	330
	実績値	—	53回	54回	53回	52回	54回			従事人員数(人)	25	25	23	25
	達成度	—	100.0%	100.0%	101.9%	100.0%	100.0%			/				
講座等参加者数	計画値	前中期目標期間の実績(計32,157人)以上	5,962人	5,956人	5,790人	5,930人	6,902人							
	実績値	—	6,448人	6,708人	7,536人	6,865人	6,100人							
	達成度	—	108.2%	112.6%	130.2%	115.8%	113.1%							
講座等満足度	計画値	平均80%以上	80%	80%	80%	80%	80%							
	実績値	—	89.2%	87.6%	85.7%	90.8%	89.7%							
	達成度	—	111.5%	109.5%	107.1%	113.5%	112.1%							

1)決算額は、
 ・振興会：芸能記録作成費、資料収集活用費
 ・おきなわ財団：芸能記録作成費(財団委託費)、資料収集活用費(財団委託費)、文化プログラム関係費(財団委託費)を計上している。
 2)従事人員数は、各館の調査研究等担当常勤職員及び国立劇場おきなわ業務管理職員の人数を計上している。
 (本館調査記録課・資料サービス課、能楽堂事業推進課調査資料係、文楽劇場事業推進課調査資料係、新国立劇場・おきなわ部管理課国立劇場おきなわ係) の際、役員及びその他の職員は勘案していない。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評価	B
4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の充実等に資するとともに、その理解の促進を図るため、調査研究を実施すること。また、その成果を大学等の研究者、他の劇場、音楽堂等、芸術団体及び国民一般に提供するとともに、計画的な資料収集を行うこと。なお、事業の実施に当たっては、以	4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 伝統芸能の公開の充実等に資するとともに、その理解の促進を図るための調査研究及び資料の収集、並びに研究者や国民一般への成果の提供 (3) 公演記録の作成・活用、普及活動の実施	4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 (3) 公演記録の作成・活用、普及活動の実施	<主な定量的指標> ・ 講座等実施状況 ・ 講座等参加者数 ・ 講座等満足度 <その他の指標> 特になし <評価の視点> (27年度評価で指摘された取り組むべき課題) 特になし	<実績報告書等参照箇所> 平成28年度業務実績報告書P158~162 <主要な業務実績> 1. 公演記録の作成・活用 ・ 主催公演について、映像・写真等による記録を作成 本館・演芸場64公演、能楽堂51公演、文楽劇場16公演、国立劇場おきなわ30公演 ・ 各館図書閲覧室・視聴室において、公演記録写真・公演記録映像を出演者及び公演関係者と一般来場者の閲覧・視聴に供するとともに、出演者、教科書等の出版社及び放送局等	<評価と根拠> 評価：B ・ 公演記録の作成について、計画どおり実施した。 ・ 公開講座は、全館の合計で目標参加者数を達成した。またアンケートにおいても有意義回答の割合が目標を達成した。 ・ 伝統芸能サロンは6回開催し、伝統芸能の普及に努めた。実演家・研究者を講師に招き、初めて伝統芸能に触れる方向けに鑑賞入門として2回、国立劇場開場50周年記念として「国立劇場の50年を振り返る」をテーマに4回実施した。参加者数の達成率が137.2%と非常に高く、アンケートの満足度も88.4%であった。 ・ 本館の公演記録鑑賞会は、「国立劇場開場50周年記念-国立劇場の足跡-」と題し、主催公演の映像記録のうち過去の開場	<評価に至った理由> 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 <評価すべき実績> — <今後の課題・指摘事項> — <有識者からの意見> —	

<p>下に掲げる事項に留意すること。</p> <p>(3) 公演の映像記録については、必要な著作権等の処理を行った上で、劇場上映や映像記録の販売等を行うなど有効に活用すること。(5) 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公開の講座、公演記録映像の鑑賞会等を実施し、参加者数については前中期目標期間の実績以上とすること。</p> <p>(6) 一般利用者等の意見・要望等を聴取するとともに、外部専門家等の意見を踏まえ、事業の充実に反映させること。</p>	<p>ア 演技・演出等の記録の作成・保存、閲覧・視聴</p> <p>イ 公演記録映像の鑑賞会等の開催による有効活用</p> <p>ウ 講座、展示等の実施</p>	<p>ウ 公開講座等、普及活動の実施</p> <p>① 公開講座等を別表9のとおり実施 広報活動を十分に実施 アンケート調査の実施、 目標満足回答率80%以上</p> <p>② 公演関連講座、展示等を適宜実施、内容に応じてホームページ等で公開</p> <p>③ 教員免許更新制における免許状更新講習を実施</p> <p>④ 組踊等沖縄伝統芸能への理解促進のため、全国の文化施設や学校等における普及活動を充実</p>		<p>の依頼に応じて複製物を作成・提供</p> <p>2. 公開講座等、普及活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統芸能に関する理解の促進と普及を図るため、公演記録映像を活用した以下の鑑賞会等を開催 「公演記録鑑賞会」伝統芸能情報館14回、文楽劇場12回、国立劇場おきなわ4回、「能楽鑑賞講座」能楽堂12回 ・ その他講座等普及活動の実施 伝統芸能サロン(伝統芸能情報館、6回)、能楽特別講座(能楽堂、1回)、伝統芸能講座(文楽劇場、1回)、沖縄伝統芸能講座(国立劇場おきなわ、4回) ・ 鑑賞会、講座等の普及活動は計154回で参加者数6,902人(目標6,100人 達成度113.1%) ・ 教員免許状更新講習を引き続き実施 ・ 日本の伝統芸能を題材にした英語教材の作成 	<p>記念公演や周年記念公演を中心とした公演記録鑑賞会を27年度(12回)より回数を増やし、14回行った。参加者数の達成率が112.0%であり、満足度は93.5%と目標を大幅に上回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文楽劇場の公演記録鑑賞会及び伝統芸能講座等においては、参加者数の目標を大幅に上回った。(達成度127.0%、207.1%) ・ 教員免許状更新講習を計画どおり実施し、定員を超える応募があった。また講習の実施に当たっては、講座内容、講師等を見直し、その充実を図った。 ・ 「大規模改修基本構想」の基本方針にある「ナショナルセンターとしての機能強化」を図るため、伝統芸能の教育普及に向けた取組の一環として、伝統芸能を題材とした英語教材を作成し、全国の小中学校及び教育委員会宛に発送した上、ホームページに公開することで、普及を進めた。 <p><課題と対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国立劇場おきなわでは、公演記録鑑賞会及び伝統芸能公開講座の参加者数が目標に及ばなかった。公演記録鑑賞会は、沖縄伝統芸能以外の記録上映の会の参加者数が少なかった。伝統芸能公開講座は、「子ども三板体験教室」の募集定員(30人)が少なかったこと、他の講座は申込者数は目標人数に達していたものの、当日に来られなかった人数が多かったことが原因に挙げられる。今後も上演目や講座の内容を検討するとともに、引き続きマスコミを利用した広報に努めていきたい。 	
--	--	---	--	--	---	--

<p>4. その他参考情報</p>
<p>特になし</p>

様式1-1-4-1 中期目標管理法 年度評価 項目別評価調書(国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項)

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1-4-2-1	現代舞台芸術の調査研究				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人日本芸術文化振興会法 第14条第1項第4号	業務に関連する政策・施策	政策目標12 文化による心豊かな社会の実現 施策目標12-1 芸術文化の振興	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ													
①主要なアウトプット(アウトカム)情報							②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)						
指標等	達成目標	前中期目標期間最終年度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
								決算額(百万円)	12	9	6	7	
								従事人員数(人)	4	4	4	4	

1) 決算額は、新国財団：一般管理費(調査研究、図書・資料収集)(財団委託費)を計上している。
2) 従事人員数は、新国立劇場・おきなわ部管理課新国立劇場系の常勤職員の人数を計上している。
その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評価	B
4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の充実等に資するとともに、その理解の促進を図るため、調査研究を実施すること。また、その成果を大学等の研究者、他の劇場、音楽堂等、芸術団体及び国民一般に提供するとともに、計画的な資料収集を行うこと。なお、事業の実施に当たっては、以下に掲げる事項に留意すること。 (1) 調査研究については、所期の目的を達成したもののから見直しを行い、振興会ならではの特性のあるものに重点化を図ること。	4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 現代舞台芸術の公演の充実等に資するとともに、その理解の促進を図るための調査研究及び資料収集、研究者や国民一般への成果の提供 (2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 ア 上演作品等についての資料調査	4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 (2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 ア 新国立劇場で上演する現代舞台芸術の主催公演等に関し、上演作品等についての資料調査を実施 ① 現代舞台芸術に関する調査を実施、調査結果の活用 ② 海外の主要劇場や演劇祭等の情報を収集・活用、公開 ③ 主催公演の公演記録映像、写真、舞台演出・美術資料などについて、整理・保存	<主な定量的指標> 特になし <その他の指標> ・ マンスリー・プロジェクト実施状況 <評価の視点> (27年度評価で指摘された取り組みべき課題) ・ 調査研究の成果については、国民への還元という観点からも、広く公開を図るなど、その活用については一層の検討が望まれる。	<実績報告書等参照箇所> 平成28年度業務実績報告書P164~166 <主要な業務実績> ・ 現代舞台芸術に関する調査を行い、その成果として、「マンスリー・プロジェクト」を14講座開催 ・ 民間出版社と連携し、戯曲を刊行 ・ 公演記録映像の公開 ・ 海外の演劇祭や演劇都市の現状等についての調査研究の成果を公演プログラムやホームページで広く発信 ・ 主催公演に関する資料等について整理・保存及び活用 ・ 主催公演の出演者やスタッフのデータベースの整理公開に着手	<評価と根拠> 評価：B ・ マンスリー・プロジェクトにおいて、主催公演と連動した演劇講座やトークセッション、リーディングやミュージカルを体験するワークショップ等、多角的に演劇にアプローチする企画を実施し目標(1,500人)を大きく上回る参加者を得た(参加者2,931人、達成度195.4%)。 ・ 特にシェイクスピア没後400年特別企画関連では、翻訳家2名、演出家2名を講師に迎え計4回の集中講座を開催するとともに(参加者1,108人)、企画展示を同時に実施することができた。 ・ 2か国5件(韓国3件、ルーマニア2件)の演劇祭及び世界の演劇都市の現地レポート(3件)についての調査研究の成果を、公演プログラム(7冊)やホームページに掲載し、広く発信した。 ・ 主催公演の出演者やスタッフのデータベースの作成に着手した。	<評価に至った理由> 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 <評価すべき実績> — <今後の課題・指摘事項> — <有識者からの意見> —	

<p>(6) 一般利用者等の意見・要望等を聴取するとともに、外部専門家等の意見を踏まえ、事業の充実に反映させること。</p>					<p><課題と対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き、インターネット環境を構築するとともに、閲覧室等の利用環境を整備するなど、利便性を向上させ、調査研究の結果をより広く公開するための方策を検討したい。 ・ 民間の舞台創造の現場の参考となり、かつ公演の実施に役立つ資料を、広く舞台制作者や研究者の利用に供するための方策を検討したい。 ・ 主催公演データベースについては、文化デジタルライブラリーや大学の研究機関等との連携を積極的に検討したい。 	
--	--	--	--	--	---	--

<p>4. その他参考情報</p>
<p>特になし</p>

様式1-1-4-1 中期目標管理法人 年度評価 項目別評価調書(国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項)

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1-4-2-2	現代舞台芸術の資料の収集・活用				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人日本芸術文化振興会法 第14条第1項第4号	業務に関連する政策・施策	政策目標12 文化による心豊かな社会の実現 施策目標12-1 芸術文化の振興	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット(アウトカム)情報								②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)						
指標等		達成目標	前中期目標 期間最終年 度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
展示公開実施状況(舞台美術センター)	計画値	年1企画程度	3回	4回	4回	3回	3回			決算額(百万円)	125	121	120	122
	実績値	—	5回	4回	4回	4回	3回			従事人員数(人)	4	4	4	4
	達成度	—	166.7%	100.0%	100.0%	133.3%	100.0%			/				
展示公開来場者数(舞台美術センター)	計画値	前中期目標期間の実績(計6,005人)以上	800人	900人	900人	900人	800人							
	実績値	—	1,197人	845人	787人	717人	828人							
	達成度	—	149.6%	93.9%	87.4%	79.7%	103.5%							
展示公開実施状況(新国立劇場内)	計画値	年2企画程度	2回	2回	2回	4回	5回							
	実績値	—	9回	5回	5回	4回	5回							
	達成度	—	450.0%	250.0%	250.0%	100.0%	100.0%							
展示公開来場者数	計画値	前中期目標期間の実績(計6,005人)以上	800人	900人	900人	900人	800人							
	実績値	—	1,197人	845人	787人	717人	828人							
	達成度	—	149.6%	93.9%	87.4%	79.7%	103.5%							

1)決算額は、新国財団：情報システム借料、情報システム維持管理費、一般管理費(図書・資料収集、閲覧室業務)(財団委託費)を計上している。
2)従事人員数は、新国立劇場・おきなわ部管理課新国立劇場系の常勤職員の人数を計上している。その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評価	B
4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の充実等に資するとともに、その理解の促進を図る	4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 現代舞台芸術の公演の充実等に資するとともに、その理解の促進を図る	4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 (2)現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 イ 現代舞台芸術に関する図書、資料	<主な定量的指標> ・ 展示公開実施状況 ・ 展示公開来場者数 <その他の指標> 特になし	<実績報告書等参照箇所> 平成28年度業務実績報告書P167~169 <主要な業務実績> 1. 資料の収集と公開 ・ 現代舞台芸術に関する図書資料・視聴覚資料	<評価と根拠> 評価：B ・ 主催公演に関連した展示をほぼ全ての演劇	<評価に至った理由> 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 <評価すべき実績> —	

<p>ため、調査研究を実施すること。また、その成果を大学等の研究者、他の劇場、音楽堂等、芸術団体及び国民一般に提供するとともに、計画的な資料収集を行うこと。なお、事業の実施に当たっては、以下に掲げる事項に留意すること。</p> <p>(2) 成果については、インターネットなど多様な媒体を用いて公開すること。</p> <p>(3) 公演の映像記録については、必要な著作権等の処理を行った上で、劇場上映や映像記録の販売等を行うなど有効に活用すること。</p> <p>(4) 一般公開施設については、利用者の利便性の向上と広報活動の強化を図ること。なお、資料展示室の来場者数については、前中期目標期間の実績以上とすること。</p> <p>(6) 一般利用者等の意見・要望等を聴取するとともに、外部専門家等の意見を踏まえ、事業の充実に反映させること。</p>	<p>もに、その理解の促進を図るための調査研究及び資料収集、研究者や国民一般への成果の提供</p> <p>(2)現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用</p> <p>イ 図書、資料等の収集及び分類整理、閲覧、貸与</p> <p>ウ 収集した資料等の展示公開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新国立劇場内 年2企画程度 ・ 舞台美術センター資料館 年1企画程度 	<p>等の収集及び分類整理、閲覧のために提供、他の劇場施設等への貸与</p> <p>① 開架図書の充実、一般利用の促進</p> <p>② 図書等の情報のデータベース化</p> <p>③ 過去の寄贈資料や公演関連資料のデータベース化</p> <p>ウ 収集した資料等を、別表8のとおり展示公開</p> <p>舞台美術センター資料館の活用方法を検討、来場者の利便性の向上と広報活動の強化を実施</p>	<p><評価の視点></p> <p>(27年度評価で指摘された取り組みべき課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 舞台美術センターは来場者数が減傾向にあることから引き続き要因を分析し、改善を図ることが求められる。 <p>情報センターの今後の活用方針については、継続的に検討を行い、方針を策定することが望まれる。</p>	<p>料等を収集、分類整理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基金部との連携により、助成団体・公演のプログラム及びポスターを譲り受け、管理システムに登録するとともに、一般の利用に提供 <p>2. 展示公開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 舞台美術センター及び新国立劇場内において展示公開を実施 ・ 文化プログラムの一環として明治以降の日本の現代舞台芸術を調査し、第一次展示として明治元年から昭和20年までを年表と人物プロフィールにまとめ公開 ・ シェイクスピア没後400年企画として所蔵する古書や版画などシェイクスピア関連の資料を展示 ・ オペラ鑑賞教室関西公演に合わせて開催された外部展示に衣裳、舞台模型を提供 	<p>公演で行うことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シェイクスピア没後400年に因み、特別展示「シェイクスピアと英国王朝」を実施した。 ・ 特別展示「日本の現代舞台芸術」を開始した。 ・ ロームシアター京都において、新国立劇場オペラ公演の展示を実施した。 ・ 早稲田大学演劇博物館に資料の貸出を行った。 <p><課題と対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 舞台美術センターの講座(オペラコンサート「銚子!?!のいい仲間たち」)は、大変好評で継続を望まれているが、展示については見直しが必要と思われる。そのため、引き続き施設の活用方法について多角的に検討を行いたい。 	<p><今後の課題・指摘事項></p> <p>—</p> <p><有識者からの意見></p> <p>—</p>
--	--	--	---	--	--	---

<p>4. その他参考情報</p>
<p>特になし</p>

様式1-1-4-1 中期目標管理法 年度評価 項目別評価調書(国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項)

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1-4-2-3	公演記録の作成・活用、普及活動の実施[現代舞台芸術関係]				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人日本芸術文化振興会法 第14条第1項第4号	業務に関連する政策・施策	政策目標12 文化による心豊かな社会の実現 施策目標12-1 芸術文化の振興	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ														
①主要なアウトプット(アウトカム)情報								②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)						
指標等		達成目標	前中期目標期間最終年度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
講座等実施状況	計画値	—	37回	42回	42回	38回	39回			決算額(百万円)	6	7	5	6
	実績値	—	39回	43回	42回	59回	81回			従事人員数(人)	4	4	4	4
	達成度	—	105.4%	102.4%	100.0%	155.3%	207.7%			/				
講座等参加者数	計画値	前中期目標期間の実績(計14,724人)以上	1,700人	1,700人	1,810人	1,500人	1,936人							
	実績値	—	3,782人	3,239人	2,305人	4,177人	4,297人							
	達成度	—	222.5%	190.5%	127.3%	278.5%	222.0%							
講座等満足度	計画値	平均80%以上	80%	80%	80%	80%	80%							
	実績値	—	93.5%	98.5%	97.5%	94.8%	96.6%							
	達成度	—	116.9%	123.1%	121.9%	118.5%	120.8%							

1) 決算額は、新国財団：一般管理費(公演記録データ管理、閲覧室業務、展示公開、講座等)(財団委託費)を計上している。
 2) 従事人員数は、新国立劇場部の常勤職員の人数を計上している。
 その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評価	B
4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の充実等に資するとともに、その理解の促進を図るため、調査研究を実施すること。また、その成果を大学等の研究者、他の劇場、音楽堂等、芸術団体及び国民一般に提供するとともに、計画的な資料収集を行うこと。なお、事業の実施に当たって	4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 (3)公演記録の作成・活用、普及活動の実施 ア 演技・演出等の記録の作成・保存、閲覧・視聴 イ 公演記録映像の鑑賞会等を開催による有効活用 ウ 講座、展示等の実施	4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 (3)伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施 ア 演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存し、閲覧・視聴のために提供 イ 公演記録映像を鑑賞会、講座・レクチャー等で活用	<主な定量的指標> ・ 講座等実施状況 ・ 講座等参加者数 ・ 講座等満足度 <その他の指標> 特になし <評価の視点> (27年度評価で指摘された取り組みべき課題) 特になし	<実績報告書等参照箇所> 平成28年度業務実績報告書P170~172 <主要な業務実績> 1. 公演記録の作成・活用 ・ 主催公演を中心に、録音・録画・写真等による記録を作成 ・ 主催公演の公演記録映像のデータベース化を実施 ・ 新国立劇場ホームページにて、開場以降ほぼ全ての公演に関して、公演記録写真及び公演情報等を公開 ・ 公演記録映像を利用して、ホームページの公演特設サイトなどで関連動画が視聴できるようにし、広く公演内容の理解を促進 ・ オペラ鑑賞教室関西公演に合わせて開催された外部展示に公演記録写真を提供	<評価と根拠> 評価：B ・ 公演記録の作成を計画どおり実施した。 ・ 公開講座のうち、マンスリー・プロジェクト(現代舞台芸術講座)においては、公演に関連した適切なテーマと内容を工夫したことにより、参加者数(2,931人)が年度計画目標(1,500人)を大きく上回った(達成度195.4%)。有意義回答の割合(96.9%)も目標(80%以上)を大きく上回った。 ・ 現代舞台芸術鑑賞会では、「こどものためのバレエ劇場」の公演期間中に、公演と連動して「夏のこどもシアター」を企画・実施し、多数の参加者を得た。 ・ 例年開催している講座に加え、新たに現代舞踊、オペ	<評価に至った理由> 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 <評価すべき実績> — <今後の課題・指摘事項> — <有識者からの意見> —	

<p>は、以下に掲げる事項に留意すること。</p> <p>(3) 公演の映像記録については、必要な著作権等の処理を行った上で、劇場上映や映像記録の販売等を行うなど有効に活用すること。</p> <p>(5) 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公開の講座、公演記録映像の鑑賞会等を実施し、参加者数については前中期目標期間の実績以上とすること。</p> <p>(6) 一般利用者等の意見・要望等を聴取するとともに、外部専門家等の意見を踏まえ、事業の充実に反映させること。</p>		<p>ウ 公開講座等、普及活動の実施</p> <p>① 公開講座等を別表9のとおり実施</p> <p>広報活動を十分に実施 アンケート調査の実施、 目標満足回答率80%以上</p> <p>② 公演関連講座、展示等を適宜実施、内容に応じてホームページ等で公開</p> <p>⑤ オンラインコンテンツの充実</p>		<p>2. 公開講座等、普及活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 舞台美術センター資料館において現代舞台芸術講座として舞台美術センターコンサートを実施(1日2回、参加者数336人) 舞台美術センター資料館においてDVD現代舞台芸術鑑賞会を実施(12回、参加者数98人) 新国立劇場において現代舞台芸術講座として「マンスリー・プロジェクト」を実施(14講座21回、参加者数2,931人) 特に、シェイクスピア没後400年企画「民間企業の支援により計4講座開催 情報センターにおいて現代舞台芸術鑑賞会として月例の「情報センター上映会」に加え、「夏のこども劇場」の一環として「夏のこどもシアター」を実施(5企画4日間32回、参加者数375人) 29年度上演の現代舞踊公演「ふしぎの国のアリス」の関連企画として、こどもワークショップを実施(1回、参加者数59人) オペラ「ルチア」の上演にあたり、レクチャー&ミニコンサート「グラスハーモニカって？」を開催(1回、参加者数207人) 公演内容に対する理解の促進を図るため、上演に合わせて説明会、オペラトーク及びシアタートークを実施(11件、参加者数3,646人) 団体観劇者・学校・劇場見学者を対象に、公演記録映像を利用した公演観劇前のレクチャーや、劇場施設紹介映像によるオンラインツアーを、情報センター内ビデオシアターで実施(18件484名) <p>3. 現代舞台芸術の普及のための公演関連映像の公開等</p> <ul style="list-style-type: none"> インターネットコンテンツ「新国立劇場の1日」を作成・公開 	<p>ラにおいても公演に関連した講座を開催し多くの参加者を得た。</p> <ul style="list-style-type: none"> オペラ鑑賞教室関西公演に合わせて開催された外部展示に公演記録写真を提供することで、新国立劇場の取組を周知し、現代舞台芸術の一層の普及を図った。 <p><課題と対応></p> <ul style="list-style-type: none"> インターネットや通信技術を利用し、展示方法の工夫や資料利用の利便性の向上を図りたい。 	
---	--	---	--	---	--	--

4. その他参考情報

特になし

様式1-1-4-2 中期目標管理法人 年度評価 項目別評価調書(業務運営の効率化に関する事項、財務内容の改善に関する事項及びその他業務運営に関する重要事項)

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
2-1-1	効率化に関する取組		
当該項目の重要度、難易度	特になし	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ									
評価対象となる指標	達成目標	前中期目標期間最終年度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	参考情報	
								金額	増減比率
一般管理費効率化状況(単位:百万円)	基準額	中期目標期間中に15%以上	1,256	1,050	1,050	1,050	1,050		(前中期目標期間最終年度値)19年度予算額(25年度以降)24年度予算額(特殊要因経費を除く)
	金額	—	873	893	954	993	992		当該年度決算額(前年度からの繰越執行及び特殊要因経費を除く)
	増減比率	—	△30%	△15%	△9%	△5%	△6%		(金額-基準額)/基準額
事業費効率化状況(単位:百万円)	基準額	毎事業年度につき1%以上	9,241	8,751	8,381	8,393	8,309		前年度予算額(特殊要因経費を除く)
	金額	—	9,307	8,204	8,281	8,357	8,154		当該年度決算額(前年度からの繰越執行及び特殊要因経費を除く)
	増減比率	—	1%	△6%	1%	△0%	10%		(金額-基準額)/基準額
	減比率	—	△8%	△6%	△1%	0%	△2%		(前中期目標期間最終年度値)19年度予算額に対する減比率(25年度以降)24年度予算額に対する減比率

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評価	B
<p>Ⅲ 業務運営の効率化に関する事項</p> <p>1 運営費交付金を充当して行う業務については、既存事業の徹底した見直し、事務手続きの簡素化や競争入札の推進、外部委託の範囲の拡大等により、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、一般管理費15%以上、業務経費毎事業年度につき1%以上の効率化を図ること。ただし、退職手当及び特殊要因経費はその対象としない。</p> <p>また、総人件費については、政府の方針を踏まえ、厳しく見直しをするものとする。</p> <p>なお、給与水準については、以下の観点から検証を行い、これを踏まえた適正化に取り組むとともに、その検証結果や取組状況について公表すること。</p> <p>ア 国からの財政支出の大きさ、累積欠損の存在、類似の業務を行っている民間事業者の給与水準等に照らし、現状の給与水準が適切かどうか十分説明が可能であること。</p> <p>イ その他、給与水準についての説明が十分に国民の理解を得られるものとなっていること。</p> <p>更に、これらに取り組むに当たっては、以下の事項について留意する</p>	<p>Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 サービスその他の業務の質の向上を考慮しつつ、次の取組を行い、事務及び事業を改善</p> <p>(1)一般管理費等の削減</p> <p>運営費交付金について平成24年度予算を基準として中期目標期間中に、事務的経費15%以上、事業費は毎事業年度1%以上効率化</p> <p>(2)効率化に関する取組</p> <p>ア 情報システムの整備</p> <p>イ 手続きの簡素化等</p> <p>ウ 外部委託の範囲拡大による経費削減</p> <p>エ 省エネルギー、廃棄物</p>	<p>Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 業務運営の効率化を進めるため、次の措置を実施</p> <p>(1) 効率化に関する取組</p> <p>ア 情報システムの活用</p> <p>①業務システムの安定稼働、</p> <p>②外部サービスの活用を推進、</p> <p>③情報セキュリティ対策に関して、各職員の自己点検及び専門家による研修等を実施</p> <p>イ 事務手続きの簡素化</p> <p>エ 省エネルギー、リサイクルの推進</p> <p>①二酸化炭素(CO2)の削減を推進、</p> <p>②光熱水量の節減、</p> <p>③廃棄物の減量化、</p> <p>④ペーパーレス化、</p> <p>⑤環境配慮物品等の</p>	<p><主な定量的指標></p> <ul style="list-style-type: none"> 一般管理費効率化状況 事業費効率化状況 <p><その他の指標></p> <p>特になし</p> <p><評価の視点></p> <p>(27年度評価で指摘された取り組みべき課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティ対策については、より一層セキュリティを強化するとともに、職員の意識を高めるよう努めることが望まれる。 	<p><実績報告書等参照箇所></p> <p>平成28年度業務実績報告書P175~183</p> <p><主要な業務実績></p> <p>1. 情報システムの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 業務システムの整備 ・ 財務会計等システムと文書管理システムの更新 ・ 監視カメラシステムの更新 ② 振興会ホームページの対応 ③ ネットワーク関連 ・ 基幹スイッチの更新 ・ 業務用クライアント機器の更新 ④ 情報セキュリティ対策の実施 ⑤ プログラム脆弱性対策の実施 <p>2. 事務手続きの簡素化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 軽易な収受文書の供関手続きの簡素化を検討 <p>3. 省エネルギー、リサイクルの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 光熱水量の削減について、観劇環境や業務に支 	<p><評価と根拠></p> <p>評価: B</p> <ul style="list-style-type: none"> 内部統制の充実・強化を図り、外部意見や評価結果等を事業に反映させた。評議員会、評価委員会、公演専門委員会、事業委員会(調査、養成)、芸術文化振興基金運営委員会を計画どおり適切に開催した。また監事監査、内部監査を引き続き実施した。 情報システムの活用につき、計画どおり必要な措置を講じた。 省エネルギー、リサイクルの推進に引き続き取り組んだ。 課長以下職員を対象とした研修会を開催したことで、内部統制に関する共通認識を持つことができた。 リスク管理委員会においてリスクの評価と対応に係る措置に取り組むための作業要領を策定す 	<p><評価に至った理由></p> <p>中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p><評価すべき実績></p> <p>—</p> <p><今後の課題・指摘事項></p> <p>—</p> <p><有識者からの意見></p> <p>—</p>	

<p>こと。</p> <p>(1) 固定経費の節減 国立劇場等の管理運営業務については、外部委託の範囲を拡大し、一層の経費削減を図ること。</p> <p>(2) 契約の適正化 契約については、原則として一般競争入札等によることとし、以下の取組により、契約の適正化を推進すること。</p> <p>また、その実施に当たっては、監事による監査を受けるとともに、財務諸表等に関する監査の中で会計監査人によるチェックを要請すること。</p> <p>ア 「調達等合理化計画」に基づく取組を着実に実施するとともに、その取組状況を公表すること。</p> <p>イ 一般競争入札等により契約を行う場合であっても、特に企画競争や公募を行う場合には、競争性、公正性及び透明性が十分確保される方法により実施すること。</p> <p>2 保有資産については、その必要性や規模の適切性等についての検証を適切に行うとともに、有効活用に努めること。</p> <p>特に、金融資産については、経済状況を踏まえつつ、適切な管理・運用に努めること。</p> <p>3 法令等を遵守し、有効かつ効率的に業務を遂行するため、業務の特殊性や実施体制に応じた効果的な統制機能の在り方を検討し、更なる内部統制の充実・強化に取り組むこと。</p> <p>4 振興会における業務運営について、外部有識者を含めて検討を行い、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させること。</p> <p>5 保有する情報については、法令等に基づき適切に情報の開示を行うとともに、政府の方針を踏まえた適切な情報セキュリティ対策を推進するなど、責任ある体制を構築するために必要な措置を講じること。</p>	<p>減量化、リサイクル、ペーパーレス化等の推進</p> <p>(5) 組織機構の在り方の検討</p> <p>組織機構の在り方について検討を行い、必要な措置を実施</p> <p>(6) 保有資産の有効利用</p> <p>劇場施設等の資産の層の有効利用に資する方策を検討・実施</p> <p>金融資産の適切な管理・運用</p> <p>(7) 内部統制の充実・強化</p> <p>ア 評価委員会において事業などの評価、評価結果の見直し、改善等に反映</p> <p>イ 理事長のマネジメントの強化や監査機能の充実にについて検討、検討結果の逐次活用</p> <p>ウ 情報開示の推進、適切な情報セキュリティ対策を推進</p>	<p>調達を行い省エネルギー、リサイクルを促進</p> <p>(3) 組織機構の在り方の検討</p> <p>(4) 保有資産の有効利用</p> <p>施設の適切な管理・運用、各劇場施設の使用効率の向上及び利用者の増加を図る取組、金融資産の適切な管理・運用</p> <p>(5) 内部統制の充実・強化</p> <p>ア 平成27年度の事業の実施結果について、自己点検評価及び外部専門家からの意見聴取を実施</p> <p>イ 上記の自己点検評価をもとに、評価委員会による業務の実績に関する評価を実施</p> <p>評価結果の公表、事業の見直し及び事務の改善等に反映</p> <p>ウ 理事長のリーダーシップの下に業務の適正を確保するための体制(内部統制システム)を整備、監事及び監事監査に係る機能を充実・強化</p> <p>エ 情報開示を推進、分かりやすく説明する意識を徹底</p>		<p>障のない範囲で節電対策を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物について、引き続き減量化を図るとともに種別分別を徹底 ・ ペーパーレス化促進のため、両面コピー、グループウェアの活用等を実施 <p>4. 組織機構の在り方の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基金部芸術活動助成課に調整係を設置 <p>5. 保有資産の有効利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「独立行政法人の職員宿舍の見直し計画」等に沿って、実物資産を適切に管理運営 ・ 各種金融資産について、適切に管理・運用を実施 <p>6. 内部統制の充実・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 内部統制の充実・強化を図り、評議員会、公演専門委員会ほか外部専門家等の意見を事業に反映 ・ 国立劇場等大規模改修懇談会を開催 ・ 国立劇場等大規模改修事業者選定委員会を開催 ・ リスク管理委員会を開催 ・ 内部統制に関する研修会を開催 <p>7. 効率化に関する目標の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一般管理費は前年度からの繰越執行及び特殊要因により、基準額である24年度運営費交付金予算額に対し5%増となったが、それらを除くと6%の効率化を達成 ・ 事業費は前年度からの繰越執行及び特殊要因により、前年度予算額に対し10%増となったが、それらを除くと2%の効率化を達成 	<p>ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一般管理費、事業費の効率化を達成した。 <p><課題と対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 監査の実効性を高めるため、引き続き、指摘事項等に対するフォローアップを行う。 ・ 廃棄物減量化に取り組む姿勢を堅持する。引き続き適正な分別及び総量の圧縮に努める。 	
---	--	---	--	---	---	--

4. その他参考情報

特になし

様式1-1-4-2 中期目標管理法 年度評価 項目別評価調書(業務運営の効率化に関する事項、財務内容の改善に関する事項及びその他業務運営に関する重要事項)

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
2-1-2	給与水準の適正化等		
当該項目の重要度、難易度	特になし	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ								
評価対象となる指標	達成目標	前中期目標期間最終年度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	(参考情報)

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評価	B
<p>1 運営費交付金を充当して行う業務については、既存事業の徹底した見直し、事務手続きの簡素化や競争入札の推進、外部委託の範囲の拡大等により、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、一般管理費15%以上、業務経費毎事業年度につき1%以上の効率化を図ること。ただし、退職手当及び特殊要因経費はその対象としない。</p> <p>また、総人件費については、政府の方針を踏まえ、厳しく見直しをするものとする。</p> <p>なお、給与水準については、以下の観点から検証を行い、これを踏まえた適正化に取り組むとともに、その検証結果や取組状況について公表すること。</p> <p>ア 国からの財政支出の大きさ、累積欠損の存在、類似の業務を行っている民間事業者の給与水準等に照らし、現状の給与水準が適切かどうか十分説明が可能であること。</p> <p>イ その他、給与水準についての説明が十分に国民の理解を得られるものとなっていること。</p>	<p>II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 サービスその他の業務の質の向上を考慮しつつ、次の取組を行い、事務及び事業を改善</p> <p>(3) 給与水準の適正化等</p> <p>役職員の給与について、国家公務員の給与見直しの動向を見つつ、必要な措置を実施、適正化に関する検証結果や取組状況について公表</p>	<p>II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 業務運営の効率化を進めるため、次の措置を実施</p> <p>(2) 給与水準の適正化</p> <p>役職員の給与について、国家公務員の給与制度に関する総合的見直し等の動向を見つつ、必要な措置を実施</p> <p>適正化に関する検証結果や取組状況について公表</p>	<p><主な定量的指標></p> <p>特になし</p> <p><その他の指標></p> <ul style="list-style-type: none"> 給与水準の適正化がなされているか <p><評価の視点></p> <p>(27年度評価で指摘された取組むべき課題)</p> <p>特になし</p>	<p><実績報告書等参照箇所></p> <p>平成28年度業務実績報告書P184</p> <p><主要な業務実績></p> <ul style="list-style-type: none"> 国家公務員の給与改定に倣い、給与の改定を実施 俸給表の改定にあたっては、世代間の給与配分の観点から若年層に重点を置きながら水準を引き上げ 前年度の給与水準に関する検証結果や取組状況について公表 前年度の給与水準に対する文部科学大臣の検証結果は適正 	<p><評価と根拠></p> <p>評価：B</p> <ul style="list-style-type: none"> 役職員給与について、国家公務員給与の改定に倣い、給与の改定を実施した。 前年度の給与水準について、検証結果や取組状況を公表した。 	<p><評価に至った理由></p> <p>中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p><評価すべき実績></p> <p>—</p> <p><今後の課題・指摘事項></p> <p>—</p> <p><有識者からの意見></p> <p>—</p>	

4. その他参考情報
特になし

様式1-1-4-2 中期目標管理法人 年度評価 項目別評価調書(業務運営の効率化に関する事項、財務内容の改善に関する事項及びその他業務運営に関する重要事項)

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
2-1-3	契約の適正化		
当該項目の重要度、難易度	特になし	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ								
評価対象となる指標	達成目標	前中期目標期間最終年度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	(参考情報)

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	B
<p>Ⅲ 業務運営の効率化に関する事項</p> <p>1 以下の事項について留意</p> <p>(2)契約の適正化</p> <p>原則として一般競争入札等によることとし、以下の取組により、契約の適正化を推進</p> <p>監事による監査及び会計監査人によるチェックを要請</p> <p>ア 「随意契約見直し計画」に基づく取組を実施、取組状況を公表</p> <p>イ 一般競争入札等による契約でも、競争性、透明性を十分確保</p>	<p>Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 サービスその他の業務の質の向上を考慮しつつ、次の取組を行い、事務及び事業を改善</p> <p>(4)契約の適正化</p> <p>原則として一般競争入札等によることとし、次の取組により、契約の適正化を推進</p> <p>監事による監査を受けるとともに、財務諸表等に関する監査の中で会計監査人によるチェックを要請</p> <p>ア 「調達等合理化計画」に基づく取組を着実に実施、取組状況を公表</p> <p>イ 一般競争入札等により契約を行う場合であっても、競争性、公正性及び透明性が十分確保される方法により実施</p>	<p>Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 業務運営の効率化を進めるため、次の措置を実施</p> <p>(1) 効率化に関する取組</p> <p>ウ 契約の適正化</p> <p>① 「調達等合理化計画」に基づく契約の適正化、取組状況の公表</p> <p>② 契約監視委員会による契約の点検、その結果を踏まえた見直しの実施</p> <p>③ 電子入札を一部の案件で実施</p>	<p><主な定量的指標></p> <p>特になし</p> <p><その他の指標></p> <p>特になし</p> <p><評価の視点></p> <p>(27年度評価で指摘された取組むべき課題)</p> <p>特になし</p>	<p><実績報告書等参照箇所></p> <p>平成28年度業務実績報告書P185～186</p> <p><主要な業務実績></p> <ul style="list-style-type: none"> 「調達等合理化計画」に基づく一般競争入札の取組状況に関し、「日本芸術文化振興会契約監視委員会」において、定期的な契約の点検を実施し、報告書を理事長に提出 入札参加の機会の拡大を図るため、ホームページ上の「調達情報」に仕様書のほか、セキュリティ面において公開することに問題があると判断されるものを除き、その他すべての資料を掲載 工事及び設計・コンサルティング業務について、文部科学省文教施設企画部施設企画課契約情報室ホームページへ入札情報を掲載するとともに、電子入札を実施 一者応札・応募事案の事後点検体制として要因分析を実施 	<p><評定と根拠></p> <p>評定：B</p> <ul style="list-style-type: none"> 確実な取組と不断の見直しを行い契約の適正化を推進した。 契約の適正化に係る制度に基づき、調達等合理化計画を策定し、公表した。また、契約監視委員会を開催して契約の点検を行った。 <p><課題と対応></p> <ul style="list-style-type: none"> 業務効率の向上、事務作業の軽減、経費の削減効果を得られることが見込まれる契約については、複数案件の包括契約や複数年での契約締結について引き続き検討していく。 入札辞退の理由について確認する体制に関し、仕様書・入札説明書等情報入手後又は入札参加申請書提出後に参加を辞退する場合、辞退届の提出を求める等、できる限り理由を調査することを継続して行い、更に広く参加者を募るための参考とする。 	<p><評定に至った理由></p> <p>中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p><評価すべき実績></p> <p>—</p> <p><今後の課題・指摘事項></p> <p>—</p> <p><有識者からの意見></p> <p>—</p>	

4. その他参考情報
特になし

様式1-1-4-2 中期目標管理法人 年度評価 項目別評価調書(業務運営の効率化に関する事項、財務内容の改善に関する事項及びその他業務運営に関する重要事項)

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
3-1	予算、収支計画及び資金計画		
当該項目の重要度、難易度	特になし	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ								
評価対象となる指標	達成目標	前中期目標期間最終年度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	(参考情報)

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評価	B
<p>IV 財務内容の改善に関する事項</p> <p>自己収入の確保や税制措置も活用した寄附金の確保、予算の効率的な執行等に努め、次の観点から適切な財務内容の実現を図ること。</p> <p>国民の鑑賞機会の確保、芸術活動の独自性等に十分留意しつつ、入場料、施設使用料、外部資金等自己収入の増加を図ること。</p> <p>また、自己収入の取扱いにおいては、各事業年度に計画的な収支計画を作成し、当該収支計画による運営に努めること。</p> <p>毎年の運営費交付金額の算定に向けては、運営費交付金債務残高の発生状況にも留意する。</p>	<p>III 予算(人件費の見積もりを含む)、収支計画および資金計画</p> <p>計画的な収支計画により運営</p> <p>各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算により運営</p> <p>1 予算 別紙1</p> <p>2 収支計画 別紙2</p> <p>3 資金計画 別紙3</p> <p>IV 短期借入金の限度額:10億円</p> <p>短期借入金想定される理由は、運営費交付金の受入の遅延が生じた場合</p> <p>V 不要財産又は不要財産となることが見込まれる財産の処分:計画なし</p> <p>VI 重要な財産の処分等:計画なし</p> <p>VII 剰余金の使途</p> <p>決算において剰余金が発生したときは、次の経費等に充当</p> <p>助成事業、公演事業、伝統芸能伝承者養成事業・現代舞台芸術実演家等研修事業、調査研究・資料の収集活用・公演記録の作成活用等事業、研修器具・芸能資料等の購入・修理、観劇者サービス・情報提供の質的向上・老朽化対応等のための施設・設備</p>	<p>III 予算</p> <p>1 予算 別紙1</p> <p>2 収支計画 別紙2</p> <p>3 資金計画 別紙3</p>	<p><主な定量的指標></p> <p>特になし</p> <p><その他の指標></p> <p>特になし</p> <p><評価の視点></p> <p>(27年度評価で指摘された取り組むべき課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 公演事業収入は、劇場入場料の減があったが、効率的な業務運営により、収支増となっている。今後は公演の質を維持しつつ、一層の外部資金獲得などの増収に努めることが望まれる。 	<p><実績報告書等参照箇所></p> <p>平成28年度業務実績報告書 P187～190</p> <p><主要な業務実績></p> <p>上記報告書を参照</p>	<p><評価と根拠></p> <p>評価: B</p> <ul style="list-style-type: none"> 管理業務の効率化の実現のため、効率的な業務運営を見込んだ予算の策定及び執行管理を行った。 運営費交付金を適切かつ効率的に使用するため、第3四半期に交付金財源の予算について見直しを行った。 <p><課題と対応></p> <ul style="list-style-type: none"> 入場料収入の安定や施設使用料収入のより一層の増収を図るとともに、引き続き外部資金の獲得に努める。 	<p><評価に至った理由></p> <p>中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p><評価すべき実績></p> <p>—</p> <p><今後の課題・指摘事項></p> <p>—</p> <p><有識者からの意見></p> <p>—</p>	

4. その他参考情報
特になし

様式 1-1-4-2 中期目標管理法 年度評価 項目別評価調書(業務運営の効率化に関する事項、財務内容の改善に関する事項及びその他業務運営に関する重要事項)

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
4-1	人事に関する計画		
当該項目の重要度、難易度	特になし	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ								
評価対象となる指標	達成目標	前中期目標期間最終年度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	(参考情報)

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評価	B
V その他業務運営に関する重要事項 1 人事管理(人件費、意識改革、専門性の確保等)、人事交流の適切な実施により、内部管理事務の改善を図ること。	VIII その他主務省令で定める業務運営に関する事項 1 人事に関する計画 (1)方針 ア 職員の計画的、適正な配置、効果的な人事交流を実施 イ 次の取組により、事務能力の維持、増進 ① 職員に対する実務研修等の充実 ② 適切な労務管理の実施 (2)人員に係る指標 常勤職員について人件費を抑制 (参考) 中期目標の期間中の人件費見込み 10,006百万円 (役員報酬並びに職員基本給、職員諸手当及び超過勤務手当に相当する範囲の費用)	V その他主務省令で定める業務運営に関する事項 1 人事に関する計画 (1)職員の計画的、適正な配置、外部機関との人事交流、多様な人材を確保・育成 (2)各種研修による各職員の能力開発、専門性の確保及び意識改革、適切な労務管理を実施 ア 接遇、公演業務等の内部研修の実施 イ 会計、人事関係業務等の外部研修の活用 ウ 職員の心身の健康の保持増進	<主な定量的指標> 特になし <その他の指標> 特になし <評価の視点> (27年度評価で指摘された取り組むべき課題) ・ 公私立劇場との人事交流等、多様な形態による人事交流の在り方について、引き続き検討を図ることが望まれる。	<実績報告書等参照箇所> 平成 28 年度業務実績報告書 P192~193 <主要な業務実績> ・ 国の機関、国立大学法人、公益財団法人千葉県文化振興財団、国立劇場おきなわ運営財団及び新国立劇場運営財団との人事交流を実施 ・ 内部研修や外部研修を積極的に導入 ・ 産業医、外部機関と連携し、職員のメンタル不全対策を実施 ・ 新卒採用職員を振興会にサポートすることを目的として、メンター制度を実施	<評価と根拠> 評価：B ・ 新規採用の一般事務職員、中途採用の任期付職員及び58歳以上を対象とした一般事務職員を採用するとともに、国の機関、国立大学法人等との人事交流を実施することにより、多様な人材の確保、育成を実施した。 ・ 内部研修や外部研修の積極的な導入を行い、各職員の能力開発を実施した。 ・ 若手の一般事務職員については、公演研修及び営業研修により専門性の確保及び意識の向上を図った。若手の舞台技術職員については、業務を通じての教育、技術の継承に加え、外部の研修会に参加させることで、専門性の確保を図った。 ・ 心の健康に関する相談窓口の設置、メンタルヘルスを専門とする産業医による面談、ストレスチェックの実施及びその結果を受けての専門のカウンセラーによる個別面談、メンター制度の実施により、適切な労務管理を実施した。 <課題と対応> ・ 28年度に実施したストレスチェックの結果を、次年度以降の労務管理に活用するとともに、研修内容や産業医との面談、専門のカウンセラーとの面談について検討を行い、より効果的なメンタル不全対策の実施を図る。	<評価に至った理由> 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 <評価すべき実績> — <今後の課題・指摘事項> — <有識者からの意見> —	

4. その他参考情報
特になし

様式1-1-4-2 中期目標管理法 年度評価 項目別評価調書(業務運営の効率化に関する事項、財務内容の改善に関する事項及びその他業務運営に関する重要事項)

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
4-2	施設及び設備に関する計画		
当該項目の重要度、難易度	特になし	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	前中期目標期間最終年度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	(参考情報)

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評価	B
V その他業務運営に関する重要事項 2 施設設備に関する計画 (1) 劇場等の安全かつ快適な施設環境を維持するとともに、業務の目的・内容に適切に対応するため、長期的視野に立った施設・設備の整備計画を作成すること。 (2) 国立劇場本館は開場から50年を経過することから、老朽化に対応した改修等を計画的に行うこと。	VIII その他主務省令で定める業務運営に関する事項 2 施設及び設備に関する計画 各劇場等施設の長期的視野に立った整備計画を策定、施設・設備に関する計画に沿った整備を推進 国立劇場本館が開場以来50年を経過することに鑑み、事業の安定的、継続的実施のため、整備の実施計画を策定し、改修工事に着手	V その他主務省令で定める業務運営に関する事項 2 施設・設備に関する計画 (1) 長期的な視野に立った整備計画を策定、別紙4のとおり施設・設備に関する計画に沿った整備を推進、「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画(行動計画)」を策定、舞台設備等の機能維持に必要なメンテナンスを実施 国立劇場本館・演芸場等単町地区の施設・設備の改修について、具体的な調査研究を実施 PFI事業の実施に向けた手続きを実施 (2) 整備内容の検討及び実施	<主な定量的指標> 特になし <その他の指標> 特になし <評価の視点> (27年度評価で指摘された取り組みべき課題) 特になし	<実績報告書等参照箇所> 平成28年度業務実績報告書P194~195 <主要な業務実績> ・ 国立劇場大劇場及び小劇場のロビー床の改修工事を実施 ・ 国立劇場大劇場及び小劇場のロビー便所ブースの改修工事を実施 ・ 国立劇場等大規模改修の基本計画の見直しを行うとともにPFI事業の実施に向けた手続きに着手 ・ 国立劇場等大規模改修事業について、実施計画策定に向けた具体的な調査研究を実施 ・ 振興会単町地区の館内・屋外の環境整備を実施	<評価と根拠> 評価：B ・ 本館大劇場及び小劇場のロビー床の改修やロビー便所ブースの改修工事を実施し、観客から評価されている。 ・ 当初の国立劇場等大規模改修基本計画で明確となった課題について具体的な検討を進めてきたが、事業費を削減するために一部見直しを行うとともにPFI事業方式での実施に向け実施方針(案)及び要求水準書(案)などを作成した。 ・ 施設・設備の長寿命化に向け「文部科学省インフラ長寿命化計画(行動計画)」を踏まえた「日本芸術文化振興会インフラ長寿命化計画(行動計画)」を策定した。 ・ 施設等の整備に当たって必要な「日本芸術文化振興会PPP/PFI手法導入優先的検討規程」を制定した。 <課題と対応> ・ 単町地区の施設・設備の更新・改修工事に当たっては、公演日程との調整及び更新機器の搬入等計画について早期検討が必要である。 ・ 国立劇場等大規模改修のPFI事業については、PFI法に基づく公表などの手続きを適切に行う必要がある。	<評価に至った理由> 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 <評価すべき実績> — <今後の課題・指摘事項> — <有識者からの意見> —	

4. その他参考情報
特になし

様式1-1-4-2 中期目標管理法人 年度評価 項目別評価調書(業務運営の効率化に関する事項、財務内容の改善に関する事項及びその他業務運営に関する重要事項)

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
4-3	積立金の使途		
当該項目の重要度、難易度	特になし	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ									
	評価対象となる指標	達成目標	前中期目標期間最終年度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	(参考情報)

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評価	B
	<p>VIII その他主務省令で定める業務運営に関する事項</p> <p>3 積立金の使途</p> <p>前中期目標の期間の最終年度において、独立行政法人通則法第44条の処理を行ってなお積立金があるときは、文部科学大臣の承認を受け、次の必要な費用に充当</p> <p>(1) やむを得ない事由により前中期目標期間中に完了しなかった業務</p> <p>(2) 芸術文化振興基金の運用収入を充てるべき業務</p> <p>(3) 次期へ繰り越した経過勘定損益影響額等に係る会計処理</p> <p>(4) 自己財源により取得した固定資産の未償却残高相当額に係る会計処理</p>		<p><主な定量的指標></p> <p>特になし</p> <p><その他の指標></p> <p>特になし</p> <p><評価の視点></p> <p>(27年度評価で指摘された取り組むべき課題)</p> <p>特になし</p>	<p><実績報告書等参照箇所></p> <p>平成28年度業務実績報告書P196</p> <p><主要な業務実績></p> <p>上記報告書を参照</p>	<p><評価と根拠></p> <p>評価：B</p> <ul style="list-style-type: none"> 中期計画に定められた剰余金の使途に則って積立金を使用した。 	<p><評価に至った理由></p> <p>中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p><評価すべき実績></p> <p>—</p> <p><今後の課題・指摘事項></p> <p>—</p> <p><有識者からの意見></p> <p>—</p>	

4. その他参考情報
特になし

様式1-1-4-2 中期目標管理法 年度評価 項目別評価調書(業務運営の効率化に関する事項、財務内容の改善に関する事項及びその他業務運営に関する重要事項)

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
4-4	その他振興会の業務運営に関し必要な事項		
当該項目の重要度、難易度	特になし	関連する政策評価・行政事業レビュー	行政事業レビューシート 0353 0354

2. 主要な経年データ								
評価対象となる指標	達成目標	前中期目標期間最終年度値	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	(参考情報)

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評価	B
V その他業務運営に関する重要事項 3 その他振興会の業務の運営に関し必要な事項 (1) 特定の公益法人に対し随意契約により継続して委託している新国立劇場及び国立劇場おきなわの管理運営業務については、収支構造の改善のため、経費の見直しや自己収入の確保等を計画的に実施 (2) 「公共サービス改革基本方針」(平成24年7月20日閣議決定)に基づき、劇場等の管理・運営等業務について、民間競争入札の実施の可否等を検討	VIII その他主務省令で定める業務運営に関する事項 4 その他振興会の業務の運営に関し必要な事項 (1) 国立劇場おきなわの管理運営については、沖縄芸能・文化の独自性とその伝統を活かし、地方自治体等地元との協力を得るため、公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団に委託 新国立劇場の管理運営についても、芸術家、芸術団体等の創意、工夫を取り入れるとともに民間等の協力を得るため、公益財団法人新国立劇場運営財団に委託 委託に当たっては、経費の見直しや自己収入の確保等の方策により収支構造の改善等に計画的に取り組むとともに、契約内容の検証を行い、更に効率化 (2) 「公共サービス改革基本方針」(平成24年7月20日閣議決定)に基づき、劇場等の管理・運営等業務について、民間競争入札の実施の可否等を引き続き検討	V その他主務省令で定める業務運営に関する事項 3 その他振興会の業務の運営に関し必要な事項 公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団及び公益財団法人新国立劇場運営財団への運営委託 収支構造の改善等への取組、契約内容の検証	<主な定量的指標> 特になし <その他の指標> 特になし <評価の視点> (27年度評価で指摘された取り組むべき課題) ・ 運営委託契約について、引き続き効率的な運営に努めることが望まれる。	<実績報告書等参照箇所> 平成28年度業務実績報告書P197~200 <主要な業務実績> ・ 国立劇場おきなわ及び新国立劇場の運営委託を適切に実施	<評価と根拠> 評価：B ・ 国立劇場おきなわ及び新国立劇場の運営委託について、継続的に効率化を図りつつ、適切に運営した。 ・ 両財団の運営状況の検証、振興会との連絡体制の強化に引き続き努めた。 <課題と対応> ・ 一般競争入札等による効率的な外部委託を推進しているが、業務内容の変化への対応など、業務の質を担保した入札とするのは困難な場合もある。これに対応するため、引き続き、企画提案型の導入など、調達方法の多様化を進めていきたい。 ・ 省エネルギー、リサイクルの推進については、引き続き職員への啓発活動や協力要請を重ねて行う。 ・ 情報セキュリティポリシーの策定及び実施により、情報基盤及び情報の活用におけるセキュリティ確保をより強化していきたい。	<評価に至った理由> 中期計画及び年度計画に定められた通り、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。 <評価すべき実績> — <今後の課題・指摘事項> — <有識者からの意見> —	

4. その他参考情報
特になし

独立行政法人日本芸術文化振興会 平成 28 年度計画

[別表 1] 伝統芸能の公開に関する計画

下記公演のうち、本館大小劇場の9月から3月の公演については、「国立劇場開場 50 周年記念公演」として実施する。

1 歌舞伎(目標入場者数：248,500 人)／27 年度計画目標 226,500 人

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
10 月歌舞伎公演	本館大劇場	10 月 3 日～27 日	25 回	25 日	26,400 人
11 月歌舞伎公演	〃	11 月 2 日～26 日	24 回	24 日	25,400 人
12 月歌舞伎公演	〃	12 月 2 日～26 日	25 回	25 日	26,400 人
1 月歌舞伎公演	〃	1 月 3 日～27 日	25 回	25 日	28,000 人
3 月歌舞伎公演	〃	3 月 4 日～27 日	24 回	24 日	26,400 人
本公演(5 公演)小計			123 回	123 日	132,600 人
6 月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、「新皿屋舗月雨暈」	本館大劇場	6 月 2 日～24 日	46 回	23 日	55,000 人
7 月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、「卅三間堂棟由來」	〃	7 月 3 日～24 日	44 回	22 日	60,900 人
鑑賞教室(2 公演)小計			90 回	45 日	115,900 人
歌舞伎(7 公演)合計			213 回	168 日	248,500 人

2 文楽(目標入場者数：177,600 人)／27 年度計画目標 175,900 人

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
5 月文楽公演「絵本太功記」	本館小劇場	5 月 11 日～23 日	13 回	13 日	6,700 人
9 月文楽公演	〃	9 月 3 日～19 日	34 回	17 日	17,300 人
12 月文楽公演	〃	12 月 3 日～19 日	34 回	17 日	17,500 人
2 月文楽公演	〃	2 月 4 日～20 日	51 回	17 日	22,900 人
5 月文楽鑑賞教室 解説「文楽の魅力」、「曾根崎心中」	〃	5 月 11 日～23 日	24 回	13 日	13,000 人
本館(5 公演)小計			156 回	77 日	77,400 人
4 月文楽公演「通し狂言 妹背山婦女庭訓」	文楽劇場	4 月 2 日～24 日	44 回	22 日	19,100 人
夏休み文楽特別公演	〃	7 月 23 日～8 月 9 日	54 回	18 日	21,500 人
錦秋文楽公演	〃	10 月 29 日～11 月 20 日	44 回	22 日	19,300 人
初春文楽公演	〃	1 月 3 日～26 日	46 回	23 日	21,800 人
6 月文楽鑑賞教室「二人三番叟」、解説「文楽へようこそ」、「夏祭浪花鑑」	〃	6 月 3 日～16 日	28 回	14 日	18,500 人
文楽劇場(5 公演)小計			216 回	99 日	100,200 人
文楽(10 公演)合計			372 回	176 日	177,600 人

3 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等(目標入場者数：26,590 人)／27 年度計画目標 17,600 人

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
9 月舞踊公演「道成寺と日本舞踊(仮)」	本館大劇場	9 月 10 日	2 回	1 日	2,500 人
11 月舞踊公演「舞の会－京阪の座敷舞－」	本館小劇場	11 月 26 日～27 日	3 回	2 日	1,520 人
3 月舞踊公演「舞踊名作鑑賞会」	〃	3 月 25 日～26 日	3 回	2 日	1,250 人
7 月邦楽公演	〃	7 月 9 日	2 回	1 日	770 人
10 月邦楽公演「邦楽鑑賞会(一)」	〃	10 月 8 日～10 日	3 回	3 日	1,220 人

1 月邦楽公演「邦楽鑑賞会(二)」	〃	1 月 14 日～15 日	2 回	2 日	1,000 人
5 月雅楽公演「管絃－盤渉調と太食調－」	〃	5 月 28 日	1 回	1 日	550 人
11 月雅楽公演「創造する雅楽(仮)」	〃	11 月 12 日	1 回	1 日	380 人
2 月雅楽公演「舞楽」	本館大劇場	2 月 25 日	1 回	1 日	1,440 人
10 月声明公演	〃	10 月 29 日	2 回	1 日	2,590 人
1 月民俗芸能公演	本館小劇場	1 月 21 日～22 日	3 回	2 日	1,600 人
3 月琉球芸能公演「組踊『執心鐘入』と琉球舞踊(仮)」	〃	3 月 4 日～5 日	2 回	2 日	960 人
4 月舞踊・邦楽公演「明日をにう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」、特別公演「春の舞踊・邦楽鑑賞会」	〃	4 月 16 日	2 回	1 日	750 人
6 月 第 5 回伝統芸能の魅力「雅楽を楽しむ」/「日本舞踊を楽しむ」	〃	6 月 4 日	2 回	1 日	840 人
6 月 第 6 回伝統芸能の魅力「声明を楽しむ」/「邦楽を楽しむ」	〃	6 月 11 日	2 回	1 日	900 人
7 月特別企画公演「春日若宮おん祭」	本館大劇場	7 月 30 日	2 回	1 日	2,580 人
9 月特別企画公演「日本の太鼓」	〃	9 月 24 日～25 日	2 回	2 日	2,390 人
本館(17 公演)小計			35 回	25 日	23,240 人
10 月舞踊公演	文楽劇場	10 月 15 日	2 回	1 日	850 人
8 月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」	〃	8 月 20 日	1 回	1 日	450 人
9 月声明公演	〃	9 月 10 日	1 回	1 日	650 人
5 月民俗芸能公演「東北の神楽」	〃	5 月 28 日	2 回	1 日	1,000 人
5 月舞踊・邦楽公演「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会」	〃	5 月 14 日	1 回	1 日	400 人
文楽劇場(5 公演)小計			7 回	5 日	3,350 人
舞踊・邦楽等(22 公演)合計			42 回	30 日	26,590 人

4 大衆芸能(目標入場者数：51,460 人)／27 年度計画目標 52,000 人

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
定席公演(上席・中席)(22 公演)	演芸場	毎月実施 (5 月・1 月は中席のみ)	241 回	219 日	34,900 人
若手新人公演(花形演芸会)(12 公演)	〃	毎月実施	12 回	12 日	3,240 人
新春名人会	〃	1 月 2 日～7 日	8 回	6 日	2,300 人
国立名人会(11 公演)	〃	毎月実施 (1 月を除く)	11 回	11 日	2,970 人
特別企画公演(10 公演)	〃	毎月実施 (5 月・1 月を除く)	14 回	14 日	3,790 人
演芸場(56 公演)小計			286 回	262 日	47,200 人
浪曲名人会	文楽劇場	2 月 25 日	1 回	1 日	670 人
浪曲錬声会	文楽劇場 小ホール	5 月 21 日	2 回	1 日	290 人
上方演芸特選会(6 公演)	〃	奇数月に実施	24 回	24 日	3,300 人
文楽劇場(8 公演)小計			27 回	26 日	4,260 人
大衆芸能(64 公演)合計			313 回	288 日	51,460 人

5 能楽(目標入場者数：35,895人)／27年度計画目標 36,140人

区分	公演名	期間	回数	日数	目標入場者数
定例公演	狂言「盆山」、能「鞍馬天狗 白頭」	4月5日	1回	1日	580人
	狂言「悪坊」、能「朝長 三世十方之出」	4月15日	1回	1日	580人
	狂言「塗師平六」、能「小袖曾我」	5月11日	1回	1日	580人
	狂言「昆布売」、能「呉服」	5月20日	1回	1日	580人
	狂言「腰折」、能「羽衣 盤渉」	6月1日	1回	1日	580人
	狂言「太刀奪」、能「景清」	6月17日	1回	1日	580人
	月間特集・能のふるさと 近江 能「白鬚」・間狂言「道者」	7月6日	1回	1日	580人
	月間特集・能のふるさと 近江 狂言「磁石」・能「自然居士」	7月22日	1回	1日	580人
	狂言「口真似聾」、能「敦盛」	9月7日	1回	1日	580人
	狂言「萩大名」、能「黒塚 雷鳴ノ出」	9月16日	1回	1日	580人
	狂言「合柿」、能「野宮」	10月5日	1回	1日	580人
	演出の様々な形 狂言「木六駄」、能「葛城 大和舞」	10月21日	1回	1日	580人
	演出の様々な形 狂言「木六駄」、能「葛城 神楽」	11月18日	1回	1日	580人
	狂言「飛越」、能「蟬丸」	11月30日	1回	1日	580人
	月間特集・観世信光 没後500年 狂言「箕被」、能「遊行柳」	12月7日	1回	1日	580人
	月間特集・観世信光 没後500年 狂言「胸突」、能「船弁慶 後之出留之伝」	12月16日	1回	1日	580人
	能「老松 紅梅天女イロエノ働き」、狂言「大黒連歌」	1月4日	1回	1日	580人
	狂言「鞍馬参」、能「国栖」	1月20日	1回	1日	580人
	月間特集・近代絵画と能 狂言「鐘の音」、能「錦木」	2月15日	1回	1日	580人
	月間特集・近代絵画と能 狂言「酢薑」、能「三井寺」	2月24日	1回	1日	580人
狂言「八句連歌」、能「邯鄲 藁屋」	3月1日	1回	1日	580人	
狂言「花盗人」、能「海人 懐中之舞」	3月17日	1回	1日	580人	
普及公演	解説、狂言「横座」、能「百万」	4月9日	1回	1日	610人
	解説、狂言「樋の酒」、能「鉄輪」	5月14日	1回	1日	610人
	解説、狂言「水掛聾」、能「藤戸」	6月11日	1回	1日	610人
	月間特集・能のふるさと 近江 狂言「蚊相撲」、能「巴」	7月9日	1回	1日	610人
	解説、狂言「伊文字」、能「玉鬘」	9月10日	1回	1日	610人
	解説、狂言「菊の花」、能「熊坂」	10月8日	1回	1日	610人
	解説、狂言「二人袴」、能「三笑」	11月12日	1回	1日	610人
	月間特集・観世信光 没後500年 狂言「縄綱」、能「胡蝶」	12月10日	1回	1日	610人
	解説、狂言「寝音曲」、能「巻絹」	1月14日	1回	1日	610人
	月間特集・近代絵画と能 解説、狂言「呂蓮」、能「葵上 梓之出・無明之祈」	2月11日	1回	1日	610人
	解説、狂言「濯ぎ川」、能「昭君」	3月11日	1回	1日	610人
	企画公演	【狂言の会】家・世代を越えて 狂言「二人大名」、狂言「鱧包丁」、狂言「武悪」	4月22日	1回	1日
【企画公演】寺社と能 春日大社 「翁 十二月往来・父尉延命冠者」、狂言「末広が り」、能「春日龍神 龍神崩」		4月29日	1回	1日	590人
【企画公演】復曲再演の会		5月26日	1回	1日	590人

鑑賞教室	復曲狂言「連尺」、復曲能「菅丞相」					
	【企画公演】月間特集・能のふるさと 近江 能と箏曲 箏曲「竹生島」、能「竹生島 女体・道者」・間狂言「道者」	7月28日	1回	1日	590人	
	【企画公演】月間特集・能のふるさと 近江 能と箏曲 箏曲「石山源氏 上・下」、能「源氏供養 真之舞入」	7月30日	1回	1日	590人	
	【企画公演】働く貴方に贈る 対談、狂言「仏師」、能「通小町」	8月4日	1回	1日	590人	
	【企画公演】夏休み親子で楽しむ能の会 おはなし、能「殺生石」	8月6日	1回	1日	590人	
	【企画公演】素の魅力 仕舞「頼政」、狂言謡「御茶の水」、狂言謡「文蔵」、 袴能「天鼓」	8月25日	1回	1日	590人	
	【企画公演】夏休み親子で楽しむ狂言の会 おはなし、素囃子、狂言「雷」、新作狂言「太郎くんの冒険」	8月27日	1回	1日	590人	
	【企画公演】女性能楽師による 仕舞「笠之段」、仕舞「玉之段」、仕舞「歌占クセ」、能「草紙洗」	9月22日	1回	1日	590人	
	【企画公演】古典の日記念 安宅関の山伏問答 講談「勸進帳」、能「安宅 延年流流・問答之習」	10月29日	1回	1日	590人	
	【企画公演】古典の日記念 雪舞う里に 組踊「雪払い」、能「鉢木」	11月1日	1回	1日	590人	
	【特別公演】月間特集・観世信光 没後500年 舞囃子「紅葉狩」、狂言「業平餅」、能「張良」	12月23日	1回	1日	590人	
	【狂言の会】 狂言「佐渡狐」、狂言「鶏猫」、素囃子、狂言「政頼」	1月27日	1回	1日	590人	
	【特別公演】 能「錦戸」、狂言「餅」、復曲能「綾鼓」	1月29日	1回	1日	590人	
	【企画公演】月間特集・近代絵画と能 蠟燭の灯りによる 謡講、能「八島 弓流・奈須身市謡」	2月18日	1回	1日	590人	
	【企画公演】復興と文化V 講演、復曲能「阿古屋松」	3月23日	1回	1日	590人	
	解説、狂言「柿山伏」、能「小鍛冶」	6月20日～24日	11回	5日	6,395人	
	能楽(計51公演)合計：定例公演22、普及公演11、企画公演17、鑑賞教室1				61回	55日

6 組踊等沖繩伝統芸能(目標入場者数：16,683人)／26年度計画目標 17,753人

区分	公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
定期公演	組踊「銘苺子」	大劇場	4月23日	1回	1日	339人
	三線音楽「女性音楽家の会」	〃	5月14日	1回	1日	402人
	琉球舞踊「男性舞踊家の会」	〃	5月28日	1回	1日	495人
	琉球舞踊「古典女七踊」	〃	6月18日	1回	1日	367人
	沖繩芝居 史劇「大新城忠勇伝」	〃	7月9日～10日	2回	2日	744人
	組踊「大城崩」	〃	7月16日	1回	1日	339人
	琉球舞踊「琉球舞踊特選会」	〃	9月10日	1回	1日	464人
	組踊「姉妹敵討」	〃	9月24日	1回	1日	339人
	組踊「雪払い」	〃	10月22日	1回	1日	339人
	琉球舞踊「創作舞踊の会」	〃	12月10日	1回	1日	402人
	組踊「仲村渠真嘉戸」	〃	12月17日	1回	1日	339人
	琉球舞踊「新春琉球名人選」	〃	1月14日～15日	2回	2日	742人
	民俗芸能「沖繩本島民俗芸能祭」	〃	1月22日	1回	1日	425人
	組踊「執心鐘入」	〃	1月28日	1回	1日	339人
	沖繩芝居 喜劇「米を作る家」「こわれた南蛮囊」	〃	2月4日～5日	2回	2日	744人
	組踊「父子忠臣の巻」	〃	2月25日	1回	1日	339人
	琉球舞踊「琉球舞踊鑑賞会」	〃	3月11日	1回	1日	433人

企画公演	話芸	〃	6月25日	1回	1日	402人
	新作組踊「玉露の妖精」	〃	8月27日	1回	1日	367人
	ゆらていく遊ば	〃	10月8日	1回	1日	453人
	我が住むは五大州Ⅱ	〃	10月29日～30日	2回	2日	813人
	国立劇場寄席	〃	11月12日	1回	1日	433人
	アジア・太平洋地域の芸能「胡弓」	〃	11月26日	1回	1日	371人
	新作組踊「さかさま『執心鐘入』」	〃	3月25日	1回	1日	396人
研究公演	「執心鐘入」にまつわる芸能	〃	2月19日	1回	1日	402人
普及公演	琉球舞踊鑑賞教室	〃	4月16日	1回	1日	464人
	社会人のための組踊鑑賞教室「二童敵討」	〃	6月11日	1回	1日	424人
	親子のための組踊鑑賞教室「万歳敵討」	〃	8月6日	1回	1日	424人
	沖縄芝居鑑賞教室	〃	9月15日～17日	3回	3日	1,379人
	組踊鑑賞教室「執心鐘入」	〃	11月16日～19日	6回	4日	2,764人
組踊等沖縄伝統芸能(30公演)合計：定期公演17、企画公演7、研究公演1、普及公演5				41回	39日	16,683人

[別表2] 現代舞台芸術の公演に関する計画

1 オペラ(目標入場者数：74,300人)／27年度計画目標75,400人

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
「ウェルテル」(新制作)	オペラ劇場	4月3日～16日	5回	5日	6,100人
「アンドレア・シェニエ」	〃	4月14日～23日	4回	4日	5,000人
「ローエングリン」	〃	5月23日～6月4日	5回	5日	7,700人
「夕鶴」	〃	7月1日～3日	3回	3日	3,900人
楽劇「ニーベルングの指環」第1日 「ワルキューレ」(新制作)	〃	10月2日～18日	6回	6日	8,700人
「ラ・ボエーム」	〃	11月17日～30日	5回	5日	6,900人
「セビリアの理髪師」	〃	11月27日～12月10日	5回	5日	6,400人
「カルメン」	〃	1月19日～31日	5回	5日	7,400人
「蝶々夫人」	〃	2月2日～11日	4回	4日	5,500人
「ルチア」(新制作)	〃	3月14日～26日	5回	5日	7,300人
高校生のためのオペラ鑑賞教室「夕鶴」	〃	7月9日～15日	6回	6日	9,400人
オペラ(11公演)合計			53回	53日	74,300人

2 バレエ(目標入場者数：48,500人)／27年度計画目標47,400人

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
「ドン・キホーテ」	オペラ劇場	5月3日～8日	5回	5日	6,000人
「アラジン」	〃	6月11日～19日	5回	5日	7,600人
「ロメオとジュリエット」	〃	10月29日～11月5日	6回	6日	8,700人
「シンデレラ」	〃	12月17日～25日	7回	6日	10,100人
ヴァレンティン・バレエ	〃	2月17日～18日	2回	2日	2,600人
「コッペリア」	〃	2月24日～26日	4回	3日	4,500人

こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」(新制作)	〃	7月21日～24日	8回	4日	9,000人
バレエ(7公演)合計			37回	31日	48,500人

3 現代舞踊(目標入場者数：4,000人)／27年度計画目標5,950人

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
高谷史郎(ダムタイプ)「CHROMA」	中劇場	5月21日～22日	2回	2日	1,050人
JAPON dance project 2016	〃	8月27日～28日	2回	2日	1,100人
DANCE to the Future 2016 Autumn	小劇場	11月18日～20日	3回	3日	750人
中村恵恵×新国立劇場バレエ団 「ペートル・ヴェン・ソナタ」	中劇場	3月18日～19日	2回	2日	1,100人
現代舞踊(4公演)合計			9回	9日	4,000人

4 演劇(目標入場者数：51,700人)／27年度計画目標56,900人

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
鄭義信 三部作 Vol. 2 「たとえば野に咲く花のように」	小劇場	4月6日～24日	20回	17日	4,400人
鄭義信 三部作 Vol. 3 「パーマ屋スマレ」	〃	5月17日～6月5日	20回	18日	4,600人
「あわれ彼女は娼婦」	中劇場	6月8日～26日	20回	17日	13,300人
「かぐや姫伝説」より 「月・こうこう、風・そうそう」(新作)	小劇場	7月13日～31日	18回	17日	4,100人
「フリック」(日本初演)	〃	10月	18回	17日	4,300人
「ヘンリー四世 第一部」	中劇場	11月～12月	15回	25日	8,300人
「ヘンリー四世 第二部」	〃	11月～12月	15回		8,300人
かさなる視点—日本戯曲の力— Vol. 1 「白蟻の巣」	小劇場	3月	18回	17日	4,400人
演劇(8公演)合計			144回	128日	51,700人

[別表3] 主に青少年を対象とした公演に関する計画(再掲)

区分	公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、「新皿屋舗月雨傘」	本館大劇場	6月2日～24日	46回	23日	55,000人
	7月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、「卅三間堂棟由来」	〃	7月3日～24日	44回	22日	60,900人
文楽	5月文楽鑑賞教室 解説「文楽の魅力」、「曾根崎心中」	本館小劇場	5月11日～23日	24回	13日	13,000人
	6月文楽鑑賞教室「二人三番叟」、解説「文楽へようこそ」、「夏祭浪花鑑」	文楽劇場	6月3日～16日	28回	14日	18,500人
能楽	6月能楽鑑賞教室 解説、狂言「柿山伏」、能「小鍛冶」	能楽堂	6月20日～24日	11回	5日	6,395人
組踊等	沖縄芝居鑑賞教室	国立劇場おきなわ大劇場	9月15日～17日	3回	3日	1,379人
	組踊鑑賞教室「執心鐘入」	〃	11月16日～19日	6回	4日	2,764人
伝統芸能(7公演)合計			162回	84日	157,938人	
オペラ	高校生のためのオペラ鑑賞教室「夕鶴」	オペラ劇場	7月9日～15日	6回	6日	9,400人
バレエ	こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」(新制作)	〃	7月21日～24日	8回	4日	9,000人
現代舞台芸術(2公演)合計			14回	10日	18,400人	

※ すべて別表1及び別表2の公演の中で実施するものである。

[別表 4] 社会人や親子等を対象とした入門企画・公演に関する計画(再掲)

区分	公演名	劇場	期間	回数	日数
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」	本館大劇場	6月10日	1回	1日
〃	6月歌舞伎鑑賞教室「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」	〃	6月17日	2回	1日
〃	7月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」	〃	7月8日・15日	2回	2日
〃	7月歌舞伎鑑賞教室 「親子で楽しむ歌舞伎教室」	〃	7月18日～24日	14回	7日
文楽	5月文楽鑑賞教室 「社会人のための文楽鑑賞教室」	本館小劇場	5月13日・16日・20日	3回	3日
〃	5月文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKU－外国人のための文楽鑑賞教室－」	〃	5月23日	1回	1日
〃	6月文楽鑑賞教室 「社会人のための文楽入門」	文楽劇場	6月7日・13日	2回	2日
〃	6月文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKU－BUNRAKU for Beginners－」	〃	6月12日	1回	1日
〃	夏休み文楽特別公演（第一部親子劇場）	〃	7月23日～8月9日	18回	18日
舞踊・邦楽等	6月 第5回伝統芸能の魅力「雅楽を楽しむ」/「日本舞踊を楽しむ」	本館小劇場	6月4日	2回	1日
〃	6月 第6回伝統芸能の魅力「声明を楽しむ」/「邦楽を楽しむ」	〃	6月11日	2回	1日
大衆芸能	【特別企画公演】親子で楽しむ演芸会	演芸場	7月23日	1回	1日
能楽	6月能楽鑑賞教室「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」	能楽堂	6月24日	1回	1日
〃	【企画公演】働く貴方に贈る	〃	8月4日	1回	1日
〃	【企画公演】夏休み親子で楽しむ能の会	〃	8月6日	1回	1日
〃	【企画公演】夏休み親子で楽しむ狂言の会	〃	8月27日	1回	1日
組踊等	琉球舞踊鑑賞教室	国立劇場おきなわ大劇場	4月16日	1回	1日
〃	社会人のための組踊鑑賞教室「二童敵討」	〃	6月11日	1回	1日
〃	親子のための組踊鑑賞教室「万歳敵討」	〃	8月6日	1回	1日
〃	組踊鑑賞教室「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」	〃	11月19日	1回	1日

※ すべて別表1及び別表2の公演の中で実施するものである。

[別表 5] 国、地方公共団体、芸術団体、企業等との連携協力に関する計画

区分	公演名	劇場	期間	連携協力先等
受託	文化庁芸術祭祝典	本館大劇場	10月1日(1回)	文化庁芸術祭執行委員会
〃	国立劇場おきなわ連携事業	沖縄県内公立文化施設	2回程度	調整中
〃	沖縄県文化観光戦略推進事業(国立劇場おきなわ県外公演)	京都芸術劇場春秋座、他	6月5日(1回)、他	沖縄県、京都造形芸術大学舞台芸術研究センター、他
〃	沖縄県文化観光戦略推進事業(マグネットコンテンツ育成事業)	国立劇場おきなわ小劇場	11月予定	沖縄県
共催	沖縄県伝統芸能公演	国立劇場おきなわ小劇場	6月～3月(15回予定)	(公財) 沖縄県文化振興会

[別表 6] 全国各地の文化施設等における公演に関する計画

区分	公演名	劇場	期間(回数)	連携協力先等
共催	6月歌舞伎鑑賞教室静岡公演	静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ	6月26日(2回)	財団法人静岡県文化財団/静岡県、他
〃	7月歌舞伎鑑賞教室神奈川公演	神奈川県立青少年センター	7月26日～27日(4回)	かながわ伝統芸能祭実行委員会
〃	国立劇場おきなわ県外公演(沖縄県文化観光戦略推進事業)	京都芸術劇場春秋座、他	6月5日(1回)、他	沖縄県、京都造形芸術大学舞台芸術研究センター、他
〃	高校生のためのオペラ鑑賞教室(関西公演)「フィガロの結婚」	ロームシアター 京都	10月26日・28日(2回)	京都市、(公財)京都市音楽芸術文化振興財団
受託	演劇「焼肉ドラゴン」	兵庫県立芸術文化センター	4月8日～9日(2回)	兵庫県、兵庫県立芸術文化センター
〃	演劇「たとえば野に咲く花のように」	兵庫県立芸術文化センター	4月28日～29日(2回)	兵庫県、兵庫県立芸術文化センター
〃	演劇「パーマ屋スマイル」	北九州芸術劇場	6月11日～12日(2回)	(公財)北九州市芸術文化振興財団
〃	〃	兵庫県立芸術文化センター	6月17日～18日(2回)	兵庫県、兵庫県立芸術文化センター
〃	こどものためのバレエ劇場「白鳥の湖」	サンポートホール 高松	9月19日(1回)	(公財)高松市文化芸術財団
〃	バレエ「シンデレラ」	オーバードホール	1月8日(1回)	(公財)富山市民文化事業団
〃	〃	びわ湖ホール	1月14日(1回)	(公財)びわ湖ホール

[別表 7] 国際文化交流公演等に関する計画

公演等名称	実施場所	期間(回数)	連携協力先等
6月歌舞伎鑑賞教室「Discover KABUKI－外国人のための歌舞伎鑑賞教室－」	本館大劇場	6月17日(2回)	
5月文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKU－外国人のための文楽鑑賞教室－」	本館小劇場	5月23日(1回)	
6月文楽鑑賞教室「Discover BUNRAKU－BUNRAKU for Beginners－」	文楽劇場	6月12日(1回)	
6月能楽鑑賞教室「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover NOH & KYOGEN」	能楽堂	6月24日(1回)	
組踊鑑賞教室「外国人のための組踊鑑賞教室 Discover KUMIODORI」	国立劇場おきなわ大劇場	11月19日(1回)	
アジア・太平洋地域の芸能「胡弓」	〃	11月26日(1回)	文化庁芸術祭執行委員会

[別表 8] 展示に関する計画

(目標来場者数：185,290人) / 27年度計画目標 186,020人

展示名称	会場	期間	日数	目標 来場者数
企画展示「新派の華一面影と今日ー」	伝統芸能情報館 資料展示室	4/1～4/17	17日	1,530人
企画展示「歌舞伎・文楽入門」(仮称)		4/29～8/21	114日	16,188人
企画展示「国立劇場50周年記念」前編(仮称)		9/3～11/27	86日	12,075人
企画展示「国立劇場50周年記念」後編(仮称)		12/2～3/27	111日	15,207人
伝統芸能情報館 小計		4回	328日	45,000人
演芸資料展「昭和・平成の寄席」	演芸場 資料展示室	4/1～7/25	98日	12,593人
演芸資料展「未定」		8/1～11/23	98日	12,466人
演芸資料展「未定」		12/1～3/25	86日	10,941人
演芸場資料展示室 小計		3回	282日	36,000人
収蔵資料展	能楽堂 資料展示室	4/15～6/1	41日	4,550人
入門展「能楽入門」		6/11～8/6	49日	6,690人
特別展「宇和島伊達家の能楽」		10/5～12/7	55日	8,800人
企画展「能絵の世界」		1/4～3/17	63日	7,000人
能楽堂資料展示室 小計		4回	208日	27,040人
常設展示「文楽入門」	文楽劇場 資料展示室	4/2～6/19	79日	19,680人
企画展示「未定」		7/23～9/10	50日	16,620人
企画展示「未定」		9/21～11/20	61日	13,070人
常設展示「文楽入門」		1/3～2/28	57日	15,080人
文楽劇場資料展示室 小計		4回	247日	64,450人
企画展「琉球舞踊」	国立劇場おきなわ 資料展示室	4/16～6/26	72日	3,096人
企画展「沖縄芝居」		7/9～9/18	72日	3,096人
企画展「組踊入門」		10/8～12/18	72日	3,096人
企画展「民俗芸能」		1/14～3/19	65日	2,712人
国立劇場おきなわ資料展示室 小計		4回	281日	12,000人
伝統芸能分野 合計		19回		184,490人
常設展「オペラハウスの感動」	舞台美術センター 資料館	通年	260日	800人
企画展「舞台のデザイン ～模型で見る新国立劇場のオペラ・バレエ～」①		4～11月(予定)		
企画展「舞台のデザイン ～模型で見る新国立劇場のオペラ・バレエ～」②		11～3月(予定)		
公演関係展示(シェイクスピア関連展示)	新国立劇場内	11月～12月	未定	-
現代舞台芸術特別展示		1月	未定	-
公演関係展示(その他)		随時	-	-
舞台衣裳展示		通年	-	-
公演記録写真展示		通年	-	-

※ 4/1から開催する、伝統芸能情報館資料展示室の企画展示「新派の華」及び舞台美術センター資料館の企画展「舞台のデザイン」①は、27年度から継続して開催。

※ 上記のほか、国立劇場開場50周年記念事業の一環として、三井記念美術館において特別展「日本の伝統芸能展」を三井記念美術館及びNHKプロモーションとの共催により開催する予定(平成28年11月26日～平成29年1月28日)。また、本館劇場ロビーにて公演ポスター展を実施予定。

[別表 9] 公開講座等に関する計画

(目標参加者数：8,036人) / 27年度計画目標 7,430人

講座等名称	会場	実施時期	回数	目標 来場者数
伝統芸能サロン	伝統芸能情報館レクチャー室	隔月実施	6回	570人
公演記録鑑賞会	〃	毎月実施	14回	1,400人
能楽鑑賞講座	能楽堂大講義室	毎月実施	12回	1,800人
能楽特別講座	〃	未定	1回	100人
公演記録鑑賞会	文楽劇場小ホール	毎月実施	12回	1,500人
伝統芸能講座	〃	未定	1回	70人
公演記録鑑賞会	国立劇場おきなわ小劇場	四半期毎	4回	480人
沖縄伝統芸能公開講座	国立劇場おきなわ 会議室・交流プラザ室	四半期毎	4回	180人
伝統芸能分野 合計			54回	6,100人
現代舞台芸術公開講座	舞台美術センター資料館	未定	1回	150人
DVD 現代舞台芸術鑑賞会	〃	毎月実施	12回	70人
現代舞台芸術公開講座	新国立劇場内	毎月実施	14回	1,500人
DVD 現代舞台芸術鑑賞会	新国立劇場情報センター	毎月実施	12回	216人
現代舞台芸術分野 合計			39回	1,936人
総合計			93回	8,036人

別紙1 予算(年度計画の予算)

平成28年度(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

(単位：百万円)

区 分	基金事業	公演事業	養成研修事業	調査研究事業	法人共通	合計
収 入						
運営費交付金	181	6,026	704	819	2,322	10,053
文化芸術振興費補助金	3,752					3,752
施設整備費補助金		1,232	13	7	136	1,388
助成事業収入	1,145					1,145
うち基金運用収入	1,129					1,129
うち寄附金収入	1					1
うちその他の収入	14					14
国立劇場事業収入		3,011	31	9		3,051
公演事業収入		3,011				3,011
うち公演事業収入		3,002				3,002
うち雑収入		9				9
研修事業収入			31			31
調査研究事業収入				9		9
国立劇場おきなわ事業収入		1				1
新国立劇場事業収入		231				231
受託事業収入						-
一般管理収入					17	17
計	5,078	10,501	748	836	2,475	19,637
支 出						
文化芸術振興費	3,752					3,752
施設整備費		1,232	13	7	136	1,388
助成事業費	1,475					1,475
うち人件費	191					191
うち物件費	1,284					1,284
国立劇場事業費		6,179	419	715		7,313
公演事業費		6,179				6,179
うち人件費		1,595				1,595
うち物件費		4,583				4,583

研修事業費			419			419
うち人件費			123			123
うち物件費			296			296
調査研究事業費				715		715
うち人件費				226		226
うち物件費				489		489
国立劇場おきなわ事業費		452	49	69	98	669
新国立劇場事業費		2,745	266	45	1,076	4,133
受託事業費						-
一般管理費					1,164	1,164
うち人件費					880	880
うち物件費					284	284
計	5,227	10,608	748	836	2,475	19,893

(注) 四捨五入により単位未満を処理しているため、合計が一致しない場合があります。

別紙2 収支計画

平成28年度(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

(単位：百万円)

区 分	基金事業	公演事業	養成研修事業	調査研究事業	法人共通	合計
費用の部						
基金助成事業費	5,227					5,227
うち人件費	191					191
うち物件費	5,036					5,036
うち文化芸術振興費	3,752					3,752
うち芸術文化振興基金助成費	1,284					1,284
国立劇場公演等事業費		6,238	404	678	98	7,419
公演事業費		5,805				5,805
うち人件費		1,595				1,595
うち物件費		4,209				4,209
研修事業費			355			355
うち人件費			123			123
うち物件費			232			232
調査研究事業費				609		609
うち人件費				226		226
うち物件費				383		383
国立劇場おきなわ公演等事業費		433	49	69	98	650
受託事業費						-
新国立劇場公演等事業費		2,441	266	45	1,076	3,829
一般管理費					1,124	1,124
うち人件費					880	880
うち物件費					244	244
減価償却費		817	9	32	43	900
計	5,227	9,496	680	754	2,342	18,499
収益の部						
基金助成事業収入	5,078					5,078
うち運営費交付金収益	181					181
うち文化芸術振興費補助金収益	3,752					3,752
うち基金運用収入	1,129					1,129

うち寄附金収入	1					1
うちその他の収入	14					14
国立劇場公演等事業収入		6,186	404	678	98	7,366
公演事業収入		5,752				5,752
うち運営費交付金収益		2,741				2,741
うち雑収入		9				9
うち公演事業収入		3,002				3,002
研修事業収入			355			355
うち運営費交付金収益			324			324
うち雑収入			31			31
調査研究事業収入				609		609
うち運営費交付金収益				600		600
うち雑収入				9		9
国立劇場おきなわ公演等事業収入		433	49	69	98	650
うち運営費交付金収益		432	49	69	98	649
うち国立劇場おきなわ事業収入		1				1
受託事業収入						-
新国立劇場公演等事業収入		2,441	266	45	1,076	3,829
うち運営費交付金収益		2,210	266	45	1,076	3,597
うち新国立劇場事業収入		231				231
一般管理収入					1,124	1,124
うち運営費交付金収益					1,107	1,107
うち雑収入					17	17
資産見返運営費交付金戻入		817	9	32	43	900
計	5,078	9,443	680	754	2,342	18,297
純利益	△149	△53				△202
積立金取崩額	149	53				202
総利益						-

(注) 四捨五入により単位未満を処理しているため、合計が一致しない場合があります。

別紙3 資金計画

平成28年度(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

(単位：百万円)

区 分	基金事業	公演事業	養成研修事業	調査研究事業	法人共通	合計
資金支出	10,155	10,608	748	836	4,503	26,849
業務活動による支出	6,227	8,679	671	722	2,299	18,598
投資活動による支出		1,929	77	113	176	2,295
翌年度への繰越金	3,927				2,028	5,956
資金収入	10,155	10,608	748	836	4,503	26,849
業務活動による収入	6,078	9,269	735	829	2,339	19,250
運営費交付金による収入	181	6,026	704	819	2,322	10,053
文化芸術振興費補助金による収入	3,752					3,752
公演事業による収入		3,234				3,234
公演受託事業による収入						-
基金運用による収入	1,129					1,129
その他の収入	1,015	9	31	9	17	1,081
投資活動による収入		1,232	13	7	136	1,388
施設整備費補助金による収入		1,232	13	7	136	1,388
その他の収入						-
前年度よりの繰越金	4,077	107			2,028	6,212

別紙4 施設・設備に関する計画

平成28年度(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

(単位：百万円)

区 分	予定額	財源
国立劇場等大規模改修工事関連調査等	181	施設整備費補助金
国立文楽劇場舞台吊物機構更新工事等	104	施設整備費補助金
国立能楽堂基幹施設整備	165	施設整備費補助金
国立文楽劇場基幹施設整備	34	施設整備費補助金
国立劇場おきなわ基幹施設整備	242	施設整備費補助金
新国立劇場基幹施設整備	323	施設整備費補助金
国立文楽劇場舞台機構設備整備工事	102	施設整備費補助金
新国立劇場舞台機構設備整備工事	32	施設整備費補助金
新国立劇場舞台照明設備整備工事	159	施設整備費補助金
国立劇場おきなわ舞台照明設備整備工事	46	施設整備費補助金